

# 飯田市議会要覧

平成 29 年 6 月

飯田市議会事務局

# 飯田市市民憲章

わたくしたちの飯田市は、美しい自然に恵まれ、長い歴史と尊い伝統文化に  
つまれた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進してい  
ます。

わたくしたちは、このまちの市民としての誇りをもち、明るく健康で豊かな  
市民生活を築くために、全市民のねがいをこめてこの憲章をかかげ、たがいに  
はげましあい、手をとりあって進みます。

わたくしたちは

- 1 自然を大切にし、美しい環境の飯田市をつくります。
- 2 心身をきたえ、健康で明るい飯田市をつくります。
- 3 伝統を生かし、文化の香り高い飯田市をつくります。
- 4 善意を広め、思いやりの心で幸せな飯田市をつくります。
- 5 楽しく働き、豊かな産業の飯田市をつくります。

(昭和52年6月21日 制定)

---

市章 ～市章の象形～  
平仮名「い」を組み合わせ  
「田」を形どり「いいだ」  
を象形する。



# 目次

I	沿革	
1	沿革	1
2	人口と世帯の推移	3
3	飯田市自治基本条例	4
II	市議会の構成	
1	構成	10
2	議員名簿	12
3	正副議長及び各委員会委員名簿	13
4	監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿	13
5	議会選出の各種委員等	14
6	各会派及び各会派の代表者氏名	16
III	市議会の活動	
1	市議会の活動状況	
	(1) 市議会招集回数 10 か年比較表	17
	(2) 議会開会状況	17
	(3) 議会審議状況	18
2	報酬・その他	19
3	定期刊行物	20
4	市議会会議録	20
5	議会事務局の事務分掌	21
IV	飯田市の概要	
1	平成 29 年度飯田市各会計及び一般会計当初予算の概要	22
2	飯田市行政組織機構図	30
3	職員の定数	32

## 【 資料編 】

V	市議会のあゆみ	
1	市議会議員選挙執行状況	33
2	歴代市議会議員	
(1)	歴代議長	34
(2)	歴代副議長	35
(3)	歴代総務常任委員会正副委員長	36
(4)	歴代社会文教常任委員会正副委員長	37
(5)	歴代産業建設常任委員会正副委員長	38
(6)	歴代建設環境常任委員会正副委員長	39
(7)	歴代議会運営委員会正副委員長	40
(8)	歴代監査委員（議会選出）	41
(9)	歴代事務局長	42
(10)	歴代市議会議員	43
3	1年間の記録	
(1)	付議事件及び議決結果一覧表	50
(2)	議会において執行した選挙・選任等	61
(3)	委員会活動開催状況	61
(4)	請願陳情	62
(5)	定例会の質問事項	64
(6)	本会議等傍聴状況	94
4	市議会のあゆみ（昭和46年から）	95
VI	参考資料	
1	都市宣言	110
2	市制提携に関する覚書	114
3	友好都市締結	114
4	飯田市の主要年表	116

# I 沿革

## 1-1 飯田市の沿革

飯田市は、長野県の最南端に位置する伊那谷の中心都市である。諏訪湖に源を發し、伊那谷を南下して太平洋に注ぐ天竜川の全長のほぼ中央に位置し、東に南アルプス国立公園、西に中央アルプス県立公園をひかえ、豊かな自然、優れた景観及び四季に富んだ暮らしやすい温暖な気候に恵まれている。伊那盆地の河岸段丘に位置する市街地から南アルプスの山懐に抱かれる遠山郷までにわたる658.66平方キロメートルの市域に103,023人（平成29年4月1日現在）の人口を擁し、地域に根ざした特色ある文化や産業活動が幅広く展開されている。

現在の飯田市街は飯田城の城下町であり、街並みの様相から「小京都」と呼ばれてきたが、昭和22年4月に市街地の3分の2を焼失する大火に見舞われた。以後面目を改め、防火モデル都市、さらに近年は環境モデル都市として注目されている。

近世の太宰春台、近代の菱田春草、河竹繁俊、日夏耿之介等学芸の士の生誕地であり、りんご並木のまち、人形劇のまちとして親しまれ、名勝天龍峡があり、豪快な天竜川下りが楽しめるほか、遠山郷の霜月まつり、各地に伝わる獅子舞など、伝統文化が豊富な地である。

昭和12年4月1日に飯田町と上飯田町が合併して市制を施行、以来、15町村と合併し、今日の飯田市の市域を成している。



「伊那谷の夜明け」とまで言われ、多くの市民が期待していた中央自動車道西宮線は、昭和50年8月23日に中津川一駒ヶ根間が開通し、昭和57年11月10日に全線開通となり、飯田地方と中京圏、首都圏との経済、文化の交流が飛躍的に拡大した。

また、東海地域と飯田を結ぶ三遠南信自動車道においては、平成6年3月29日に矢筈トンネルが、平成20年4月13日には飯田山本IC一天龍峡IC間が開通し、その後も全線開通を目指しての建設が進行している。

さらに、平成39年開業予定のリニア中央新幹線については、平成25年9月にルート及び長野県駅が飯田市上郷飯沼に設置される計画が公表された。三遠南信地域連携ビジョン等ともあいまって、激的に近くなる首都圏と中京圏との連結地域として本市の果たす役割が期待される。

## 1-2 市議会の沿革

飯田市議会は、昭和31年に1市7か村を廃し、その区域をもって市制を施行したことに伴い、旧市村の議員が引き続き市議会議員（総員149人）として在任、同年10月8日に臨時会が開かれ、初代議長に代田源六郎氏、初代副議長に伊藤清氏が選出された。

市議会議員の定数は、昭和32年3月12日の定例会において「飯田市議会議員の選挙区及び各選挙区における議員の数に関する条例」（小選挙区制）を可決、以後、議員定数の見直しと合併による増員などの変遷を経てきた。

平成19年5月、新しい時代にふさわしい地方議会の在り方を模索する中で、市民にとってわかりやすく開かれた議会を目指し「議会改革検討委員会」を設置した。委員会では、「議員の在り方の変革を目指して」ほか5項目を議論する中、平成21年4月19日執行の議員選挙から定数を29人から23人に削減し、常任委員会の所属についても複数所属とし、一人の議員が二つの常任委員会に所属することとした。平成25年4月21日執行の議員選挙後は委員会活動をさらに充実させるため、議員は一つの常任委員会に所属することとした。

飯田市議会の近年の取組として最も注目されるのは、「飯田市自治基本条例」の制定である（平成19年4月施行）。その端緒は、平成15年5月、政策立案型議会への転換を目指した議会議案検討委員会の設置にある。翌16年5月20日には、市民を委員として「わがまちの“憲法”を考える市民会議」が発足、同会議は条例の制定に向けた研究を行い、同年12月28日にその成果を最終答申書にまとめ、議長に提出した。市議会は翌17年5月に自治基本条例特別委員会を設置し、2度にわたる地区懇談会及び議会によるパブリックコメントの実施を経た後、自治基本条例の案を平成18年9月21日に議会議案として提案し、全会一致で可決した。

この条例の制定を契機に、平成20年度から「議会による行政評価」がスタートし、開かれた議会を実現するための「議会活動報告会」も同年度から開催され、「議会報告会」と名称変更して継続している。平成23年1月から、条例中の「議会の役割」について議会による検証が開始され、平成24年3月には、これまでの検討を踏まえ「議会改革・運営ビジョン」を取りまとめ、常設の機関として「議会改革推進会議」を設置した。議会改革推進会議では、1年をかけ課題として整理した29項目すべてを検討し、平成25年3月に「議会改革・運営ビジョン実現に向けた取組み（まとめ）」として取りまとめた。

その後、平成25年4月には議会報告会を含む広報広聴活動を充実させるため、「広報広聴委員会」を設置している。



人形劇フェスタのイメージキャラクター「ぼお」です。太り気味の妖精でリンゴ並木に住んでいるそうです。

## 2 人口と世帯の推移

(単位：世帯・人・km<sup>2</sup>)

年 月	世帯数	人口	男	女	面積
昭和31. 9	14,627	69,235			199.78
昭和36. 3	16,018	69,538			206.07
昭和39. 3	19,179	79,541			293.03
昭和54. 4	20,870	77,860	36,794	41,066	〃
昭和59. 4	21,872	78,665	37,331	41,334	〃
昭和60. 4	26,458	92,132	43,776	48,356	299.23
昭和61. 4	26,469	92,096	43,709	48,387	〃
昭和62. 4	26,573	92,179	43,783	48,396	〃
昭和63. 4	26,709	92,050	43,810	48,240	〃
平成 1. 4	26,824	91,846	43,778	48,068	〃
平成 2. 4	27,033	91,806	43,721	48,085	298.90
平成 3. 4	27,277	91,723	43,739	47,984	〃
平成 4. 4	27,467	91,612	43,695	47,917	〃
平成 5. 4	27,732	91,684	43,819	47,865	〃
平成 6. 4	32,507	106,104	50,754	55,350	325.35
平成 7. 4	32,829	106,233	50,841	55,392	〃
平成 8. 4	33,183	106,472	50,991	55,481	〃
平成 9. 4	33,577	106,495	50,971	55,524	〃
平成10. 4	33,975	106,695	51,142	55,553	〃
平成11. 4	34,233	106,464	51,093	55,371	〃
平成12. 4	34,519	106,479	51,135	55,344	〃
平成13. 4	34,870	106,456	51,093	55,363	〃
平成14. 4	35,056	106,161	50,947	55,214	〃
平成15. 4	35,382	106,078	50,893	55,185	〃
平成16. 4	35,656	105,846	50,728	55,118	〃
平成17. 4	35,807	105,411	50,511	54,900	〃
平成18. 4	37,190	107,593	51,640	55,953	658.76
平成19. 4	37,395	106,993	51,253	55,740	〃
平成20. 4	37,787	106,770	51,138	55,632	〃
平成21. 4	37,682	105,867	50,693	55,174	〃
平成22. 4	37,801	105,372	50,407	54,965	658.73
平成23. 4	37,886	104,771	50,146	54,625	〃
平成24. 4	38,087	104,291	49,931	54,360	〃
平成25. 4	39,040	105,750	50,445	55,305	〃
平成26. 4	39,108	104,954	50,076	54,878	〃
平成27. 4	39,358	104,284	49,884	54,400	658.66
平成28. 4	39,656	103,712	49,623	54,089	〃
平成29. 4	39,711	103,023	49,343	53,680	〃

※平成25.4以後は住民基本台帳法の改正により外国人を含む数字

### 特記事項

- ・昭和31年 9月 : 飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村及び下久堅村の1市7か村を合併
- ・昭和36年 3月 : 川路村を編入合併
- ・昭和39年 3月 : 上久堅村、千代村及び龍江村を編入合併
- ・昭和59年12月 : 鼎町を編入合併
- ・平成 5年 7月 : 上郷町を編入合併
- ・平成17年10月 : 上村及び南信濃村を編入合併
- ・平成22年 2月 : 天龍村との境界を修正
- ・平成26年10月 : 国土地理院が、計測方法を変更したことによる面積の修正

# 飯田市自治基本条例

平成18年9月21日条例第40号

一部改正：平成23年11月30日条例第25号

一部改正：平成25年3月25日条例第2号

## 目次

### 前文

第1章 総則(第1条—第3条)

第2章 自治の基本原則(第4条—第7条)

第3章 市民等の役割(第8条—第10条)

第4章 地域自治(第11条—第15条)

第5章 市政運営(第16条—第21条)

第6章 市議会の役割(第22条—第27条)

第7章 市の執行機関の役割(第28条—第34条)

第8章 住民投票(第35条)

第9章 条例の見直し(第36条)

### 附則

わたくしたちの住む飯田市は、美しい自然に恵まれ、地域の風土に根付いた伝統や文化に支えられた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進しています。

わたくしたちは、これまで互いに助け合い協力し、特色のある地域活動やまちづくりを実践してきました。

わたくしたちは、分権型社会や少子高齢社会の到来により、社会構造が大きく変化する中で、まちづくりに進んで参加する「ムトス」の精神を、次の時代へ確実に引き継がなくてはなりません。

わたくしたちは、飯田市市民憲章にうたわれた市民としての心構えと理念を尊重し、協働して、市民が主体の住みよいまちづくりを推進するため、ここに、新たな自治の仕組みを定める飯田市自治基本条例を制定します。

## 第1章 総則

### (目的)

第1条 この条例は、本市の自治の基本的な原則及びまちづくりに関する市民、市議会及び市の執行機関の役割を明らかにするとともに、市政運営についての基本的な指針を定めることにより、市民が主体のまちづくりを協働して推進することを目的とします。

### (条例の位置付け)

第2条 この条例は、自治及び市政に関する基本的な原則を定めた最高規範であり、市民及び市は、この条例を誠実に遵守するものとします。

2 市は、条例、規則等を解釈し、又は制定、改廃する場合には、この条例の趣旨を尊重し、この条例に定める事項との整合性を図ります。

3 市は、基本構想等の計画の策定、政策の立案及び実施に当たっては、この条例の趣旨を尊重し、この条例に定める事項との整合性を図ります。



#### (用語の定義)

第3条 この条例において使用する用語の意義は、次のとおりとします。

- (1) 市民 市内に住所を有する人(以下「住民」といいます。)、市内で働き、若しくは学ぶ人又は市内において活動する人若しくは団体をいいます。
- (2) 市民組織 市民により自主的に形成され、まちづくりのために、互いに協力し多様な活動を行う組織をいいます。
- (3) 事業者 市内で、事業を営む個人及び法人その他の団体をいいます。
- (4) 市 市議会及び市の執行機関で構成する地方公共団体をいいます。
- (5) 市の執行機関 市長、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、農業委員会及び固定資産評価審査委員会をいいます。
- (6) まちづくり 「ムトス」の言葉に象徴される、まちを活気のある明るく住みよくするための事業や活動を総称します。
- (7) 自治 市民が市政に参加し、その意思と責任に基づき市政が行われることのほか、地域の公共的活動を自ら担い、主体的にまちづくりを推進することをいいます。
- (8) 協働 まちづくりのために、市民と市とが情報を共有し、それぞれの役割を担いながら対等の立場で協力し、共に考え行動することをいいます。
- (9) 基本構想 本市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本となる考え方をいいます。

### 第2章 自治の基本原則

#### (自治の基本原則)

第4条 市民と市とは、この章に掲げる自治の原則に基づき、協働して自治を推進するものとします。

#### (市民主体の原則)

第5条 まちづくりは、市民一人ひとりが主体となり、市民相互及び市と協調することにより推進します。

2 市民は、地域社会の一員として尊重され、その個性や能力を十分発揮することができます。

#### (情報共有の原則)

第6条 まちづくりは、市政についての情報が市民に公開され、市民が市政について意見を提出し、その情報や意見を市民と市とが共有することにより推進します。

#### (参加協働の原則)

第7条 まちづくりは、市民に市政への多様な参加の場と機会とが保障され、市民と市とが適切に役割分担し、協働することにより推進します。

### 第3章 市民等の役割

#### (市民の権利)

第8条 市民は、まちづくりの主体として、まちづくりに参加する権利を有します。

2 市民は、市政に関する計画や政策の立案段階から参加する権利を有し、意見を述べるすることができます。

- 3 市民は、市政についての情報を知る権利を有し、市に対し市が保有する情報の公開を求めることができます。

#### (市民の役割)

第9条 市民は、まちづくりの主体として、市と協働し、地域社会の発展に寄与するよう努めます。

- 2 市民は、互いの活動を尊重し、自らの発言と行動に責任を持つものとします。

#### (事業者の役割)

第10条 事業者は、地域社会の一員として、地域社会との調和を図るとともに、従業員の行う地域活動にも配慮し、まちづくりに寄与するものとします。

### 第4章 地域自治

#### (市民組織の尊重)

第11条 市は、市民組織の自主性及び自立性を尊重し、市民組織が活動するために必要な支援を行います。

- 2 市民は、市民組織がまちづくり推進の主要な担い手であることを認識し、市民組織を尊重し、守り育てるものとします。

#### (地域自治の推進)

第12条 市は、地域の特性と自主性が活かされた、個性豊かで魅力ある地域のまちづくりを推進するため、自治の基本原則に基づき、分権によるまちづくりの仕組みを目指します。

#### (地域自治区)

第13条 市は、市民に身近な事務事業を市民の意見を反映させて処理するとともに、地域の自治を促進するため、法律に基づく地域自治区を設けます。

- 2 地域自治区に置かれる地域協議会は、地域の住民により構成され、地域の意見を調整し、協働によるまちづくりを推進します。

#### (まちづくりのための委員会等)

第14条 市は、市民組織が地域のまちづくりに取り組むため組織する委員会等の自主的及び自立的な運営を尊重します。

#### (自治活動組織)

第15条 市民は、地域社会の一員として、自治活動組織(地域市民により形成され、まちづくりに取り組む市民組織をいいます。)の役割について理解を深め、協力するとともに、自治活動組織への加入に努めます。

- 2 市民は、可能な範囲内で、自治活動組織の活動に参加し、地域社会において個性や意欲を発揮することができるものとします。
- 3 自治活動組織は、地域市民の加入や参加が促進されるために必要な環境づくりに努めます。

### 第5章 市政運営

(協働して行う市政運営)

第16条 市は、市政に関する計画や政策の立案段階から市民の参加を促進し、市民と協働して市政運営を行います。

2 市は、市民の多様な参加の機会を整備し、協働のまちづくりを推進し、自治の拡充を図ります。

(市民意見の公募)

第17条 市は、別に定めるところにより、重要な計画及び政策の策定又は変更について事前に案を公表し、市民の意見を求めます。

2 市は、市民から提出された意見を尊重し、意見についての考え方を公表します。

(附属機関の委員の任命)

第18条 市の執行機関は、特定事項について審議又は調査等を行う附属機関に、市民の多様な意見が反映されるように委員を任命します。

(情報の公開)

第19条 市は、公正で開かれた市政の実現を図るため、市政についての情報の公開に関する総合的な施策に基づき、積極的に情報を公開します。

2 市は、市民の必要とする情報について、適切かつ速やかな提供に努めます。

(個人情報の保護)

第20条 市は、市民の個人情報に関する権利を保障するとともに、個人情報を適正に管理します。

(基本構想等)

第21条 市は、まちづくりの理念に基づき、市議会の議決を経て基本構想を定め、総合的かつ計画的な市政運営に努めます。

2 市は、基本構想、基本計画その他市の施策の基本となる計画を策定するに当たっては、市民参加の機会を保障します。

## 第6章 市議会の役割

(市議会の責務)

第22条 市議会は、市民の代表機関として、市という団体の意思決定機関であり、法律若しくはこれに基づく政令又は条例の定めるところにより議決の権限を行使し、市民の意思が的確に反映されるよう活動します。

2 市議会は、市の執行機関の活動を監視、評価することにより、適正な行政運営の確保に努めます。

3 市議会は、政策の立案、提言の内容の充実を図るための調査研究活動に努めます。

4 市議会は、合議体として論点、課題等について議論を深めるため、議員相互間の自由な討議を重んじて活動します。

(開かれた議会運営)

第23条 市議会は、市議会が保有する情報を公開するとともに、会議及び委員会等を公開し、並びに議会活動について市民に説明することにより、市民との情報の共有に努めます。

- 2 市議会は、市民の意見を聞くため議会活動への市民参加を推進し、市民に開かれた議会運営に努めます。
- 3 市議会は、議会報告会の開催等を通じ、前2項に規定することの実現に努めます。

(市議会議長の責務)

- 第24条 市議会議長は、市議会を代表し、公正中立に職務を遂行するとともに、円滑かつ効率的な議会運営を図るよう努めます。
- 2 市議会議長は、市議会に関する事務を統一的に処理するため、議会事務局の職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

(市議会議員の責務)

- 第25条 市議会議員は、市民の意向把握や情報収集に努め、市民全体の利益を優先して政策提言を行います。
- 2 市議会議員は、政治倫理の確立に努め、公正かつ誠実に責務を遂行し、市民の負託にこたえます。
  - 3 市議会議員は、市議会の役割及び責務を自覚し、その誠実な遂行のため自己研鑽に努めます。

(政策の調査、審議のための機関)

- 第26条 市議会は、政策の調査、立案のために必要な専門的事項に係る調査、審議を、学識経験を有する者等に求めることができます。
- 2 市議会は、前項の学識経験を有する者等の指定に当たっては、市民の多様な意見が反映されるようにします。

(市議会事務局職員の責務)

- 第27条 市議会事務局職員は、市議会の持つ権能が十分発揮されるよう、全力をあげて市議会の活動を補佐します。
- 2 市議会事務局職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

## 第7章 市の執行機関の役割

(市長の責務)

- 第28条 市長は、市の代表者として公正かつ誠実に市政を運営します。
- 2 市長は、自治の基本原則に基づき、市の計画及び政策の策定、実施、評価等を行います。

(市の執行機関の責務)

- 第29条 市の執行機関は、条例、予算その他の議会の議決に基づく事務及び法令、規則その他の規程に基づく事務を適正に管理、執行します。

(市の執行機関の組織運営)

- 第30条 市の執行機関は、行政組織について効率的かつ機能的なものとするとともに、相互の連携を図り、最小の経費で最大の行政効果を上げるよう運営します。
- 2 市の執行機関は、職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

(説明責任)

第31条 市の執行機関は、行政運営の透明性を高めるため、市政について、市民に分かりやすく説明する責任を果たします。

2 市長その他の執行機関は、市議会に対して、市政に関する意思決定の過程及び行政運営の状況を随時報告するものとします。

(行政評価)

第32条 市の執行機関は、市の施策や事務事業の執行状況を、基本構想等に基づき検証し、継続的な見直しを行い、効果的に執行します。

2 市の執行機関は、施策や事務事業の達成状況を公表し、市民から理解を得られる行政運営を進めます。

(財政状況の公表)

第33条 市長は、市の財源の確保とその効率的かつ効果的な運用により、財政の健全性に努めます。

2 市長は、財政状況を市民にわかりやすく公表するように努めます。

(市の執行機関の職員の責務)

第34条 市の執行機関の職員は、全体の奉仕者として、公平、公正かつ誠実に、全力をあげて職務を遂行します。

2 市の執行機関の職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

## 第8章 住民投票

(住民投票)

第35条 市は、市政の特に重要な事項について、直接住民の意思を確認する必要があるときは、市議会の議決を経て住民投票を実施することができます。

2 市は、住民投票の結果を尊重します。

3 住民投票の実施に関し必要な事項は、その都度条例で定めます。

## 第9章 条例の見直し

(条例の見直し)

第36条 市は、社会の変化に対応して、本条例が第1条の目的を達成するために必要があるときは、条例の見直しを行います。

附 則

この条例は、平成19年4月1日から施行します。

附 則(平成23年11月30日条例第25号)

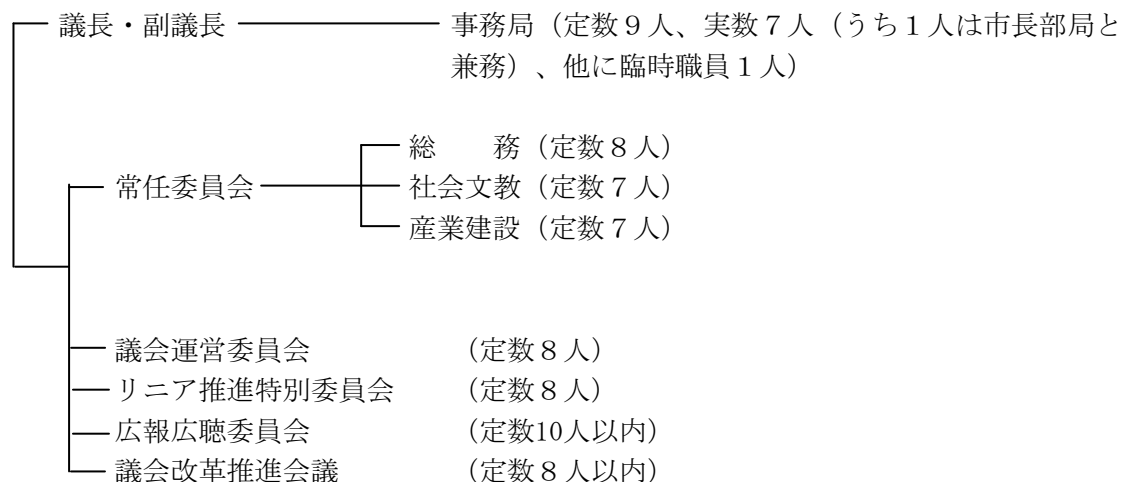
この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成25年3月25日条例第2号)

この条例は、公布の日から施行する。

## II 市議会の構成（平成29年5月10日現在）

### 1 構成



※平成25年4月28日から3常任委員会単独所属体制

#### (1) 常任委員会

##### ア 所管事項

- (ア) 総務委員会：総務部、総合政策部、市民協働環境部、市長公室、危機管理室、会計管理者、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会及び固定資産評価審査委員会の所管に属する事項並びに他の委員会の所管に属さない事項
- (イ) 社会文教委員会：健康福祉部及び教育委員会の所管に属する事項並びに病院事業に関する事項
- (ウ) 産業建設委員会：リニア推進部、産業経済部、建設部、上下水道局、水道局及び農業委員会の所管に属する事項

イ 任期 2年

#### (2) 議会運営委員会

##### ア 所管事項

- (ア) 議会の運営に関する事項
- (イ) 議会の会議規則、委員会条例等に関する事項
- (ウ) 議長の諮問に関する事項

イ 任期 2年

#### (3) リニア推進特別委員会

##### ア 所管事項

リニア中央新幹線の推進に関する諸課題の研究調査に関する事項

イ 任期 2年

#### (4) 広報広聴委員会（協議又は調整を行うための場）

##### ア 所管事項

- (ア) 議会広報紙の編集及び発行に関する事項
- (イ) 議会ホームページの管理運営に関する事項
- (ウ) インターネットを利用した会議公開に関する事項

- (エ) 会議傍聴の推進に関する事項
- (オ) 市民への講座等の開催に関する事項
- (カ) 議会報告会の企画運営及び市民意見の取扱いに関する事項
- (キ) その他議会の広報に関する事項

イ 任期 2年

(5) 議会改革推進会議（協議又は調整を行うための場）

ア 所管事項

- (ア) 飯田市議会の改革に関する調査研究
- (イ) 議会改革・運営ビジョン（平成22年3月22日決定）の実践状況の検証
- (ウ) 議長又は議会運営委員会から諮問された事項に関する調査審議
- (エ) その他推進会議の設置の目的のために必要な事項

(6) 議員

ア 任期 平成29年4月28日から平成33年4月27日まで

イ 条例定数 23人

ウ 現員数 23人

(ア) 党派別

公明党 3人 日本共産党 2人 無所属 18人

(イ) 会派別

会派のぞみ 13人 会派みらい 3人 公明党 3人  
市民パワー 2人 日本共産党 2人

## 2 議員名簿

番号	氏名	会派	期数	郵便番号	住所	自宅電話等
1	清水 優一郎	会派のぞみ	1	〒399-2223	千栄531番地	27-4858
2	岡田 倫英	会派のぞみ	1	〒395-0023	江戸浜町3661番地12	-
3	塚平 一成	会派のぞみ	1	〒399-2563	時又1046番地2	26-9137
4	竹村 圭史	会派のぞみ	2	〒395-0244	山本1407番地	25-2247
5	小林 真一	公明党	1	〒399-2601	虎岩2207番地1	29-8167
6	福澤 克憲	市民パワー	1	〒395-0025	東中央通5丁目20番地4	53-1285
7	古川 仁	日本共産党	2	〒395-0803	鼎下山677番地5	53-3792
8	木下 徳康	会派のぞみ	2	〒395-0813	毛賀366番地	24-4932
9	山崎 昌伸	会派のぞみ	2	〒395-0817	鼎東鼎292番地7	23-0204
10	熊谷 泰人	会派のぞみ	2	〒395-0075	白山通り3丁目391番地1	53-4150
11	湯澤 啓次	会派のぞみ	3	〒395-0001	座光寺2570番地1	24-6698
12	永井 一英	公明党	4	〒395-0077	丸山町2丁目6725番地14	23-4021
13	福沢 清	会派みらい	3	〒395-0029	二本松333番地1	22-5620
14	木下 容子	市民パワー	5	〒395-0063	羽場町1丁目5番地7	22-5973
15	後藤 荘一	日本共産党	5	〒395-0156	中村1221番地	25-7857
16	湊 猛	会派のぞみ	3	〒399-1311	南信濃和田1343番地1	0260-34-2248
17	新井 信一郎	会派のぞみ	4	〒395-0151	北方3330番地1	25-5181
18	清水 勇	会派のぞみ	4	〒399-2221	龍江2453番地1	27-2569
19	吉川 秋利	会派のぞみ	4	〒395-0807	鼎切石4375番地	24-8268
20	木下 克志	会派のぞみ	5	〒395-0803	鼎下山665番地	24-5645
21	村松 まり子	公明党	5	〒395-0814	八幡町489番地2	24-6884
22	井坪 隆	会派みらい	6	〒395-0004	上郷黒田1826番地	23-6421
23	原 和世	会派みらい	6	〒395-0244	山本4703番地1	25-1216

### 年齢別議員数

(平成29年6月1日現在)

年齢	25～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
人員	0	2	5	4	11	1	23

### 当選回数別議員数

(平成29年6月1日現在)

当選回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	計
人員	5	5	3	4	4	2	23



3 正副議長及び各委員会委員名簿

(1) 議長及び副議長

(平成29年5月9日改選)

議 長	清水 勇	副 議 長	永井 一英
-----	------	-------	-------

(2) 委員会

(平成29年5月10日改選)

◎印……委員長 ○印……副委員長

委 員 会 名	委 員			
総務委員会 (8人)	◎湊 猛 木下 徳康	○木下 容子 後藤 莊一	塚平 一成 木下 克志	小林 真一 井坪 隆
社会文教委員会 (7人)	◎福沢 清 永井 一英	○山崎 昌伸 新井信一郎	清水優一郎 吉川 秋利	古川 仁
産業建設委員会 (7人)	◎湯澤 啓次 福澤 克憲	○熊谷 泰人 村松まり子	岡田 倫英 原 和世	竹村 圭史
議会運営委員会 (8人)	◎村松まり子 湊 猛	○吉川 秋利 木下 克志	小林 真一 井坪 隆	湯澤 啓次 原 和世
リニア推進特別委員会 (8人)	◎井坪 隆 湯澤 啓次	○竹村 圭史 後藤 莊一	岡田 倫英 新井信一郎	塚平 一成 村松まり子
広報広聴委員会 (8人)	◎新井信一郎 小林 真一	○古川 仁 熊谷 泰人	岡田 倫英 木下 容子	塚平 一成 原 和世
議会改革推進会議 (8人)	◎後藤 莊一 福澤 克憲	○木下 徳康 山崎 昌伸	清水優一郎 福沢 清	小林 真一 吉川 秋利

4 監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿

(1) 監査委員 (選任に同意)

(平成29年5月10日選任)

推 薦 基 準	任 期	氏 名
議員から1人を推薦 市長が議会の同意を得る。	4 年	木下 克志

## (2) 南信州広域連合議会議員

(平成29年5月10日選任)

推薦基準	任期	氏名
議員から12人 正副議長(2) 3常任委員長(3) 会派按分(7)	4年 (2年で改選)	清水 勇 永井 一英 湊 猛 福沢 清 湯澤 啓次 熊谷 泰人 木下 容子 新井信一郎 吉川 秋利 木下 克志 村松まり子 井坪 隆

## 5 議会選出の各種委員等

## (1) 附属機関等の委員名簿

(平成29年5月10日選任)

名称	推薦基準	任期	氏名
青少年問題協議会 (2人)	社文委員2	2年	福沢 清 山崎 昌伸
民生委員推薦会 (2人)	社文正副委員長	3年	福沢 清 山崎 昌伸
都市計画審議会 (5人)	総務1・社文1 産建2・ リニア1	2年	湊 猛 福沢 清 湯澤 啓次 熊谷 泰人 井坪 隆
国民保護協議会 (3人)	3常任委員長	2年	湊 猛 福沢 清 湯澤 啓次

## (2) その他の団体の役員

(平成29年5月10日選任)

名称	推薦基準	任期	氏名
一般国道151号(飯田～豊橋)改良促進期成同盟会	議長	2年	【理事】清水 勇
一般国道153号改良期成同盟会	議長	2年	【理事】清水 勇
国道153号飯田南バイパス整備促進期成同盟会	議長	2年	【監事】清水 勇
天竜川上流治水促進期成同盟会	議長	2年	【理事】清水 勇
伊那テクノバレー地域センター(1人)	議長	在職期間	【地域評議員】清水 勇
リニア中央新幹線建設促進飯伊地区期成同盟会(7人)	正副議長 3常任委員長 監査委員 リニア推進特別委員長	在職期間	【副会長】清水 勇 【理事】永井 一英 湊 猛 福沢 清 湯澤 啓次 井坪 隆 【監事】木下 克志
三遠南信道路建設促進南信地域期成同盟会(3人)	正副議長 監査委員	2年	【副会長】清水 勇 【理事】永井 一英 【監事】木下 克志

三遠南信自動車道飯喬道路3工区建設促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 下久堅・千代・龍江	1年	【顧問】清水 勇 永井 一英 湯澤 啓次 熊谷 泰人 小林 真一 清水 優一郎
国道256号改良促進期成同盟会 (3人)	正副議長 産建委員長	2年	【理事】清水 勇 永井 一英 湯澤 啓次
主要地方道飯田富山佐久間線改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 下久堅・千代・龍江	2年	【理事】清水 勇 永井 一英 湯澤 啓次 熊谷 泰人 小林 真一 清水 優一郎
主要地方道飯島飯田線改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 座光寺・上郷 橋北・橋南・羽場 丸山・東野・鼎・伊賀良	2年	【監事】清水 勇 湯澤 啓次 【理事】永井 一英 岡田 倫英 熊谷 泰人 井坪 隆清 岡田 容子 福澤 克憲 福沢 清 木下 秋利 古川 仁 山崎 昌伸 吉川 信一郎 木下 克志 後藤 莊一 新井 信一郎
主要地方道飯田南木曾線改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 橋北・橋南・羽場・丸山・東野	2年	【理事】清水 勇 湯澤 啓次 熊谷 泰人 岡田 倫英 福澤 克憲 福沢 清 木下 容子 【監事】永井 一英
広域幹線林道千遠線開設期成同盟会 (2人)	議長 産建委員長	2年	【委員】清水 勇 湯澤 啓次
国道152号整備促進期成同盟会 (2人)	議長 産建委員長	2年	【理事】清水 勇 湯澤 啓次
国道418号整備促進期成同盟会 (4人)	正副議長 産建正副委員長	2年	【監事】清水 勇 湯澤 啓次 【理事】永井 一英 熊谷 泰人
都市計画道路羽場大瀬木線改良促進連絡協議会	正副議長 地区出身議員 橋北・橋南・羽場・丸山・東野・鼎・伊賀良	1年	【相談役】清水 勇 永井 一英 岡田 倫英 福澤 克憲 福沢 清 木下 容子 熊谷 泰人 古川 仁 山崎 昌伸 吉川 秋利 木下 克志 後藤 莊一 新井 信一郎
松尾浄化管理センター連絡協議会	正副議長 産建委員長 地区出身議員	在任期間	【委員】清水 勇 永井 一英 湯澤 啓次 木下 徳康 村松 まり子

## (3) 議員による任意の団体

名 称	基準	任期	氏 名
森林・林業・林産業活性化 促進議員連盟 (林業活性化推進飯田市 議員連盟)	各会派1 ※5名以上の会 派は2	2年	【会 長】湊 猛 【副会長】福沢 清 【幹 事】清水優一郎 小林 真一 福澤 克憲 古川 仁 【会 員】全市議会議員
スポーツ振興議員連盟	各会派1 ※5名以上の会 派は2	2年	【会 長】原 和代 【副会長】熊谷 泰人 【幹事長】古川 仁 【事務局長】竹村 圭史 【幹 事】小林 真一 福澤 克憲 【会 員】全市議会議員
三遠南信、浜松三ヶ日・豊 橋道路建設促進議員協議会	賛同議員	在職期間	【会 長】清水 勇 【会 員】全市議会議員

## 6 各会派及び各会派の代表者氏名

会 派 名	代表者名	議員数	会 派 名	代表者名	議員数
会 派 の ぞ み	木下 克志	13	会 派 み ら い	原 和世	3
公 明 党	村松まり子	3			
市 民 パ ワ ー	木下 容子	2	日 本 共 産 党	後藤 荘一	2

### Ⅲ 市議会の活動

#### 1 市議会の活動状況

##### (1) 市議会招集回数10か年比較表

年次		19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
区分	招集回数										
	定例会	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	臨時会	1	0	2	0	2	0	1	1	1	0
会期日数		89	89	112	102	105	101	101	93	102	98
本会議日数		21	20	22	17	18	17	19	18	18	17
議案件数		177	171	197	199	287	218	228	226	208	172

##### (2) 議会開会状況（平成28年1月から平成28年12月まで）

	会 議	会 期	会期日数	本会議日数
1	第1回定例会	2月23日～3月18日	25	4
2	第2回定例会	5月24日～6月15日	23	4
3	第3回定例会	8月30日～9月26日	28	4
4	第4回定例会	11月29日～12月20日	22	5
計			98	17

## (3) 議会審議状況（平成28年1月から平成28年12月まで）

区分		会別	第1回定例会	第2回定例会	第3回定例会	第4回定例会	計
市長 提出議案	予算・決算		23	2	19	9	53
	条例		22	2	4	13	41
	その他		18	7	13	3	41
	計(A)		63	11	36	25	135
議員 提出議案	条例		0	0	1		1
	その他		1	0	6		7
	計(B)		1	0	7	0	8
議決状況	可決・同意 ・承認		65	17	44	25	151
	否決						0
	継続審査						0
報告	専決処分		2	7	3	3	15
	その他		1	12	1		14
	計(C)		3	19	4	3	29
審議件数(A+B+C)			67	30	47	28	172

## 2 報酬その他

### (1) 報酬

役 職	報酬月額	役 職	給料月額
議 長	499,000 円	市 長	876,000 円
副議長	436,000 円	副市長	720,000 円
議 員	407,000 円	教育長	634,000 円
改定日	平成 11 年 4 月 1 日	改定日	平成 27 年 12 月 24 日

\*平成29年4月分から平成31年3月分まで、飯田市特別職の常勤の職員の給料月額は、上記の表に掲げる額とする。

### 報酬額の改定推移

(単位：千円)

種 別	改定年月日	S61	S62	S63	H 1	H 3	H 4	H 5	H 7	H 9	H11
		4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	10.1	7.1	4.1
議 長		331	339	352	369	413	437	469	485	494	499
副 議 長		278	285	296	310	352	372	410	424	432	436
議 員		259	266	277	290	325	343	383	396	403	407

### (2) 期末手当

6 月期支給額 報酬×1.45×155/100

12月期支給額 報酬×1.45×170/100

※ 平成29年4月から平成31年3月までの間に支給される期末手当は、議長90,000円、副議長78,000円、議員72,000円をそれぞれ支給すべき額から減ずる。

### (3) 費用弁償

(6)の表の規定に基づき往復の交通費のみ支給する。

### (4) 研修旅費

議 員 1 人 当 り 年 額	
常 任 委 員 会	実 費
議 会 運 営 委 員 会	実 費
海 外 研 修 視 察	所要額の 3 / 4 (交付金)

(5) 政務活動費

議員 1 人当り年額140,000円

(6) 飯田市議員等の旅費額

(平成3年4月1日改正)

旅費の区分 職務の区分	車 賃		日 当	宿 泊 料		食 卓 一 夜 に つ き 料
	交通機関 のある場 合	交通機関の ない場合 (1キロメ ートルにつ き)		県 内	県 外	
議員、教育委員、選挙管理委員、公平委員、監査委員、農業委員、固定資産評価審査委員、選挙長	実 費	円 37	円 2,600	円 11,800	円 13,100	円 2,600

3 定期刊行物

(1) 飯田市議会だより

ア 創刊 昭和46年4月1日

イ 発行回数 年4回(4月、7月、10月及び1月(定例会終了の翌月)。このほか臨時号)

ウ 発行部数 各33,200部

エ 印刷 オフセット印刷(A4版 1回平均10ページ)160号から表紙、裏表紙のみカラー刷り

(2) 飯田市議会要覧

ア 発行回数 年1回(例年6月発行)

イ 発行部数 150部

4 市議会会議録

(1) 各定例会及び臨時会の会議録

ア 発行回数 年4回(次回定例会の招集日までに発行)

イ 発行部数 31部

ウ 印刷 オフセット印刷(A4版)

(2) 全員協議会、常任委員会及び特別委員会の会議録

発行部数 1部

(3) 会議録検索システム

ア 平成4年第2回定例会以降の本会議、全員協議会、各委員会のデータが検索可能

イ 平成15年11月から、インターネットによる会議録検索に対応



## 5 議会事務局の事務分掌

### (1) 庶務係

- ア 公印の管理に関する事。
- イ 文書の收受、発送及び保存に関する事。
- ウ 予算及びその経理に関する事。
- エ 議員の身分、人事、福利厚生、共済等に関する事。
- オ 議員の報酬、費用弁償等に関する事。
- カ 議長会等に関する事。
- キ 儀式及び交際に関する事。
- ク 議会関係各室の管理に関する事。
- ケ 職員の人事、服務、給与等に関する事。
- コ 議決証明等に関する事。
- サ 物品の出納保管に関する事。
- シ 議会乗用車の管理に関する事。
- ス 他の係の所管に属さない事項に関する事。

### (2) 議事係

- ア 本会議に関する事。
- イ 常任委員会、特別委員会、協議会等に関する事。
- ウ 議会において行う選挙等に関する事。
- エ 公聴会、参考人等に関する事。
- オ 議案その他付議事件に関する事。
- カ 議員の出欠席に関する事。
- キ 議事日程及び諸報告に関する事。
- ク 請願及び陳情に関する事。
- ケ 会議録その他の会議記録の調製及び保管に関する事。
- コ 議会の傍聴に関する事。
- サ その他議事に関する事。

### (3) 調査係

- ア 議会、委員会等から命じられた事項の調査に関する事。
- イ 市政の調査及び研究に関する事。
- ウ 各種資料の収集、整理及び発行に関する事。
- エ 議員の研修に関する事。
- オ 条例、規則等の制定及び改廃に関する事。
- カ 法令等の調査研究に関する事。
- キ 議会広報に関する事。
- ク 照会事項の回答に関する事。
- ケ 議会図書室に関する事。
- コ 視察に関する事。

IV 飯田市の概要

1 平成29年度飯田市各会計及び一般会計当初予算の概要

平成29年度 飯田市各会計予算の総額

会 計 名		予 算 額		比 較	
		29年度 (A)	28年度 (B)	(A)-(B) (C)	(C)/(B)
一 般 会 計		45,730,000	44,300,000	1,430,000	3.2
国民健康保険特別会計	事業勘定	11,515,000	11,266,000	249,000	2.2
	直診勘定	4,700	5,300	△ 600	△ 11.3
後 期 高 齢 者 医 療 特 別 会 計		1,304,200	1,272,000	32,200	2.5
介 護 保 険 特 別 会 計		10,829,800	10,673,400	156,400	1.5
地 方 卸 売 市 場 事 業 特 別 会 計		15,000	20,200	△ 5,200	△ 25.7
駐 車 場 事 業 特 別 会 計		70,000	71,500	△ 1,500	△ 2.1
墓 地 事 業 特 別 会 計		15,000	23,700	△ 8,700	△ 36.7
簡 易 水 道 事 業 特 別 会 計		-	150,000	△ 150,000	皆減
介 護 老 人 保 健 施 設 事 業 特 別 会 計		706,300	693,000	13,300	1.9
ケ ー ブ ル テ レ ビ 放 送 事 業 特 別 会 計		96,100	128,800	△ 32,700	△ 25.4
病 院 事 業 会 計		15,413,900	15,521,502	△ 107,602	△ 0.7
水 道 事 業 会 計		4,387,200	3,294,600	1,092,600	33.2
下 水 道 事 業 会 計		6,376,000	6,860,900	△ 484,900	△ 7.1
特 別 会 計 の 計		50,733,200	49,980,902	752,298	1.5
計		96,463,200	94,280,902	2,182,298	2.3

(単位:千円、%)

主 な 内 容		
		一般
保険給付費 6,639,542 後期高齢者支援金等 1,243,122 介護納付金 485,598 共同事業拠出金 2,570,219 保健事業費 83,095		国保
三穂診療所、上村歯科診療所		
後期高齢者医療広域連合納付金 1,267,064		後高
保険給付費 10,170,799 地域支援事業費 456,434		介護
卸売市場費 14,919		市場
中央、本町、飯田駅、駅西、扇町各駐車場の管理運営 66,318		駐車
霊園の管理運営 8,774 基金積立金 6,226		墓地
平成29年度から水道事業へ統合(法適化)		簡水
施設管理費 627,132 施設事業費 79,168		老施
竜東維持管理費 50,892 遠山郷維持管理費 18,326 公債費 23,327		ケテ
収益的収入 12,626,000 収益的支出 13,024,000 資本的収入 1,415,400 資本的支出 2,389,900		病院
収益的収入 2,219,400 収益的支出 2,056,500 資本的収入 1,393,000 資本的支出 2,330,700		水道
収益的収入 4,400,100 収益的支出 3,883,900 資本的収入 1,203,800 資本的支出 2,492,100		下水
		特会
		計

平成29年度 一般会計 歳入 (主な内容と増減内訳)

区 分	予 算 額		(A)の 構成比	増 減	
	29年度(A)	28年度(B)		(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 市 税	13,104,000	12,942,000	28.7	162,000	1.3
2 地 方 譲 与 税	434,000	415,000	0.9	19,000	4.6
3 利 子 割 交 付 金	15,000	12,000	0.0	3,000	25.0
4 配 当 割 交 付 金	49,000	61,000	0.1	△ 12,000	△ 19.7
5 株 式 等 譲 渡 所 得 割 交 付 金	56,000	3,000	0.1	53,000	1766.7
6 地 方 消 費 税 交 付 金	2,080,000	2,255,000	4.5	△ 175,000	△ 7.8
7 自 動 車 取 得 税 交 付 金	86,000	84,000	0.2	2,000	2.4
8 地 方 特 例 交 付 金	50,000	46,000	0.1	4,000	8.7
9 地 方 交 付 税	11,141,000	11,250,000	24.4	△ 109,000	△ 1.0
10 交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金	18,000	18,000	0.0	0	0.0
11 分 担 金 及 び 負 担 金	772,764	810,280	1.7	△ 37,516	△ 4.6
12 使 用 料 及 び 手 数 料	537,108	540,754	1.2	△ 3,646	△ 0.7
13 国 庫 支 出 金	5,356,340	4,910,032	11.7	446,308	9.1
14 県 支 出 金	2,860,032	2,777,578	6.3	82,454	3.0
15 財 産 収 入	33,459	34,511	0.1	△ 1,052	△ 3.0
16 寄 附 金	207,000	106,000	0.5	101,000	95.3
17 繰 入 金	811,965	1,018,760	1.8	△ 206,795	△ 20.3
18 繰 越 金	600,000	500,000	1.3	100,000	20.0
19 諸 収 入	2,784,932	2,353,385	6.1	431,547	18.3
20 市 債	4,733,400	4,162,700	10.4	570,700	13.7
合 計	45,730,000	44,300,000	100.0	1,430,000	3.2

※表示単位未満四捨五入。各項目と合計は一致しない場合があります。

主 内 容	増減(A)-(B)の主な内容	
市民税 5,741,000 (個人 4,722,000 法人 1,019,000) 固定資産税 5,691,000 軽自動車税 337,000 市たばこ税 644,000 入湯税 3,000 都市計画税 688,000	市税は現年課税分で比較 個人 5,000 法人 55,000 固定資産税 101,000 軽自動車税 17,000 たばこ税 △14,000	市税
地方揮発油譲与税 126,000 自動車重量譲与税 289,000	自動車重量 20,000 地方揮発油 △1,000	地譲
	利子割交付金 3,000	利子
	配当割交付金 △12,000	配当
	株式等譲渡所得割交付金 53,000	株式
地方消費税税率上げによる増収分796,496千円は全額を社会保障施策に充当 (充当内訳:社会福祉 383,861、社会保険 231,767、保健衛生 180,868)	地方消費税交付金 △175,000	消費
	自動車取得税交付金 2,000	自取
	地方特例交付金 4,000	地特
普通交付税 10,141,000 特別交付税 1,000,000	普通交付税 △209,000 特別交付税 100,000	地交
		交通
民生費負担金 692,888 (保育料 607,448 老人措置 79,609) 農林費分担金 52,560 (非補助土地改良 50,000) 総務費負担金 20,868 (戸籍システム共同利用 15,649)	道路改良事業負担金(広域連合) △15,200 民間保育所保護者負担金 △13,915 公立保育所保護者負担金 △10,939	分負
住宅使用料 148,441 ごみ処理手数料 137,827 休日夜間急患診療所使用料 42,914 道路河川占用料 37,200 文化会館使用料 20,100 斎苑使用料 19,128 戸籍手数料 17,892 地域振興住宅使用料 14,762 建築確認手数料 11,000 住民票手数料 10,669	幼稚園使用料 △4,855 休日夜間急患診療所使用料 △2,129 徴税諸証明手数料 △1,001 住民票手数料 △872 建築確認手数料 3,120	使手
<b>【負担金】</b> 民生費 3,843,052 (児童手当 1,286,152 障害者 848,202 生活保護 509,256 民間保育所 763,545 ひとり親家庭 144,071) 衛生費 67,500 (保健基盤安定)	民間保育所負担金 153,814 民間保育所等整備交付金 126,294 社会資本整備総合交付金 73,504 文化財保護補助金 47,762 地域公共ネットワーク等強靱化事業補助金 20,178 生活保護措置負担金 19,800 障害者自立支援給付費負担金 15,876 子ども・子育て支援交付金 8,567 児童扶養手当負担金 5,480 現年度分低所得者保険料軽減負担金 5,293 児童手当負担金 △8,474 地域生活支援事業補助金 △13,609	国庫
<b>【補助金】</b> 総務費 22,201 (社会保険・税番号制度) 民生費 379,571 (民間保育所整備 259,321 地域生活支援 43,458) 衛生費 12,958 (環境保全 7,838 保健衛生 2,647) 商工費 4,400 (地方創生 2,500 文化財保護 1,000 市街地 900) 土木費 762,704 (道路 539,435 住宅 104,466 橋りょう 99,000) 消防費 9,460 (災害対策) 教育費 234,250 (文化財保護 172,706 文化芸術振興 23,000)	民間保育所負担金 98,274 老人福祉施設等整備事業補助金 82,122 子育て支援対策臨時特例交付金 73,294 一時預かり事業補助金 12,624 林道開設事業補助金 10,189 子ども・子育て支援交付金 8,567 障害者自立支援給付費負担金 7,938 民有林林道改良事業補助金 △12,120 鳥獣被害防止総合対策交付金 △29,445 参議院議員選挙委託金 △36,151 地域医療介護総合確保基金補助金 △118,241	県費
<b>【負担金】</b> 民生費 1,414,784 (障害者 508,105 民間保育所 403,139 児童手当 276,186) 衛生費 225,225 (保健基盤安定)		
<b>【補助金】</b> 民生費 593,364 (医療給付 206,405 老人福祉 157,558 民間保育所 120,746 地域子育て支援 60,746) 農林費 243,208 (林業振興 133,371 農業振興 32,941 農政対策 66,619 農業振興 6,000) 教育費 86,896 (子育て支援 74,030)		
<b>【委託費】</b> 総務費 218,475 (県民税 160,470 社会体育施設 15,978)		
財産貸付収入 21,406 不動産売払収入 6,001 基金運用収入 5,598	基金運用収入(基金利子) △1,105	財産
ふるさと寄附金 200,000 奨学資金 6,000 自治振興寄附金 1,000	ふるさと寄附金 100,000 自治振興寄附金 1,000	寄附
財調 400,000 減債 300,000 公共0 ふるさと 6,000 社会福祉施設 27,340 過疎 25,565 地域雇用 20,930 庁舎 18,016 財産区議会議員選挙 11,442 財産区事務 2,672	財政調整 △100,000 社会福祉施設整備 △58,396 庁舎建設 △25,357 減債 △23,000 過疎地域自立促進 △7,190	繰入
	純繰越金 100,000	繰越
貸付金元利収入 1,620,620(商工制度資金 1,400,000 生活資金 170,000) 受託事業収入 674,946(産業振興と人材育成の拠点 549,000) 雑入 485,836	産業振興と人材育成の拠点整備事業受託 549,000 中小企業振興資金貸付預託金回収金 △100,000 埋蔵文化財調査受託事業収入 △11,521	諸収
合併特例債 513,600 (社会教育施設 294,300 観光 219,300) 過疎対策事業債 102,800 (公共交通体系 35,200 林道 34,500 災害対策 32,400 自治振興 5,100 道路 15,300) 教育 194,200 (義務教育施設 89,100 社会福祉施設 61,900 学校給食 10,600) その他 3,922,800 土木 924,900 民生 782,900 衛生 206,200 農林 102,400 消防 84,800 総務 61,600 臨時財政対策債 1,760,000	介護サービス事業 677,100 公共事業 242,800 上下水道事業 155,300 臨時財政対策債 125,000 緊急防災・減災 83,000 合併特例 △205,700 過疎対策事業 △295,500	市債

平成29年度 一般会計 目的別歳出 (主な内容と増減内訳)

区 分	予 算 額		(A)の構成比	増 減	
	29年度 (A)	28年度 (B)		(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 議 会 費	277,507	278,822	0.6	△ 1,315	△ 0.5
2 総 務 費	4,338,697	4,804,349	9.5	△ 465,652	△ 9.7
3 民 生 費	15,482,394	14,653,871	33.9	828,523	5.7
4 衛 生 費	5,038,233	5,261,386	11.0	△ 223,153	△ 4.2
5 労 働 費	263,448	270,281	0.6	△ 6,833	△ 2.5
6 農 林 水 産 業 費	1,238,140	1,291,041	2.7	△ 52,901	△ 4.1
7 商 工 費	3,043,640	2,538,782	6.7	504,858	19.9
8 土 木 費	5,415,555	5,104,410	11.8	311,145	6.1
9 消 防 費	1,374,714	1,364,445	3.0	10,269	0.8
10 教 育 費	4,335,859	3,747,103	9.5	588,756	15.7
11 災 害 復 旧 費	4,300	4,300	0.0	0	0.0
12 公 債 費	4,877,413	4,941,110	10.7	△ 63,697	△ 1.3
13 諸 支 出 金	100	100	0.0	0	0.0
14 予 備 費	40,000	40,000	0.1	0	0.0
合 計	45,730,000	44,300,000	100.0	1,430,000	3.2

※表示単位未満四捨五入。各項目と合計は一致しない場合があります。

主 内 容	増 減 の 主 な 内 容	
議会費 277,507	事務局職員人件費 △1,050 議員一般経費 △118	議会
リニア駅周辺整備事業 210,441 総務一般経費 160,849 住民情報システム管理費 156,967 ふるさと飯田応援隊募集事業 109,193 地域自治支援事業 104,200 市民バス等運行事業 101,345 リニア中央新幹線飯田駅整備推進基金積立金 100,000 リニア推進事業 96,110	庁舎整備事業 △455,814 自治振興センター耐震化整備事業 △237,708 地域振興住宅整備事業 △70,800 総務一般管理費 △50,356 市議会議員選挙費 45,832 ふるさと飯田応援隊募集事業 54,883 リニア推進事業 86,072 リニア駅周辺整備事業 173,623	総務
民間保育所運営費 2,163,574 児童手当費 1,820,525 介護保険特別会計繰出金 1,538,394 後期高齢者医療関係一般経費 1,050,000 総合支援介護給付事業 1,015,475 特別養護老人ホーム飯田荘建設事業 821,740 生活保護措置費 679,008 総合支援訓練等給付事業 677,401 民間保育所施設整備事業 425,291	特別養護老人ホーム飯田荘建設事業 429,916 民間保育所運営費 232,672 民間保育所施設整備事業 146,440 生活保護措置費 26,400 老人福祉一般経費 23,814 一時預かり・特定保育事業 18,936 児童手当費 △12,150 北方寮管理費 △12,737 特別養護老人ホーム等建設補助事業 △159,518	民生
病院事業会計負担金 1,351,115 水道費 671,699 広域連合負担金(焼却場) 590,830 国民健康保険特別会計繰出金 576,725 ごみ収集処理費 301,223 予防接種事業 181,492 妊婦健診事業 118,594	南信州広域連合負担金(焼却場) △324,513 国民健康保険特別会計繰出金 △130,182 簡易水道事業特別会計繰出金 △90,100 ごみ収集処理費 14,833 南信州広域連合負担金(竜水園) 19,245 病院事業負担金 35,615 水道費 243,002	衛生
勤労者協調融資 170,000 勤労者福祉センター管理費 18,596 桐林勤労者福祉センター管理費 17,521 労働諸費 12,753	桐林勤労者福祉センター管理費 △5,671 勤労者福祉センター管理費 △2,300	労働
林道改良事業(補助) 181,678 農業基盤整備資金償還補助事業 118,302 市単土地改良事業 114,032 非補助土地改良事業 50,000 農作物鳥獣被害対策事業 40,324 意欲ある農業者支援事業 37,405 中山間地域等直接支払事業 32,256	農作物被害対策事業 △33,598 林道改良事業(補助) △23,002 農業基盤整備資金償還補助事業 △18,827 6次産業化推進事業 △6,861 市単土地改良事業 10,000 国土保全特別対策事業 15,500 林道開設事業 21,190	農林
中小企業金融対策事業 1,500,000 産業振興と人材育成の拠点整備事業 611,043 天龍峡活性化事業 244,847 企業立地促進事業補助金 87,000 地場産業等振興事業 43,982	産業振興と人材育成の拠点整備事業 611,043 天龍峡活性化事業 175,478 企業立地促進事業補助金 17,000 中小企業金融対策事業 △110,000 社会資本整備総合交付金(天龍峡) △116,863	商工
下水道費 1,910,700 社会資本整備総合交付金事業(道路整備) 358,000 防災・安全交付金事業(道路整備) 333,000 道路補修事業 213,075 公営住宅整備事業(補助) 208,932 道路舗装補修事業 200,955 橋りょう長寿命化修繕事業 184,202	社会資本整備総合交付金事業 178,300 防災・安全交付金事業(道路整備) 112,600 橋りょう耐震整備事業 86,200 飯橋道路関連事業(単独) 40,500 市道改良事業 38,515 防災・安全交付金事業(通学路安全対策) 34,000 公営住宅整備事業(補助) △121,383	土木
広域連合負担金(消防) 981,047 消防団運営事業 184,901 消防体制強化整備事業(単独) 61,111 災害対策一般経費 59,522	消防体制強化整備事業(単独) 32,061 住宅倒壊防止対策事業 8,500 消防団詰所整備事業 △31,966	消防
公民館等耐震化整備事業 312,316 私立認定こども園施設整備事業補助金 285,207 恒川遺跡群保存活用事業(補助) 215,722 調理業務委託費 189,071 体育施設管理費 166,846 情報通信技術活用教育推進事業 149,764 公民館管理・運営費 118,717	私立認定こども園施設整備事業補助金 284,103 公民館等耐震化整備事業 259,657 恒川遺跡群保存活用事業(補助) 59,342 情報通信技術活用教育推進事業 58,162 歴史研究所事務所移転事業 47,549 小学校施設床改修事業 33,268 調理場整備事業 △37,536	教育
土木施設単独災害復旧 2,000 林道単独災害復旧 1,300		災害
長期債元金 4,606,968 長期債利子 268,445 一時借入金利子 2,000	元金 △3,164 利子 △60,533	公債
学術研究振興基金積立 100		諸支
予備費 40,000		予備

平成29年度 一般会計 性質別歳出 (主な増減内訳)

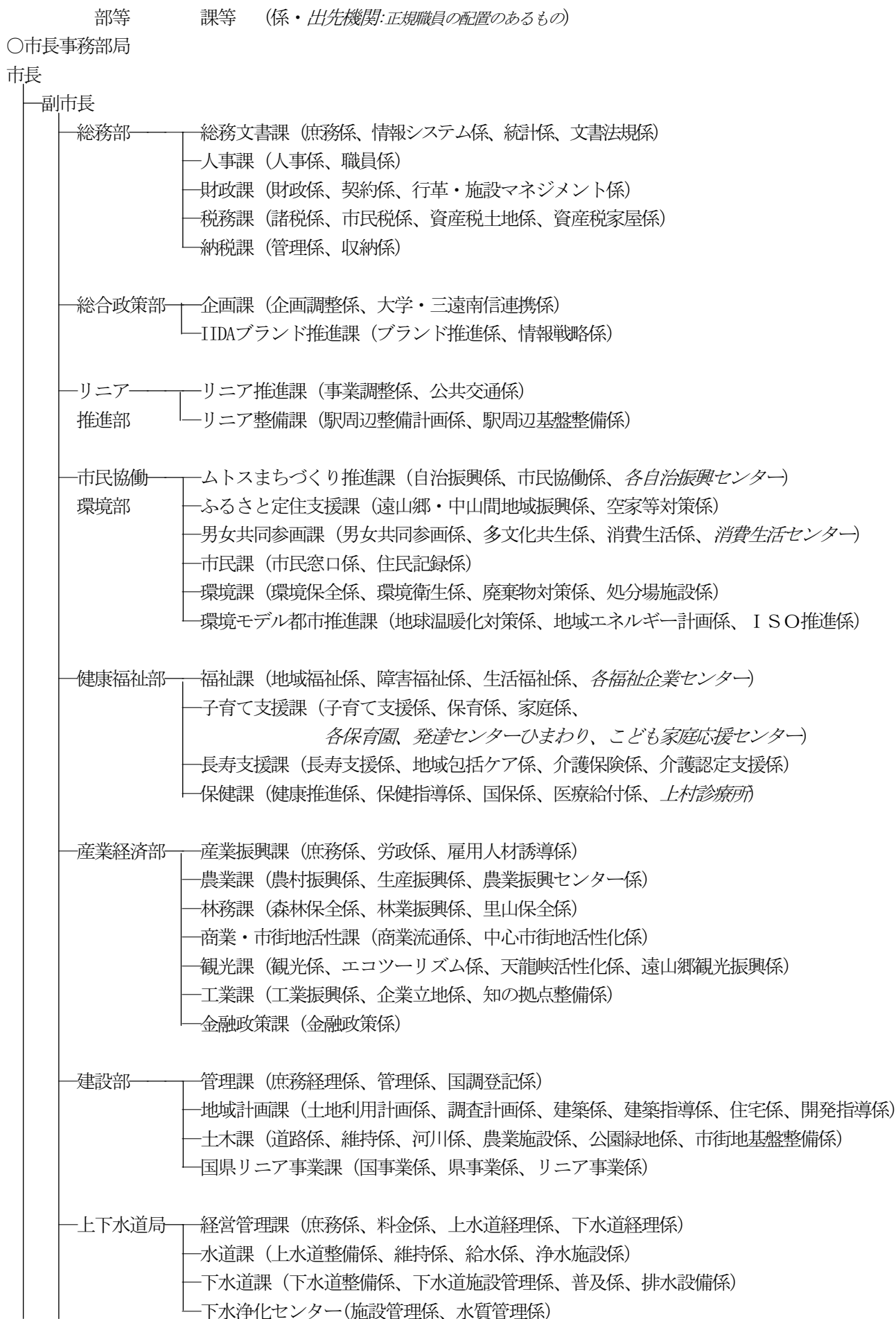
	29年度予算額		28年度予算額		増減	
	(A)	構成比	(B)	構成比	(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 人件費	5,796,500	12.7	5,868,269	13.3	△ 71,769	△ 1.2
2 扶助費	8,393,587	18.3	8,083,055	18.3	310,532	3.8
3 公債費	4,877,413	10.7	4,941,110	11.2	△ 63,697	△ 1.3
小計	19,067,500	41.7	18,892,434	42.8	175,066	0.9
4 物件費	6,141,129	13.4	5,935,021	13.4	206,108	3.5
5 維持補修費	671,361	1.5	639,935	1.4	31,426	4.9
6 補助費等	7,108,536	15.5	7,501,834	16.9	△ 393,298	△ 5.2
7 積立金	100,100	0.2	100,100	0.2	0	0.0
8 投資・出資金	811,091	1.8	544,953	1.2	266,138	48.8
9 貸付金	1,631,900	3.6	1,731,660	3.9	△ 99,760	△ 5.8
10 繰出金	3,669,702	8.0	3,895,905	8.8	△ 226,203	△ 5.8
11 投資的経費	6,488,681	14.2	5,018,158	11.3	1,470,523	29.3
補助	2,562,142	5.6	1,950,692	4.4	611,450	31.3
単独	3,926,539	8.6	3,067,466	6.9	859,073	28.0
普通建設費	6,484,381	14.2	5,013,858	11.3	1,470,523	29.3
補助	2,562,142	5.6	1,950,692	4.4	611,450	31.3
単独	3,922,239	8.6	3,063,166	6.9	859,073	28.0
災害復旧費	4,300	0.0	4,300	0.0	0	0.0
補助	0	0.0	0	0.0	0	0.0
単独	4,300	0.0	4,300	0.0	0	0.0
12 予備費	40,000	0.1	40,000	0.1	0	0.0
合計	45,730,000	100.0	44,300,000	100.0	1,430,000	3.2

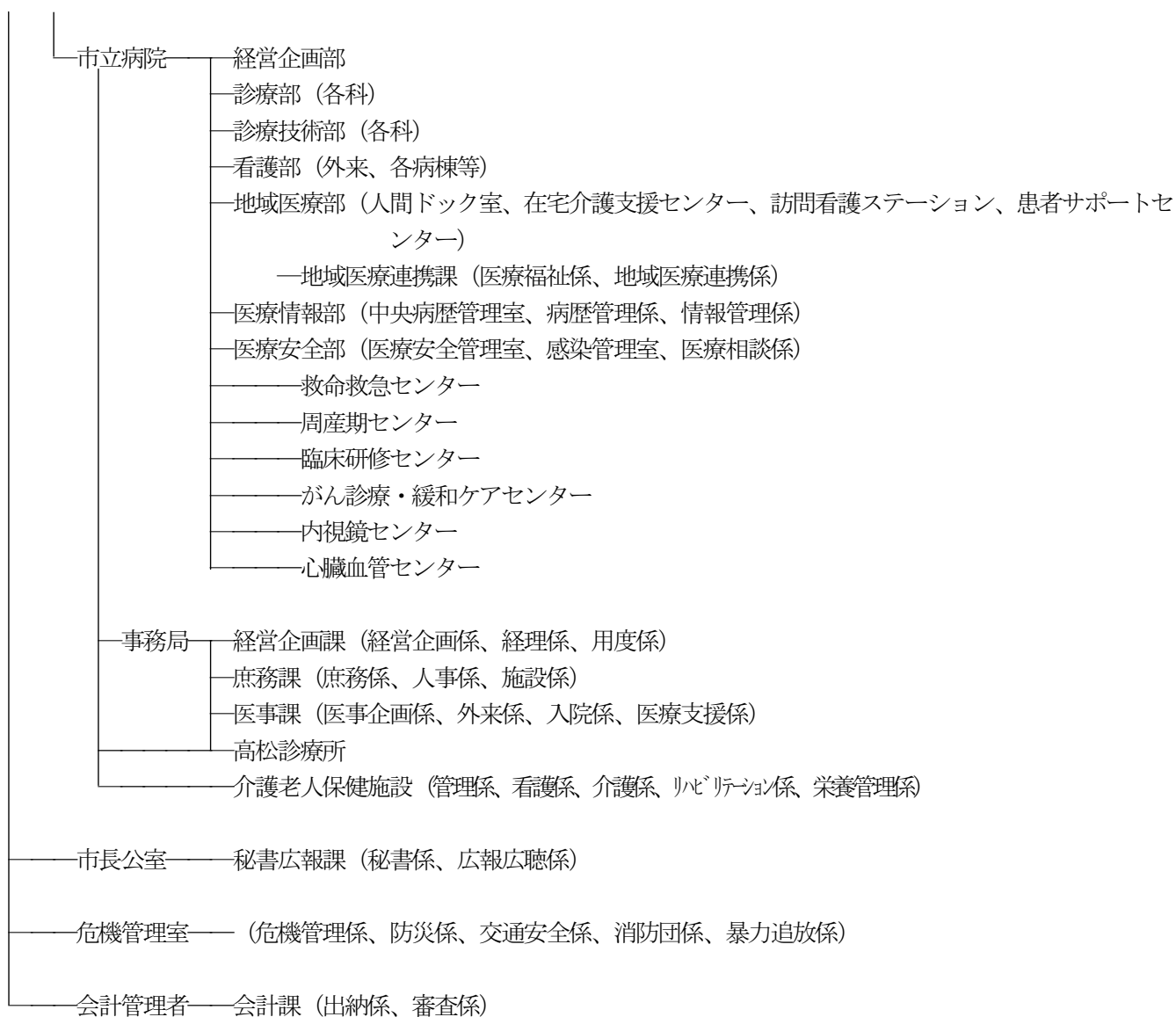
※表示単位未満四捨五入。各項目と合計は一致しない場合があります。



増減の主な内容		
職員給与 10,795 退職手当 △62,689 市町村共済負担金 △14,690		人件
民間保育所運営費 232,672 生活保護措置費 25,522 準要保護児童・生徒給食扶助費 21,187 障害者支援給付 20,388 児童扶養手当 16,438 子どもの医療給付 13,402 児童手当 △12,150		扶助
元金 △3,164 利子 △60,533		公債
		小計
リニア駅周辺整備 172,502 リニア推進事業 86,257 ICT教育ネットワーク環境整備 40,357 業務用パソコン更新 24,874 住民情報システム更新 24,664 図書館システム更新 24,154 乳幼児予防接種 21,465 除籍・改製原戸籍電子化 19,980 児童館・児童クラブ・児童センター運営 17,424 ふるさと飯田応援隊募集 16,883 PCB処理経費 △52,527 産業用地整備 △45,988 固定資産評価替 △43,592 教科書購入 △27,723 学校パソコン・サーバー機器購入 △14,800 データ放送システム機器更新 △11,129		物件
道路定期点検 20,000 道路舗装補修 13,169 除雪費 △3,310		維持
簡易水道事業補助金 44,489 ふるさと飯田応援隊募集 38,000 広域連合負担金(竜水園) 19,245 一時預かり・特定保育補助金 18,936 特別養護老人ホーム運営補助金 18,000 市議会議員選挙費 14,725 広域連合負担金(焼却場) △342,513 特別養護老人ホーム等建設補助金 △159,518 病院事業負担金 △38,385 鳥獣被害対策 △29,605 下水道事業補助金 △24,156		補助
		積立
水道事業出資金 192,138 病院事業出資金 74,000		投資
中小企業金融対策事業預託金 △100,000 奨学金貸付金 240		貸付
介護保険 8,912 介護老人保健施設 3,910 後期高齢者医療 3,281 国民健康保険 △130,182 簡易水道 △90,100 ケーブルテレビ △21,700 地方卸売市場 △324		繰出
		投資
		補助
		単独
		普建
私立認定こども園施設整備 284,103 社会資本整備(道路) 183,000 民間保育所施設整備 146,440 防災・安全交付金(道路) 92,600 恒川遺跡群保存活用 59,342 防災・安全交付金(通学路) 34,000 林道開設 21,190 公営住宅整備 △121,383 社会資本整備(天龍峡) △116,863 林道改良(補助) △23,002		補助
産業振興と人材育成の拠点整備 606,996 特別養護老人ホーム飯田荘建設 429,916 公民館等耐震化整備 259,657 天龍峡活性化事業 170,920 橋りょう耐震整備 86,200 歴史研究所移転 47,549 飯喬道路関連事業 40,500 学校施設床改修 33,268 消防体制強化整備 32,072 産業用地整備 30,000 中山間地域振興 26,991 ICT教育機器等整備 25,948 庁舎整備 △455,814 自治振興センター耐震化整備 △237,708 地域振興住宅整備 △70,800 調理場整備 △38,400 消防団詰所整備 △31,966 防災対策避難路整備 △31,800		単独
		災害
		補助
		単独
		予備

2 飯田市行政組織機構図 (H29. 4. 1)





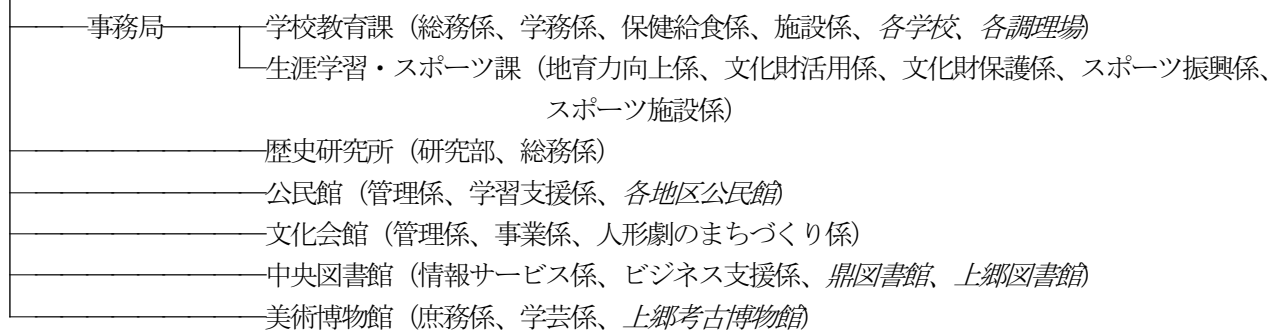
○市議会、行政委員会

市議会事務局 (庶務係、議事係、調査係)

教育委員会

↓

教育長



選挙管理委員会 事務局 (選挙係、啓発係)

公平委員会 (事務職員)

監査委員 事務局 (監査係)

農業委員会 事務局 (農地係、振興係)

固定資産評価審査委員会 (書記)

### 3 職員の定数

(平成29年4月1日現在)

区 分	定 数 (人)	実 数 (人)
市長の事務部局の職員	755	621
議会の事務部局の職員	9	6
教育委員会の事務部局及び教育機関の職員	150	125
選挙管理委員会の事務部局の職員	5	3
公平委員会の事務部局の職員 (市長部局職員兼務2)	2	0
監査委員の事務部局の職員	4	3
農業委員会の事務部局の職員 (市長部局職員兼務8)	16	5
固定資産評価審査委員会の事務部局の職員 (市長部局職員兼務2)	2	0
病院事業の職員	750	748
水道事業の職員	32	21
小 計	1,725	1,532
市長部局付派遣職員		
(財)南信州・飯田産業センター		3
(社福)飯田市社会福祉協議会		1
飯田市土地開発公社		6
長野県後期高齢者医療広域連合		1
長野県地方税滞納整理機構		1
飯田市職員労働組合専従		2
小 計		14
派遣職員(自治法派遣)		
南信州広域連合 事務局		7
〃 飯田広域消防		-
〃 飯田環境センター		2
小 計		9
合 計		1,555

## 【 資 料 編 】

### V 市議会のあゆみ

#### 1 市議会議員選挙執行状況

昭和32年4月28日	合併による設置選挙
昭和35年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和36年4月23日	任期满了一般選挙
昭和39年5月15日	龍江・千代・上久堅3か村合併による増員選挙
昭和39年8月28日	伊賀良地区補欠選挙
昭和39年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和40年4月25日	任期满了一般選挙
昭和43年10月20日	補欠選挙
昭和44年4月20日	任期满了一般選挙
昭和47年10月22日	補欠選挙
昭和48年4月22日	任期满了一般選挙
昭和51年10月17日	補欠選挙
昭和52年4月17日	任期满了一般選挙
昭和55年10月19日	補欠選挙
昭和56年4月19日	任期满了一般選挙
昭和60年4月21日	任期满了一般選挙
昭和63年10月16日	補欠選挙
平成元年4月23日	任期满了一般選挙
平成4年10月18日	補欠選挙
平成5年4月25日	任期满了一般選挙
平成5年8月1日	上郷町合併による増員選挙
平成8年10月20日	補欠選挙
平成9年4月20日	任期满了一般選挙
平成12年10月15日	補欠選挙
平成13年4月22日	任期满了一般選挙
平成16年10月24日	補欠選挙
平成17年4月24日	任期满了一般選挙
平成17年10月30日	補欠選挙
平成21年4月19日	任期满了一般選挙
平成25年4月21日	任期满了一般選挙
平成29年4月16日	任期满了一般選挙

## 2 歴代市議会議員

### (1) 歴代議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	代田源六郎	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
		昭和32. 5. 10	昭和36. 4. 27
		昭和36. 5. 15	昭和40. 4. 27
		昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
		昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
2代	辻 虎松	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
3代	近松 宗一	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
		昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
4代	伊原 悦雄	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
		昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
5代	林 昌平	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
		昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
		昭和56. 5. 7	昭和58. 4. 22
6代	松嶋 健次	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
		昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
7代	平澤 與一	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
8代	塩澤 昭	平成元. 5. 10	平成3. 1. 31
9代	竹村 仁實	平成3. 1. 31	平成3. 5. 9
10代	實原 裕	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
11代	今村 八束	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
		平成7. 5. 12	平成9. 4. 27
12代	小林 利一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 13
		平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
13代	西尾 喜好	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
14代	岩崎 和男	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
15代	熊谷 富夫	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
16代	上澤 義一	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
17代	中島武津雄	平成21. 5. 12	平成23. 5. 13
18代	上澤 義一	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
19代	林 幸次	平成25. 5. 13	平成27. 5. 12
20代	木下 克志	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
21代	清水 勇	平成29. 5. 9	

## (2) 歴代副議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	伊藤 清	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	片山 均	昭和32. 5. 10	昭和36. 4. 27
		昭和36. 5. 15	昭和39. 8. 1
3代	熊谷 一郎	昭和39. 9. 15	昭和40. 4. 27
		昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
4代	小林 新吾	昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
5代	市村 保人	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
6代	今村 輝男	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
		昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
7代	新井 安男	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
8代	林 昌平	昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
9代	松江 良夫	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
10代	片桐 勲	昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
11代	松江 良夫	昭和56. 5. 7	昭和58. 4. 22
12代	平澤 與一	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
		昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
13代	細田 直彦	昭和62. 5. 12	昭和63. 11. 10
14代	関島 一郎	昭和63. 12. 2	平成元. 4. 27
15代	竹村 仁實	平成元. 5. 10	平成3. 1. 31
16代	松江 良夫	平成3. 1. 31	平成3. 5. 9
17代	内山 照美	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
18代	澤柳辨治郎	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
19代	松島 年一	平成7. 5. 12	平成8. 10. 31
20代	片桐 司郎	平成8. 10. 31	平成9. 4. 27
		平成9. 5. 13	平成11. 5. 13
21代	中田 佳甫	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
22代	牧内 信臣	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
23代	渡 淳	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
24代	林 幸次	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
25代	矢澤 芳文	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
26代	清水 可晴	平成21. 5. 12	平成23. 5. 13
27代	村松まり子	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
28代	木下 克志	平成25. 5. 13	平成27. 5. 12
29代	木下 容子	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
30代	永井 一英	平成29. 5. 9	

## (3) 歴代総務常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	総務部委員会	木下 章雄	近松 宗一 前島 秀夫	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	島岡 利雄	伊藤 誠一	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	熊谷 一郎	伊藤 誠一	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	〃	〃	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	近松 宗一	大平 節蔵	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	関島彦四郎	北原 正司	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	近松 宗一	前島 秀夫	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	辻 虎松	松島 健次	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	鳴海 衛	宮嶋 繁	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	総務文教委員会	市村 保人	橋部 肇	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	茂木立好則	前島 成光	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	斉藤 為良	細田 直彦	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	内田 篤	川手 守	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	〃	原 廣男	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	片桐七右衛門	前島 成光	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	細田 直彦	塩澤 文朗	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	竹村 仁實	熊谷 康登	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
19代	〃	今村 八束	今村 淳	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
20代	〃	久保田 元	吉川 昌子	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
21代	〃	松島 年一	今村 淳	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
22代	〃	小林 利一	牧内 信臣	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
23代	〃	吉村徳一郎	渡 淳	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
24代	〃	岩崎 和男	〃	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
25代	〃	熊谷 富夫	小池 清	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
26代	〃	下平 政幸	中島武津雄	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
27代	〃	上澤 義一	村松まり子	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
28代	〃	原 勉	森本美保子	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
29代	〃	林 幸次	原 和世	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
30代	〃	木下 容子	森本美保子	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
31代	総務委員会	清水 勇	原 和世	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
32代	〃	吉川 秋利	古川 仁	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
33代	〃	湊 猛	木下 容子	平成29. 5. 10	

※ 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行



## (4) 歴代社会文教常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	社会部委員会	児島 栄次	久保田安美 宮内 昇	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	実原 徳重	知久陽之祐	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	〃	田口 秀男	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	辻 虎松	漆原 恒実	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	〃	〃	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	〃	〃	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	漆原 恒実	榊田 太一	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	佐々木清信	松江 良夫	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	斉藤 宗義	熊谷政一郎	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	林 昌平	伊東 秀彦	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	社会民生委員会	西尾 仁一	松下 茂	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	松江 良夫	片桐七右衛門	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	社会委員会	片桐 勲	佐々木文雄	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	松江 良夫	中島 勝美	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	尾沢 貞夫	片桐 芳朗	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	松下 茂	平田 友畝	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	森本 藤登	今村 八束	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	西尾 保雄	吉川 義治	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
19代	〃	〃	小林 利一	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
20代	〃	片桐 司郎	関島 秀夫	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
21代	〃	櫻井 俊夫	西尾 喜好	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
22代	〃	下平 一郎	中田 佳甫	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
23代	〃	中田 佳甫	熊谷 富夫	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
24代	〃	牛山 重一	井坪 隆	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
25代	〃	菅沼 立男	中島武津雄	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
26代	〃	柄澤 紀春	荒木 興利	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
27代	〃	原 勉	森本美保子	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
28代	〃	中島武津雄	木下 容子	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
29代	〃	森本美保子	村松まり子	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
30代	〃	木下 克志	後藤 荘一	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
31代	社会文教委員会	井坪 隆	湯澤 啓次	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
32代	〃	新井信一郎	清水 可晴	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
33代	〃	福沢 清	山崎 昌伸	平成29. 5. 10	

※ 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

## (5) 歴代産業建設常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	産業部委員会	田中 伝	宮下 綱六 宮川藤次郎	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	小林 新吾	堀 保麿	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	〃	丸山 治郎	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	葛岡 利治	〃	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	丸山 治郎	松重 新一	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	〃	宮脇 省	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	産業経済部委員会	新井 安男	原 茂	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	今村 輝男	新井 安男	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
9代	〃	林 昌平	原田 正志	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	北原 正司	小松 芳男	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	産業経済委員会	原 茂	佐々木 勝	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	北原 正司	橋部 肇	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	平沢 與一	原 廣男	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	原 康次	林 利実	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	平澤 與一	竹村 仁實	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	片桐 勲	〃	昭和58. 5. 8	昭和59. 10. 14
17代	〃	竹村 仁實	中田 修	昭和59. 10. 26	昭和60. 4. 27
18代	〃	〃	塩澤 昭	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
19代	〃	酒井 米	小林 三郎	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
20代	〃	内山 照美	下平 一郎	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	下平 一郎	小林 利一	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
22代	〃	〃	伊原 与一	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	佐藤 好英	吉川 義治	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
24代	〃	西尾 喜好	岩崎 和男	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
25代	〃	下平 政幸	熊谷 富夫	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
26代	〃	渡 淳	上澤 義一	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
27代	〃	矢澤 芳文	佐々木重光	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
28代	〃	清水 可晴	原 和世	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
29代	〃	原 和世	山崎 紀男	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
30代	〃	木下 克志	木下 容子	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
31代	〃	伊壺 敏子	吉川 秋利	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
32代	産業建設委員会	吉川 秋利	後藤 莊一	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
33代	〃	永井 一英	湊 猛	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
34代	〃	湯澤 啓次	熊谷 泰人	平成29. 5. 10	

※ 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

## (6) 歴代建設環境常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	建設部委員会	辻 虎松	竹内 兵治 伊原 悦雄	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	近松 宗一	林 省三	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	山田 亮一	伊原 悦雄	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	佐々木清信	木下 章雄	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	木下 章雄	新井 安男	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	佐々木清信	林 昌平	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	今牧 照男	〃	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	伊原 悦雄	代田 保雄	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	今牧 照男	茂木立好則	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	新井 安男	大蔵 浜雄	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	建設委員会	茂木立好則	〃	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	斉藤 宗義	今牧 泰三	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	橋部 肇	今村 馨	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	森本 藤登	木下 登	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	今村 馨	熊谷 康登	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	細田 直彦	木下 登	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	関島 一郎	酒井 米	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	〃	實原 裕	昭和62. 5. 12	昭和63. 12. 1
19代	〃	實原 裕	塩澤 昭	昭和63. 12. 2	平成元. 4. 27
20代	〃	平田 友畝	澤柳辨治郎	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	松島 年一	〃	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
22代	〃	吉川 義治	佐藤 好英	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	塩澤 俊彦	伊藤 芳之	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
24代	〃	牧内 信臣	木下 昭一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
25代	〃	實原 公男	久保田平八郎	平成11. 5. 13	平成12. 10. 21
26代	〃	菅沼 立男	〃	平成12. 10. 31	平成13. 4. 27
27代	建設環境委員会	井坪 隆	原 勉	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
28代	〃	木下 昭一	原 和世	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
29代	〃	佐々木重光	湯澤 宗保	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
30代	〃	柄澤 紀春	後藤 修三	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
31代	〃	伊壺 敏子	吉川 秋利	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
32代	〃	原 和世	永井 一英	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27

※ 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

## (7) 歴代議会運営委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	議会運営委員会	木下 章雄	近松 宗一	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	島岡 利雄	伊藤 誠一	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 18
3代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	熊谷 一郎	伊藤 誠一	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 23
5代	〃	佐々木清信	熊谷 一郎	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	近松 宗一	鳴海 衛	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	斉藤 宗義	代田 保雄	昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
8代	〃	丸山 治郎	原田 正志	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
9代	〃	新井 安男	原 茂	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
10代	〃	松江 良夫	西尾 仁一	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	〃	伊東 秀彦	太田 猶市	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	松嶋 健次	尾沢 貞夫	昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
13代	〃	尾沢 貞夫	竹村 仁實	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
14代	〃	片桐七右衛門	塩沢 文朗	昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
15代	〃	木下 登	内山 照美	昭和56. 5. 8	昭和57. 3. 1
16代	〃	片桐七右衛門	〃	昭和57. 3. 1	昭和58. 4. 22
17代	〃	中島 勝美	酒井 米	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
18代	〃	内山 照美	平田 友畝	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
19代	〃	平田 友畝	松島 年一	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
20代	〃	松島 年一	久保田 元	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	吉川 義治	今村 淳	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
22代	〃	中田 佳甫	牧内 信臣	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	伊原 与一	片桐 司郎	平成7. 5. 13	平成8. 4. 22
24代	〃	澤柳辨治郎	〃	平成8. 6. 4	平成8. 10. 31
25代	〃	〃	桜井 俊夫	平成8. 10. 31	平成9. 4. 27
26代	〃	久保田平八郎	牛山 重一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
27代	〃	木下 昭一	菅沼 立男	平成11. 5. 13	平成12. 10. 30
28代	〃	〃	柄澤 紀春	平成12. 10. 31	平成13. 4. 27
29代	〃	矢澤 芳文	清水 可晴	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
30代	〃	上澤 義一	林 幸次	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
31代	〃	原 和世	下平 勝熙	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
32代	〃	下平 勝熙	木下 克志	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
33代	〃	井坪 隆	清水 勇	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
33代	〃	林 幸次	新井信一郎	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
34代	〃	清水 可晴	村松まり子	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
35代	〃	清水 勇	後藤 莊一	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
36代	〃	村松まり子	吉川 秋利	平成29. 5. 10	

## (8) 歴代監査委員 (議会選出)

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	田中 悟	昭和31. 10. 1	昭和32. 4. 27
2代	佐々木清信	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	熊谷 一郎	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	関島彦四郎	昭和36. 5. 15	昭和41. 6. 15
5代	市村 保人	昭和41. 6. 17	昭和42. 6. 5
6代	宮内 昇	昭和42. 6. 6	昭和44. 4. 27
7代	市村 保人	昭和44. 5. 7	昭和46. 6. 3
8代	宮内 昇	昭和46. 6. 4	昭和50. 6. 6
9代	近松 宗一	昭和50. 6. 10	昭和52. 4. 27
10代	伊原 悦雄	昭和52. 6. 6	昭和54. 4. 13
11代	松下 茂	昭和54. 4. 16	昭和56. 5. 7
12代	西尾 保雄	昭和56. 5. 8	昭和60. 4. 27
13代	實原 裕	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
14代	松嶋 健次	昭和62. 5. 13	平成元. 4. 27
15代	小林 三郎	平成元. 5. 10	平成2. 6. 30
16代	實原 裕	平成2. 7. 16	平成3. 5. 9
17代	竹村 仁實	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
18代	〃	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
19代	實原 裕	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
20代	竹村 仁實	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
21代	片桐 司郎	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
22代	小林 利一	平成13. 5. 15	平成15. 3. 3
23代	西尾 喜好	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
24代	岩崎 和男	平成17. 5. 13	平成19. 5. 10
25代	熊谷 富夫	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
26代	上澤 義一	平成21. 5. 13	平成23. 5. 12
27代	中島武津雄	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
28代	〃	平成25. 5. 14	平成29. 4. 27
29代	木下 克志	平成29. 5. 10	

## (9) 歴代事務局長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	林 政人	昭和31. 9. 30	昭和39. 3. 31
2代	久保 武敏	昭和39. 4. 1	昭和44. 3. 31
3代	福井 実	昭和44. 4. 1	昭和44. 10. 19
4代	村沢 光男	昭和44. 10. 20	昭和48. 6. 30
5代	酒井 篤	昭和48. 7. 1	昭和50. 3. 31
6代	宮沢 邦男	昭和50. 4. 1	昭和54. 3. 31
7代	木下 良美	昭和54. 4. 1	昭和56. 3. 31
8代	松澤 平吉	昭和56. 4. 1	昭和59. 3. 31
9代	坂下 幸彦	昭和59. 4. 1	平成元. 3. 31
10代	小木曾義信	平成元. 4. 1	平成3. 3. 31
11代	浦野 勉	平成3. 4. 1	平成6. 3. 31
12代	横田 常	平成6. 4. 1	平成9. 3. 31
13代	山岸一二三	平成9. 4. 1	平成11. 3. 31
14代	吉川 元勝	平成11. 4. 1	平成13. 3. 31
15代	中本 卓良	平成13. 4. 1	平成15. 3. 31
16代	福田 富廣	平成15. 4. 1	平成16. 3. 31
17代	大沢 英二	平成16. 4. 1	平成17. 3. 31
18代	尾澤 敏秀	平成17. 4. 1	平成19. 3. 31
19代	中井 洋一	平成19. 4. 1	平成20. 3. 31
20代	平澤 和人	平成20. 4. 1	平成20. 12. 31
21代	篠田 雅弘	平成21. 1. 1	平成25. 3. 31
22代	福澤 栄二	平成25. 4. 1	平成27. 3. 31
23代	土屋 寿憲	平成27. 4. 1	平成29. 3. 31
24代	吉川 昌彦	平成29. 4. 1	

(10) 歴代市議会議員

ア 昭和31年9月30日執行（1市7か村合併）

(7) 三穂地区 12人

林 武男	林 武司	坂巻 政美	林 保	古川 舎人	佐藤 芳房
宮沢 敬信	前沢 蔵六	川井 邦	西村 文雄	川上 竹市	久保田安美

(イ) 飯田地区 29人

代田源六郎	斉藤 隆久	今村 正美	田口 秀夫	牧島 保一	大竹 四郎
井村豊太郎	井原 淳治	辻 虎松	山田 亮一	深津 一郎	酒井 府
古瀬 仁	菊池 恭平	児島 栄次	宮下 綱六	吉川 一	中田 栄
木下 一人	実原 徳重	佐々木清信	近松 宗一	木下 勝義	加藤 英男
田中 悟	早川 清雄	荒井重右衛門	長坂 晃	漆原 恒実	

(ウ) 座光地地区 16人

知久陽之祐	北原 弘	片桐 卓治	上沼 善夫	黒川 利一	今村 良美
湯沢 博司	篠田力三郎	棚田 正雄	佐々木貞雄	竹内 武男	原田 栄治
佐々木信雄	原田 幸雄	三村 利	竹内 兵治		

(エ) 竜丘地区 16人

伊原 悦雄	下平 広志	原 登	吉川 正己	中平恒三郎	今村 恵
長沼 保治	林 正司	松村 新八	前島 秀夫	北沢小太郎	沖田 武一
下田 巖	原 光人	下平 勲資	塚平 睦雄		

(オ) 松尾地区 22人

林 宗三郎	江塚 角三	斉藤 忠治	木下 徳雄	塩沢 秋生	平栗 英祐
山中 竜策	今村 輝男	小木曾嘉一	青山 孝一	常盤 喜八	福島 淡
牛草 利春	藤田 勇夫	塩沢伝之助	中山 政雄	奥田 利吉	松村 信一
熊谷 好次	金井 啓	伊与部金一	木下 章雄		

(カ) 下久堅地区 16人

平沢 清人	池田 嘉篤	吉沢 昇	羽生 一善	宮川藤次郎	森岡 清志
宮内 昇	三石 義臣	宮脇 利雄	桐生 忠治	橋爪徳次郎	三石誠一郎
羽場 義雄	木下 平治	坂井 伸一	平沢 亮治		

(キ) 伊賀良地区 22人

坂下 美富	矢沢 秀一	相原 貢	橋部 文男	今牧 泰三	伊藤 仁
佐々木省吾	元島 均治	今牧 照男	平田 武司	水野 恒夫	神部 稲男
矢沢 清志	松沢 武雄	伊藤 清	肥後 明一	平田 薫	田部 勇
鈴木 太郎	新井 一正	宮下 喜一	原 稲太郎		

(ク) 山本地区 16人

尾沢 元一	熊谷 英雄	竹村 汎愛	平岩四郎吉	竹村 央	遠山 皓
熊谷 広男	山内 精一	田中 伝	金田 伝	唐沢 茂一	玉置 敏夫
久保田久吉	金沢 重雄	熊崎 六蔵	小池 政之		

合計 149人

イ 昭和32年4月28日執行（合併による設置選挙 任期は昭和32年4月28日から昭和36年4月27日  
日まで 8選挙区 定数36）

片山 均	伊藤 誠一	久保田一男	松沢 広	田中 伝	島岡 利雄
林 保	林 省三	北沢小太郎	伊原 悦雄	木下 章雄	伊与部金一
葛岡 利治	丸山 治郎	小林 新吾	宮脇 省	佐々木利夫	知久陽之祐
代田源六郎	実原 徳重	佐々木清信	近松 宗一	今村 正美	児島 栄次
井原 淳治	堀 保麿	福島 勝男	古瀬 仁	漆原 恒美	串原 義直
山田 亮一	深津 一郎	辻 虎松	熊谷 一郎	田口 秀男	岡島 新治

ウ 昭和35年10月25日執行（飯田地区補欠選挙 任期は昭和35年10月26日から昭和36年4月27日  
まで 定数3）

新井 安男 鳴海 衛 前島 成光

エ 昭和36年4月23日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和36年4月28日から昭和40年4月27日  
まで9選挙区 定数28）

片山 均	浜島 惣一	伊原 春男	鳴海 衛	宮内 昇	葛岡 利治
岡村 賢作	知久陽之祐	丸山 治郎	関島彦四郎	佐々木清信	代田源六郎
代田 哲	今牧 照男	新井 安男	近松 宗一	木下 章雄	串原 義直
福島 勝男	前島 成光	小林 新吾	沢柳 敏夫	漆原 恒美	辻 虎松
竹村 央	伊藤 誠一	松重 新一	熊谷 一郎		

オ 昭和39年5月15日執行（龍江村、千代村及び上久堅村の3か村合併による増員選挙 任期は  
昭和39年5月15日から昭和40年4月27日まで 定数は龍江2、千代2、上久堅1の合計5）

林 昌平 松尾 純二 大平 節蔵 林 武男 斉藤 宗義

カ 昭和39年8月28日執行（伊賀良地区補欠選挙 任期は昭和39年8月29日から昭和40年4月27日  
日まで 定数1）

代田 保雄

キ 昭和39年10月25日執行（飯田地区補欠選挙 任期は昭和39年10月26日から昭和40年4月27日  
まで 定数1）

宮嶋 繁

ク 昭和40年4月25日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和40年4月28日から昭和44年4月27日  
日まで 全市1選挙区 定数36）

林 昌平	前島 秀夫	北原 正司	鳴海 衛	辻 虎松	市村 保人
小林 新吾	代田 保雄	近松 宗一	代田源六郎	矢崎 三郎	沢柳 俊夫
榊田 太一	今村 治郎	丸山 治郎	松江 良夫	伊原 悦雄	原 茂
大蔵 浜雄	宮嶋 茂	漆原 恒美	富田 政雄	葛岡 利治	大平 節蔵
今村 輝男	新井 安男	佐々木清信	宮内 昇	熊谷 一郎	宮脇 省



前島 成光 熊谷 武志 齊藤 宗義 原田 正志 今牧 照男 関島彦四郎

ケ 昭和43年10月20日執行（補欠選挙 任期は昭和43年10月21日から昭和44年4月27日まで 定数2）

茂木立好則 内田 篤

コ 昭和44年4月20日執行（任期满了一般選挙 任期は昭和44年4月28日から昭和48年4月27日まで 定数36）

池上 一雄	茂木立好則	位高 勉	永山 忠男	前島 成光	佐藤力三郎
今牧 照男	齊藤 宗義	小松 芳男	江塚 善二	宮内 昇	大蔵 浜雄
松下 茂	原 茂	原 康次	原田 正志	熊谷政一郎	西尾 仁一
中山 栄次	辻 虎松	榊田 太一	内田 篤	伊東 秀彦	北原 正司
松嶋 健次	今村 輝男	林 昌平	新井 安男	片桐 勲	近松 宗一
宮嶋 繁	熊谷 武志	市村 保人	鳴海 衛	伊原 悦雄	松江 良夫

サ 昭和47年10月22日執行（補欠選挙 任期は昭和47年10月23日から昭和48年4月27日まで 定数2）

森本 藤登 今牧 泰三

シ 昭和48年4月22日執行（任期满了一般選挙 任期は昭和48年4月28日から昭和52年4月27日まで 定数36）

大蔵 浜雄	塩沢 文朗	片桐 芳朗	川手 守	前島 成光	佐藤力三郎
片桐七右衛門	伊藤 祐春	太田 猶市	佐々木 勝	平澤 與一	尾沢 貞夫
松下 茂	森本 藤登	佐々木清信	鳴海 衛	原 茂	松江 良夫
伊東 秀彦	松嶋 健次	今牧 泰三	内田 篤	西尾 仁一	橋部 肇
齊藤 為良	新井 安男	市村 保人	齊藤 宗義	今村 輝男	北原 正司
伊原 悦雄	近松 宗一	江塚 善二	宮内 昇	茂木立好則	林 昌平

ス 昭和51年10月17日執行（補欠選挙 任期は昭和51年10月18日から昭和52年4月27日まで 定数3）

熊谷 康登 西尾 保雄 片桐 勲

セ 昭和52年4月17日執行（任期满了一般選挙 任期は昭和52年4月28日から昭和56年4月27日まで 定数30に減少）

片桐七右衛門	塩沢 文朗	片桐 芳朗	川手 守	熊谷 康登	齊藤 宗義
竹村 仁實	木下 登	原 広男	原 康次	松下 茂	西尾 保雄
内田 篤	森本 藤登	今村 馨	平澤 與一	片桐 勲	中島 勝美
林 利実	尾沢 貞夫	橋部 肇	細田 直彦	佐々木文雄	佐々木 勝
齊藤 為良	西尾 仁一	茂木立好則	松江 良夫	林 昌平	伊原 悦雄

ソ 昭和55年10月19日執行（補欠選挙 任期は昭和55年10月20日から昭和56年4月27日まで 定数1）

内山 照美

タ 昭和56年4月19日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和56年4月28日から昭和60年4月27日まで 定数30）

塩沢 昭	實原 裕	平田 友畝	酒井 米	前島 成光	熊谷 康登
片桐 芳朗	塩沢 文朗	中田 修	竹村 仁實	今村 馨	内山 照美
木下 登	西尾 保雄	原 康次	森本 藤登	中島 勝美	片桐七右衛門
松島 健次	原 広男	細田 直彦	平澤 與一	松下 茂	内田 篤
松江 良夫	林 昌平	片桐 勲	尾沢 貞夫	茂木立好則	伊原 悦雄

チ 昭和59年10月21日執行（補欠選挙 任期は昭和59年10月22日から昭和60年4月27日まで 定数1）

今村 八束

ツ 昭和59年12月1日執行（鼎町合併により鼎町議員が引き続いて市議会議員として在任 任期は昭和59年12月1日から昭和60年4月27日まで 定数52）

田原 慶一	武田 良人	中村 岸美	中島文三郎	木下 為輔	関島 一郎
五十君酒造大	高木 敏美	松沢アサエ	河村 弘久	水野佐知穂	村沢 延
吉川 義治	今村 淳	村沢 博	鷺見 知一	北沢 芳男	新井紀一郎
片桐 司郎	下田 武志	小林 雅夫	関島 秀夫		

テ 昭和60年4月21日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和60年4月28日から平成元年4月27日まで 定数31）

田中 秀典	下平 一郎	小林 三郎	松島 年一	澤柳辨治郎	吉川 昌子
熊谷 康登	牧内 信臣	櫻井 俊夫	久保田 元	吉川 義治	武田 良人
今村 八束	原 広男	今村 淳	塩沢 文朗	片桐 司郎	西尾 保雄
塩沢 昭	實原 裕	平田 友畝	酒井 米	関島 一郎	内山 照美
森本 藤登	松下 茂	竹村 仁實	細田 直彦	尾沢 貞夫	平澤 與一
松嶋 健次					

ト 昭和63年10月16日執行（補欠選挙 任期は昭和63年10月17日から平成元年4月27日まで 定数2）

小林 利一 長谷部徳治

ナ 平成元年4月23日執行（任期満了一般選挙 任期は平成元年4月28日から平成5年4月27日まで 定数31）

西尾 喜好	吉村徳一郎	伊原 与一	佐藤 好英	中田 佳甫	吉川 昌子
牛山 重一	牧内 信臣	塩澤 俊彦	長谷部徳治	伊藤 芳之	小林 利一

関島 秀夫	下平 一郎	渡 淳	今村 淳	櫻井 俊夫	片桐 司郎
小林 三郎	松島 年一	澤柳辨治郎	久保田 元	吉川 義治	今村 八束
西尾 保雄	塩澤 昭	實原 裕	平田 友畝	内山 照美	竹村 仁實
松江 良夫					

ニ 平成4年10月18日執行（補欠選挙 任期は平成4年10月19日から平成5年4月27日まで 定数1）

井出 健介

又 平成5年4月25日執行（任期満了一般選挙 任期は平成5年4月28日から平成9年4月27日まで 定数31）

柄澤 紀春	菅沼 立男	吉川 四郎	實原 公男	熊谷 富夫	久保田平八郎
下平 政幸	木下 昭一	牛山 重一	牧内 信臣	吉川 昌子	塩澤 俊彦
長谷部徳治	西尾 喜好	吉村徳一郎	伊原 与一	佐藤 好英	中田 佳甫
伊藤 芳之	渡 淳	今村 淳	櫻井 俊夫	片桐 司郎	小林 利一
下平 一郎	松島 年一	澤柳辨治郎	吉川 義治	今村 八束	實原 裕
竹村 仁實					

ネ 平成5年8月1日執行（上郷町編入合併に伴う増員選挙 任期は平成5年8月2日から平成9年4月27日まで 定数5）

中田 裕康 井坪 隆 岩崎 和男 岡島 豊 大坪 勇

ノ 平成8年10月20日執行（補欠選挙 任期は平成8年10月21日から平成9年4月27日まで 定数1）

矢澤 芳文

ハ 平成9年4月20日執行（任期満了一般選挙 任期は平成9年4月28日から平成13年4月27日まで 定数31）

佐藤久美子	小池 清	清水 可晴	佐々木重光	原 勉	中島武津雄
上澤 義一	荒木 興利	大坪 勇	牛山 重一	牧内 信臣	矢澤 芳文
井坪 隆	岩崎 和男	林 幸次	渡 淳	熊谷 富夫	久保田平八郎
下平 政幸	木下 昭一	西尾 喜好	柄澤 紀春	菅沼 立男	實原 公男
吉村徳一郎	佐藤 好英	中田 佳甫	小林 利一	今村 八束	片桐 司郎
竹村 仁實					

ヒ 平成12年10月15日執行（補欠選挙 任期は平成12年10月16日から平成13年4月27日まで 定数1）

原 和世

フ 平成13年4月22日執行（任期満了一般選挙 任期は平成13年4月28日から平成17年4月27日

まで 定数31)

木下 容子	下平 勝熙	伊壺 敏子	大谷 恵子	湯澤 宗保	森本美保子
村松まり子	牛山満智子	清水 可晴	小池 清	牛山 重一	牧内 信臣
原 和世	原 勉	林 幸次	渡 淳	久保田平八郎	柄澤 紀春
菅沼 立男	中島武津雄	上澤 義一	佐々木重光	荒木 興利	井坪 隆
岩崎 和男	矢澤 芳文	熊谷 富夫	下平 政幸	木下 昭一	西尾 喜好
小林 利一					

へ 平成16年10月24日執行（補欠選挙 任期は平成16年10月25日から平成17年4月27日まで 定数2）

後藤 荘一 木下 克志

ホ 平成17年4月24日執行（任期満了一般選挙 任期は平成17年4月28日から平成21年4月27日まで 定数27）

清水 勇	代田 剛嗣	新井信一郎	内山 要子	吉川 秋利	伊藤 清春
永井 一英	木下 容子	下平 勝熙	後藤 荘一	木下 克志	湯澤 宗保
森本美保子	柄澤 紀春	村松まり子	林 幸次	清水 可晴	伊壺 敏子
原 和世	原 勉	中島武津雄	上澤 義一	佐々木重光	矢澤 芳文
岩崎 和男	熊谷 富夫	牧内 信臣			

マ 平成17年10月30日執行（上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙 任期は平成17年10月31日から平成21年4月27日まで 定数2）

山崎 紀男 後藤 修三

ミ 平成21年4月19日執行（任期満了一般選挙 任期は平成21年4月28日から平成25年4月27日まで 定数23に減少）

湯澤 啓次	湊 猛	清水 勇	吉川 秋利	永井 一英	福沢 清
内田 雄一	牛山満智子	新井信一郎	木下 克志	木下 容子	下平 勝熙
村松まり子	森本美保子	後藤 荘一	伊壺 敏子	中島武津雄	上澤 義一
清水 可晴	林 幸次	井坪 隆	原 和世	原 勉	

ム 平成25年4月21日執行（任期満了一般選挙 任期は平成25年4月28日から平成29年4月27日まで 定数23）

竹村 圭史	木下 徳康	熊谷 泰人	湯澤 啓次	山崎 昌伸	森本 政人
古川 仁	小倉 高広	湊 猛	新井信一郎	清水 勇	吉川 秋利
永井 一英	木下 容子	福沢 清	後藤 荘一	木下 克志	中島武津雄
村松まり子	林 幸次	清水 可晴	井坪 隆	原 和世	

メ 平成29年4月16日執行（任期満了一般選挙 任期は平成29年4月28日から平成33年4月27日  
まで 定数23）

清水優一郎	岡田 倫英	塚平 一成	竹村 圭史	小林 真一	福澤 克憲
古川 仁	木下 徳康	山崎 昌伸	熊谷 泰人	湯澤 啓次	永井 一英
福沢 清	木下 容子	後藤 荘一	湊 猛	新井信一郎	清水 勇
吉川 秋利	木下 克志	村松まり子	井坪 隆	原 和世	

### 3 1年間の記録

#### (1) 付議事件及び議決結果一覧表

##### ① 市長提出議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第1号	公平委員会の委員の選任について	28.2.23	28.2.23	同意
議案第2号	固定資産評価審査委員会の委員の選任について	28.2.23	28.2.23	同意
議案第3号	人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて	28.2.23	28.2.23	同意
議案第4号	飯田市固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例の制定について	28.2.23	28.3.18	可決
議案第5号	飯田市行政不服審査会条例の制定について	28.2.23	28.3.18	可決
議案第6号	飯田市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	28.2.23	28.3.18	可決
議案第7号	飯田市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について	28.2.23	28.3.18	可決
議案第8号	飯田市特別職報酬等審議会条例の一部を改正する条例の制定について	28.2.23	28.3.18	可決
議案第9号	議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	28.2.23	28.3.18	可決
議案第10号	飯田市職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	28.2.23	28.3.18	可決
議案第11号	飯田市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部を改正する条例の制定について	28.2.23	28.3.18	可決
議案第12号	飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	28.2.23	28.3.18	可決
議案第13号	飯田市税条例の一部を改正する条例の制定について	28.2.23	28.3.18	可決
議案第14号	飯田市中心間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	28.2.23	28.3.18	可決
議案第15号	飯田市消費生活センターの組織及び運営等に関する条例の制定について	28.2.23	28.3.18	可決
議案第16号	飯田市デイサービスセンター条例及び飯田市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営の基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について	28.2.23	28.3.18	可決
議案第17号	飯田市保健センター設置条例の一部を改正する条例の制定について	28.2.23	28.3.18	可決
議案第18号	飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例の制定について	28.2.23	28.3.18	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第19号	飯田市消防団条例の一部を改正する条例の制定について	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第20号	飯田市防災会議条例の一部を改正する条例の制定について	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第21号	飯田市消防委員会条例及び飯田市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第22号	学校教育法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第23号	飯田市公民館条例の一部を改正する条例の制定について	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第24号	新市建設計画の変更について	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第25号	飯田市過疎地域自立促進計画の変更について	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第26号	飯田市過疎地域自立促進計画の策定について	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第27号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市南信濃木沢都市山村交流促進施設）	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第28号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市21世紀環境共生型モデル住宅）	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第29号	公の施設の指定管理者の指定について（座光寺つどいの広場）	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第30号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市千代デイサービスセンター）	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第31号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市上村若者センター等）	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第32号	市道路線の認定について	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第33号	市道路線の廃止について	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第34号	市道路線の変更について	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第35号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市北田遺跡公園）	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第36号	平成27年度飯田市一般会計補正予算（第6号）案	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第37号	平成27年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）案	28. 2. 23	28. 3. 18	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第38号	平成27年度飯田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）案	28.2.23	28.3.18	可決
議案第39号	平成27年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第2号）案	28.2.23	28.3.18	可決
議案第40号	平成27年度飯田市下水道事業特別会計補正予算（第3号）案	28.2.23	28.3.18	可決
議案第41号	平成27年度飯田市病院事業会計補正予算（第2号）案	28.2.23	28.3.18	可決
議案第42号	平成27年度飯田市水道事業会計補正予算（第2号）案	28.2.23	28.3.18	可決
議案第43号	平成27年度飯田市各財産区会計補正予算（第2号）案	28.2.23	28.3.18	可決
議案第44号	平成28年度飯田市一般会計予算（案）	28.2.23	28.3.18	可決
議案第45号	平成28年度飯田市国民健康保険特別会計予算（案）	28.2.23	28.3.18	可決
議案第46号	平成28年度飯田市後期高齢者医療特別会計予算（案）	28.2.23	28.3.18	可決
議案第47号	平成28年度飯田市介護保険特別会計予算（案）	28.2.23	28.3.18	可決
議案第48号	平成28年度飯田市地方卸売市場事業特別会計予算（案）	28.2.23	28.3.18	可決
議案第49号	平成28年度飯田市駐車場事業特別会計予算（案）	28.2.23	28.3.18	可決
議案第50号	平成28年度飯田市墓地事業特別会計予算（案）	28.2.23	28.3.18	可決
議案第51号	平成28年度飯田市簡易水道事業特別会計予算（案）	28.2.23	28.3.18	可決
議案第52号	平成28年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計予算（案）	28.2.23	28.3.18	可決
議案第53号	平成28年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計予算（案）	28.2.23	28.3.18	可決
議案第54号	平成28年度飯田市病院事業会計予算（案）	28.2.23	28.3.18	可決
議案第55号	平成28年度飯田市水道事業会計予算（案）	28.2.23	28.3.18	可決
議案第56号	平成28年度飯田市下水道事業会計予算（案）	28.2.23	28.3.18	可決



事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第57号	平成28年度飯田市各財産区会計予算（案）	28. 2. 23	28. 3. 18	可決
議案第58号	南信州広域連合が処理する事務の変更及び南信州広域連合規約の変更について	28. 3. 3	28. 3. 18	可決
議案第59号	産業振興及び地域振興に寄与する学術研究のための知の拠点の整備に関する事務の委託について	28. 3. 3	28. 3. 18	可決
議案第60号	財産の取得について	28. 3. 3	28. 3. 18	可決
議案第61号	平成27年度飯田市一般会計補正予算（第7号）案	28. 3. 3	28. 3. 18	可決
議案第62号	飯田市千代財産区管理委員の選任について	28. 3. 18	28. 3. 18	同意
議案第63号	飯田市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について	28. 3. 18	28. 3. 18	可決
議案第64号	飯田市中央財産区管理委員の選任について	28. 5. 24	28. 5. 24	同意
議案第65号	飯田市松尾地区財産区管理委員の選任について	28. 5. 24	28. 5. 24	同意
議案第66号	飯田市鼎財産区管理委員の選任について	28. 5. 24	28. 5. 24	同意
議案第67号	飯田市東野財産区管理委員の選任について	28. 5. 24	28. 5. 24	同意
議案第68号	飯田市千代財産区管理委員の選任について	28. 5. 24	28. 5. 24	同意
議案第69号	飯田市税条例等の一部を改正する条例の制定について	28. 5. 24	28. 6. 15	可決
議案第70号	飯田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	28. 5. 24	28. 6. 15	可決
議案第71号	財産の処分について	28. 5. 24	28. 6. 15	可決
議案第72号	工事請負契約の一部変更について（周辺施設整備建築工事）	28. 5. 24	28. 6. 15	可決
議案第73号	平成28年度飯田市一般会計補正予算（第1号）案	28. 5. 24	28. 6. 15	可決
議案第74号	平成28年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）案	28. 5. 24	28. 6. 15	可決
議案第75号	人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて	28. 8. 30	28. 8. 30	同意

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第76号	飯田市南部財産区管理委員の選任について	28. 8. 30	28. 8. 30	同意
議案第77号	飯田市中央財産区管理委員の選任について	28. 8. 30	28. 8. 30	同意
議案第78号	飯田市羽場財産区管理委員の選任について	28. 8. 30	28. 8. 30	同意
議案第79号	飯田市野底財産区管理委員の選任について	28. 8. 30	28. 8. 30	同意
議案第80号	飯田市東野財産区管理委員の選任について	28. 8. 30	28. 8. 30	同意
議案第81号	飯田市税条例の一部を改正する条例の制定について	28. 8. 30	28. 9. 26	可決
議案第82号	飯田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	28. 8. 30	28. 9. 26	可決
議案第83号	飯田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	28. 8. 30	28. 9. 26	可決
議案第84号	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について	28. 8. 30	28. 9. 26	可決
議案第85号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市地域資源総合管理施設）	28. 8. 30	28. 9. 26	可決
議案第86号	訴えの提起について	28. 8. 30	28. 9. 26	可決
議案第87号	平成27年度飯田市病院事業剰余金の処分について	28. 8. 30	28. 9. 26	可決
議案第88号	平成27年度飯田市水道事業剰余金の処分について	28. 8. 30	28. 9. 26	可決
議案第89号	平成28年度飯田市一般会計補正予算（第3号）案	28. 8. 30	28. 9. 26	可決
議案第90号	平成28年度飯田市簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）案	28. 8. 30	28. 9. 26	可決
議案第91号	平成28年度飯田市水道事業会計補正予算（第1号）案	28. 8. 30	28. 9. 26	可決
議案第92号	平成28年度飯田市下水道事業会計補正予算（第1号）案	28. 8. 30	28. 9. 26	可決
議案第93号	平成27年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について	28. 8. 30	28. 9. 26	認定
議案第94号	平成27年度飯田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	28. 8. 30	28. 9. 26	認定

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第95号	平成27年度飯田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	28. 8. 30	28. 9. 26	認定
議案第96号	平成27年度飯田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	28. 8. 30	28. 9. 26	認定
議案第97号	平成27年度飯田市地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算認定について	28. 8. 30	28. 9. 26	認定
議案第98号	平成27年度飯田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定について	28. 8. 30	28. 9. 26	認定
議案第99号	平成27年度飯田市墓地事業特別会計歳入歳出決算認定について	28. 8. 30	28. 9. 26	認定
議案第100号	平成27年度飯田市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	28. 8. 30	28. 9. 26	認定
議案第101号	平成27年度飯田市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	28. 8. 30	28. 9. 26	認定
議案第102号	平成27年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計歳入歳出決算認定について	28. 8. 30	28. 9. 26	認定
議案第103号	平成27年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計歳入歳出決算認定について	28. 8. 30	28. 9. 26	認定
議案第104号	平成27年度飯田市病院事業決算認定について	28. 8. 30	28. 9. 26	認定
議案第105号	平成27年度飯田市水道事業決算認定について	28. 8. 30	28. 9. 26	認定
議案第106号	平成27年度飯田市各財産区会計歳入歳出決算認定について	28. 8. 30	28. 9. 26	認定
議案第107号	平成28年度飯田市一般会計補正予算（第4号）案	28. 9. 8	28. 9. 26	可決
議案第108号	教育委員会の委員の任命について	28. 9. 26	28. 9. 26	同意
議案第109号	飯田市特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について	28. 9. 26	28. 9. 26	可決
議案第110号	損害賠償の額を定めることについて	28. 9. 26	28. 9. 26	可決
議案第111号	教育委員会の委員の任命について	28. 11. 29	28. 11. 29	同意
議案第112号	飯田市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第113号	飯田市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について	28. 11. 29	28. 12. 20	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第114号	飯田市職員定数条例の一部を改正する条例の制定について	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第115号	飯田市中心間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第116号	飯田市個人番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第117号	飯田市授産施設条例の一部を改正する条例の制定について	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第118号	飯田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第119号	飯田市上村ふれあい広場条例の一部を改正する条例の制定について	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第120号	飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例の制定について	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第121号	飯田市天龍峡温泉交流館条例の一部を改正する条例の制定について	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第122号	飯田市簡易水道事業の地方公営企業法適用に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第123号	飯田市体育施設条例の一部を改正する条例の制定について	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第124号	飯田市農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数に関する条例の制定について	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第125号	基本構想及び政策施策の体系を定めることについて	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第126号	損害賠償の額を定めることについて	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第127号	平成28年度飯田市一般会計補正予算（第5号）案	28. 11. 29	28. 11. 29	可決
議案第128号	平成28年度飯田市一般会計補正予算（第6号）案	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第129号	平成28年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）案	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第130号	平成28年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第1号）案	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第131号	平成28年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第1号）案	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第132号	平成28年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計補正予算（第1号）案	28. 11. 29	28. 12. 20	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議案第133号	平成28年度飯田市病院事業会計補正予算（第1号）案	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第134号	平成28年度飯田市水道事業会計補正予算（第2号）案	28. 11. 29	28. 12. 20	可決
議案第135号	平成28年度飯田市下水道事業会計補正予算（第2号）案	28. 11. 29	28. 12. 20	可決

②議会提出議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
議会議案 第1号	上伊那郡宮田村大久保地区における廃棄物最終処分場の建設許可をしないことを求める意見書の提出について	28. 3. 18	28. 3. 18	可決
議会議案 第2号	飯田産の地酒及び果実飲料で乾杯する条例の制定について	28. 9. 26	28. 9. 26	可決
議会議案 第3号	地方財政の充実・強化を求める意見書の提出について	28. 9. 26	28. 9. 26	可決
議会議案 第4号	奨学金制度の充実等を求める意見書の提出について	28. 9. 26	28. 9. 26	可決
議会議案 第5号	義務教育費国庫負担制度の堅持を求める意見書の提出について	28. 9. 26	28. 9. 26	可決
議会議案 第6号	国の責任による35人以下学級の推進及び教育予算の増額を求める意見書の提出について	28. 9. 26	28. 9. 26	可決
議会議案 第7号	複式学級の編制基準の改善及び教職員定数増を求める意見書の提出について	28. 9. 26	28. 9. 26	可決
議会議案 第8号	T P Pに関する情報開示の徹底と持続可能な農業経営の実現に向けた農業政策の確立を求める意見書の提出について	28. 9. 26	28. 9. 26	可決

③報告議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
報告第1号	専決処分の承認を求めることについて（飯田市税条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例の制定について）	28. 2. 23	28. 2. 23	承認
報告第2号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	28. 2. 23		
報告第3号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	28. 2. 23		
報告第4号	専決処分の承認を求めることについて（飯田市税条例及び飯田市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について）	28. 5. 24	28. 5. 24	承認
報告第5号	専決処分の承認を求めることについて （平成27年度飯田市一般会計補正予算（第8号））	28. 5. 24	28. 5. 24	承認
報告第6号	専決処分の承認を求めることについて （平成27年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第4号））	28. 5. 24	28. 5. 24	承認
報告第7号	専決処分の承認を求めることについて （平成27年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第3号））	28. 5. 24	28. 5. 24	承認
報告第8号	専決処分の承認を求めることについて （平成27年度飯田市墓地事業特別会計補正予算（第1号））	28. 5. 24	28. 5. 24	承認
報告第9号	専決処分の承認を求めることについて （平成27年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計補正予算（第2号））	28. 5. 24	28. 5. 24	承認
報告第10号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	28. 5. 24		
報告第11号	権利の放棄について（市営住宅の家賃に係る債権）	28. 5. 24		
報告第12号	権利の放棄について（二ツ山専用水道の料金に係る債権）	28. 5. 24		
報告第13号	権利の放棄について（病院料金に係る債権）	28. 5. 24		
報告第14号	権利の放棄について（水道料金に係る債権）	28. 5. 24		
報告第15号	平成27年度飯田市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	28. 5. 24		
報告第16号	平成27年度飯田市下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書の報告について	28. 5. 24		
報告第17号	平成27年度飯田市病院事業会計予算繰越計算書の報告について	28. 5. 24		
報告第18号	飯田市土地開発公社の経営状況を説明する書類の提出について	28. 5. 24		

事件番号	事 件 名	上程日	議決月日	議決結果
報告第19号	株式会社飯田健康温泉の経営状況を説明する書類の提出について	28. 5. 24		
報告第20号	一般財団法人飯田勤労者共済会の経営状況を説明する書類の提出について	28. 5. 24		
報告第21号	一般財団法人飯田市南信濃振興公社の経営状況を説明する書類の提出について	28. 5. 24		
報告第22号	飯田清掃株式会社の経営状況を説明する書類の提出について	28. 6. 3		
報告第23号	専決処分の承認を求めることについて（平成28年度飯田市一般会計補正予算（第2号））	28. 8. 30	28. 8. 30	承認
報告第24号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	28. 8. 30		
報告第25号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	28. 8. 30		
報告第26号	健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	28. 8. 30		
報告第27号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	28. 11. 29		
報告第28号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	28. 11. 29		
報告第29号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	28. 11. 29		



## (2) 議会において執行した選挙・選任等

(平成28年1月から平成28年12月まで)

会 期	年月日	選挙・選任の内容
第1回定例会	28.2.23	・公平委員会の委員の選任
		・固定資産評価審査委員会の委員の選任
		・人権擁護委員の候補者の推薦
	28.3.18	・飯田市千代財産区管理委員の選任
第2回定例会	28.5.24	・飯田市中心部財産区管理委員の選任
		・飯田市松尾地区財産区管理委員の選任
		・飯田市鼎財産区管理委員の選任
		・飯田市東野財産区管理委員の選任
		・飯田市千代財産区管理委員の選任
第3回定例会	28.8.30	・飯田市南部財産区管理委員の選任
		・飯田市中心部財産区管理委員の選任
		・飯田市羽場財産区管理委員の選任
		・飯田市野底財産区管理委員の選任
		・飯田市東野財産区管理委員の選任
	・人権擁護委員の候補者の推薦	
	28.9.26	・教育委員会の委員の任命
第4回定例会	28.11.29	・教育委員会の委員の任命

## (3) 委員会活動開催状況

(平成28年1月から平成28年12月まで)

	常任委員会			特別委員会		検討委員会		議会運営委員会	議会改革推進会議	広報広聴委員会	全員協議会
	総務	社会文教	産業建設	リニア推進	基本構想基本計画	次期総合計画	議会議案				
委員会	11	10	11	6	2	7	7	12	8	17	0
協議会	6	6	11	5	0	0	0	0	0	0	11
計	17	16	22	11	2	7	7	12	8	17	11

## (4) 請願陳情

## ①委員会別審査状況

(平成28年1月から平成28年12月まで)

		処 理 状 況							合計
		採択	趣旨採択	審議未了	取下げ	不採択	審議中	議決を要さず	
請 願	総務	3							3
	社会文教	4							4
	産業建設								
	計	7							7
陳 情	総務				1				1
	社会文教						1		1
	産業建設	2				1			3
	計	2			1	1	1		5

※受理番号1件のもので、要旨が数項目ある場合

- ① 同一委員会で、全ての項目を審査し、全項目を一括採決した場合は、1件とする。
- ② 処理状況が複数にわたる場合は、その結果をそれぞれ1件とする。
- ③ 複数の委員会へ項目を分けて付託審査した場合は、それぞれを1件とする。  
したがって②③の処理がされた場合は、「受付番号」の件数より、処理状況合計数は大きくなる。

②請願議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上程 年月日	議決 年月日	議決 結果
総務	28請願 第1号	長野県に対し、宮田村における廃棄物最終処分場計画につき処分場建設を許可しない意見書を提出願いたい	28.3.3	28.3.18	採択
総務	28請願 第2号	県に対し、上伊那地区における廃棄物最終処分場建設に反対を求める意見書を提出願いたい	28.3.3	28.3.18	採択
総務	28請願 第3号	国に対し、地方財政の充実・強化を求める意見書を提出願いたい	28.9.8	28.9.26	採択
社文	28請願 第4号	国に対し、奨学金制度の充実等を求める意見書を提出願いたい	28.9.8	28.9.26	採択
社文	28請願 第5号	国に対し、「義務教育費国庫負担制度」の堅持を求める意見書を提出願いたい	28.9.8	28.9.26	採択
社文	28請願 第6号	国に対し、国の責任による35人以下学級推進と教育予算の増額を求める意見書を提出願いたい	28.9.8	28.9.26	採択
社文	28請願 第7号	国に対し、複式学級の編制基準の改善及び教職員定数増を求める意見書を提出願いたい	28.9.8	28.9.26	採択

③陳情議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上程 年月日	議決 年月日	議決 結果
産建	28陳情 第1号	市に対し、天龍峡温泉交流館の新築計画を再考するよう求める	28.3.3	28.3.18	不採択
総務	28陳情 第2-1号	市に対し、公共工事設計労務単価引き上げを受け、建設労働者の適正賃金確保に向けた取り組みを求める	28.3.3		取下げ
産建	28陳情 第2-2号	市に対し、公共工事設計労務単価引き上げを受け、建設労働者の適正賃金確保に向けた取り組みを求める	28.3.3	28.6.15	採択
産建	28陳情 第3号	国に対し、TPPに関する情報開示の徹底と持続可能な農業経営の実現に向けた農業政策の確立を求める意見書を提出願いたい	28.9.8	28.9.26	採択
社文	28陳情 第4号	県に対し、子ども・障がい者等の医療費窓口無料化を求める意見書を提出願いたい	28.12.9		継続審査

(5) 定例会の質問事項

① 第1回定例会一般質問通告表（一問一答方式）

平成28年3月2, 3日

No.	氏名	項目・要旨
1	湯澤啓次 (会派のぞみ)	<p>1 当事者意識重視の市政経営について</p> <p>(1) 年頭所感「共創の場づくりから生まれる善い地域」について</p> <p>① 「善い地域」の重要な要素とされるQOL(生活の質)、QOC(コミュニティの質)とは何か</p> <p>② 「善い地域」をつくるもう一つの要、「当事者意識」とは何か</p> <p>③ 今日までの飯田市と、目指す「善い地域」との違いは何か</p> <p>(2) 今後の市政経営の基本方針について</p> <p>① 議会が政策提言した「だれもが元気で長生きできるまちを目指して～一人ひとりの高齢期を見据えた新しい社会システムづくり」はどうか反映されているか</p> <p>② QOCを高めることを、政策として取り組む考えは</p> <p>(3) 平成28年度予算編成と将来展望について</p> <p>① 過去2番目の大型予算となった理由、特徴は</p> <p>② 今後のリニア関連事業、「知の拠点」形成などで増大が見込まれる投資的経費への対応は</p> <p>2 「知の拠点」づくりを成功させるために</p> <p>(1) 地元産業界との理念の共有、理解、協力関係は</p> <p>(2) 産業拠点として論ずべき幾つかの視点について</p> <p>① 「知の拠点」のマネジメント、マーケティング戦略に市はどうか関わるか</p> <p>② 地場産業(精密・電子を除く食品、水引等)の振興に「知の拠点」はどうか機能するか</p> <p>③ 6次産業化の研究拠点とする考えは</p> <p>④ 旧飯田工業高校施設の一部を貸し館とし、企業・研究所を誘致する考えは</p> <p>ア 金融機関、経済研究所と連携した誘致活動は</p> <p>(3) 学術研究の拠点として論ずべき幾つかの視点について</p> <p>① 「知の拠点」と学輪IIDAの今後の関係、新たな展開は</p> <p>② 南信州・飯田フィールドスタディとの関係は</p> <p>③ 信州大学大学院講座設置の地元産業界へ及ぼす影響、期待される波及効果は</p> <p>④ 歴史研究所を移転する意義、新たな可能性は</p> <p>(4) 市民から親しみ愛される「知の拠点」とするための対策は</p> <p>① 南信州あげての「ものづくりフェア」の年次開催は</p> <p>3 リニア関連事業に関する諸課題について</p> <p>(1) リニア中心線測量後の進展は</p> <p>(2) 事業説明会を定期開催すべきでは</p> <p>(3) 移転先確保へのスピード感を持った対応は</p> <p>(4) 駅周辺整備エリアと4車線道路で遮断される隣接エリアとの繋がりをどうデザインするか</p>
2	竹村圭史 (会派のぞみ)	<p>1 鳥獣害対策について</p> <p>(1) 現在行っている鳥獣害対策の基本的な考え方は</p> <p>(2) 鳥獣害対策の実績について、市長はどのように捉えているか</p> <p>(3) なぜ鳥獣による被害がここまでの状況になってきたと考えるか</p> <p>(4) 鳥獣害対策は現在行っている方法だけで解決できると考えているか</p> <p>(5) 鳥獣害対策の一つとして、山を再生するという視点はあるか</p> <p>2 次期総合計画策定について</p>

No.	氏名	項目・要旨
	竹村圭史	(1) 若年層の関わりは現在どのような状況となっているか (2) 小学生・中学生には、次期総合計画策定を契機に継続して地域の将来を考える機会を設けていくことが大切ではないかと思うが市長の考えは
3	清水可晴 (市民パワー)	1 飯田お練りまつりと観光誘客について (1) 飯田お練りまつりの実施は ① 開催概要と参加団体等は ② 広報活動と観光誘客の状況は。また、入込予想はどうか ③ 経済効果の試算は ④ 伝統文化の保存継承は地域の力となり得るか (2) 観光誘客の状況と今後は ① 国内外観光客の当市への入込状況は ② 小さな世界都市をめざして、海外との友好都市締結を模索し、戦略的に海外誘客に取り組む考えは 2 子どもの貧困対策について (1) 県の調査結果を踏まえ、飯田市では個別データをどのように分析したか (2) 県との連携は必然と考えるがどうか (3) 重点的に取り組む個別課題と支援策は
4	吉川秋利 (会派のぞみ)	1 地域産業の育成と企業誘致について (1) 若者が帰ってきて安心して子育てができる環境としては、何が求められるか (2) 今までの企業誘致は (3) 地域産業としての航空宇宙産業の必要性は (4) 人材の育成について ① 企業はどのような人材を求めているか ② 人材の需要と供給についてはどのように考えているか 2 「知の拠点」構想と高等教育機関について (1) 飯田市としての「知の拠点」整備構想についてめざすものは何か (2) 「飯田デザインバレー」の構築は (3) 起業家の育成と高等教育機関との関係をどのように考えるか (4) 信州大学南信州キャンパスは 3 天龍峡の活性化について (1) 天龍峡の現状をどのように認識しているか (2) 今後どのように発展させていくか
5	井坪隆 (会派みらい)	1 市長の年頭所感と市政経営の基本方針について (1) 飯田市における「善い地域」をつくっていくことについて ① 今、なぜ、飯田市に「善い地域」という考え方を示したか ② 「善い地域」にしていくために地域自治組織の強化を説いているが、具体的にどのように考えるか 2 リニア中央新幹線への取組みについて (1) リニアの関連整備に伴う土地利用計画の見直しは、どのように進めるか
6	原和世 (会派みらい)	1 市長のリーダーシップに期待して (1) 市長が目指す地域づくりの概念と課題について ① 飯田市の重要政策決定に関わる共創の場とその情報開示は ② 知の拠点に係る丁寧な説明と多様な産業の支援とは ③ 生活の質の観点で将来の看護師不足をどう考えるか
7	木下徳康 (会派のぞみ)	1 飯田市の農業について (1) 農地の保全について

No.	氏名	項目・要旨
	木下 徳 康	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 市内の荒廃農地の現状はどうか</li> <li>② 農地の保全に向けた取り組みは</li> <li>③ 日本型直接支払制度の概要とその取り組みは</li> </ul> (2) 観光、交流に結びつける取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> <li>① 観光、交流に結びつける取り組みは</li> <li>② ふるさと納税の活用は</li> </ul> 2 リニア時代に向けて <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 東京・名古屋のリニア圏域について               <ul style="list-style-type: none"> <li>① スーパーメガリージョンとは</li> <li>② その中の飯田の役割をどう考えるか</li> </ul> </li> <li>(2) 医療・介護の2025年問題について               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 2025年問題とは</li> <li>② 市はどうかとらえているか</li> <li>③ 対応はとっているか</li> </ul> </li> </ul>
8	福 沢 清 (会派みらい)	1 リニア開通と飯田市のまちづくりについて <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) リニア開通により、飯田市はどのような街になろうとしているか</li> <li>(2) 中心市街地とリニア駅とのアクセスについて               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 現在どのような検討がされているか</li> <li>② 中心市街地(中心拠点)への具体的アクセスはいつ明らかになるか</li> <li>③ 発生土の運搬経路、運搬頻度、最終処理場所はいつ明らかになるか</li> </ul> </li> </ul> 2 公職選挙法の改正に伴う投票率の向上などについて <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 選挙権年齢の18歳への引き下げにどのように対応するか</li> <li>(2) 共通投票所の設置や期日前投票の時間延長ができるようになりそうだが、飯田市として実施するか</li> <li>(3) ポスター掲示場について見直す考えはないか</li> </ul>
9	山 崎 昌 伸 (会派のぞみ)	1 飯田市主催のイベントのあり方について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 飯田市安全大会に求められるものは               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 安全大会開催の目的は何か</li> <li>② 安全大会参加者数と内訳は</li> <li>③ 安全大会は目的的に計画、運営されているか</li> </ul> </li> </ul> 2 新庁舎完成と窓口サービスについて <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 新庁舎の完成に伴い、窓口サービスは向上しているか               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 平成28年の市長の年頭所感にある「新庁舎完成に伴う窓口サービス向上の取組」とは、具体的にどのようなものか</li> <li>② 新庁舎になって、窓口サービスは具体的にどのように変わったか</li> <li>③ 市民意識調査の結果をどう捉えているか</li> <li>④ 施策に盛り込まれた「サービス業のプロ」とは何か</li> <li>⑤ 窓口サービス向上に向けた現場職員からの提案を生かしているか</li> <li>⑥ 今後どのように取り組んでいくか</li> </ul> </li> </ul>
10	古 川 仁 (日本共産党)	1 飯田市の病児・病後児保育について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 病児・病後児保育の状況は</li> <li>(2) 病児・病後児保育に関し、職員の配置基準は現状にあっているか</li> <li>(3) 利用料など利用者の負担感はどうか</li> <li>(4) 利用時間の延長についてどう考えるか</li> </ul>
11	熊 谷 泰 人 (会派のぞみ)	1 リニア中央新幹線工事に伴う道路整備について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 発生土の運搬が見込まれる道路の改良について               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 県道飯田南木曾線の状況は</li> </ul> </li> </ul>

No.	氏名	項目・要旨
	熊谷泰人	<p>ア JA砂払支所前の状況について、市民からの要望に対し安全面から市はどのような対応をしてきたか、また今後どう対応していくか</p> <p>イ 発生土運搬に伴う道路拡幅の地域要望に対し、市は今後どう対応していくか</p> <p>② 市道大休・妙琴線の状況は</p> <p>2 グラウンドの芝生化について</p> <p>(1) 園庭・校庭の芝生化の考えは</p> <p>(2) 社会体育施設のグラウンドの芝生化の考えは</p> <p>(3) 松尾総合運動場芝生グラウンドの現状について</p> <p>① 利用状況は</p> <p>② 市民の利用は</p> <p>③ 管理状況は</p> <p>(4) 総合グラウンド建設の考えは</p>
12	林幸次 (公明党)	<p>1 平成28年度の市政経営の方針と予算編成について</p> <p>(1) 第5次基本構想及び牧野市政3期目の集大成となる平成28年度の市政経営の方針は</p> <p>(2) 平成28年度の予算編成に当たっての基本的な考え方、予算編成方針は何か</p> <p>(3) 国の平成27年度補正予算への対応はどうか</p> <p>(4) 地方創生に向けて、地方版総合戦略に掲げた四つの柱を推進するための具体的な戦略は何か</p> <p>2 リニア開通を見据えて地方創生につなげる観光戦略について</p> <p>(1) 当地域への近年の観光客数・観光消費額の推移はどうか</p> <p>(2) 外国人観光客の誘客策は何か</p> <p>(3) リニア時代に向けて、地方創生につなげる観光戦略をどのように描くか</p>
13	永井一英 (公明党)	<p>1 国の平成27年度補正予算・平成28年度予算も踏まえて、子育てを取り巻く環境整備について</p> <p>(1) ひとり親家庭への支援について</p> <p>① 全国的にはひとり親家庭が増えていると聞く。飯田市における母子のみ世帯、父子のみ世帯などの状況は</p> <p>② 市や県によるひとり親家庭への支援はどうか。また、母子家庭と父子家庭への支援の違いは</p> <p>③ 国が平成27年度補正予算・平成28年度予算に盛り込んだひとり親家庭への支援策について、市はどのように考えるか</p> <p>(2) 国が進める幼児教育無償化に向けた取組について</p> <p>① 国の平成27年度補正予算・平成28年度予算に盛り込まれたひとり親家庭・多子世帯に係る保育料などの負担軽減策は、飯田市の財政負担に影響を与えるか</p> <p>② 幼児教育無償化に対する市の考え方は</p> <p>(3) 児童の放課後などの居場所づくりについて</p> <p>① 市の考え方は</p> <p>② 児童館・児童センター、児童クラブについて、利用を希望する児童の数が定員を超えている地域があると聞く。現状と課題、そして市の対応は</p>
14	小倉高広 (日本共産党)	<p>1 介護保険について</p> <p>(1) 昨年4月からの介護報酬の引き下げによる介護事業所への影響は</p> <p>① 報酬の引き下げによる経営面への影響は</p> <p>② 報酬の引き下げによる小規模事業所への影響は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	小 倉 高 広	<p>③ 報酬の引き下げによって介護事業所の現場で何が起きているか  ④ 市としては、①、②、③のような事態にどう対応するか</p> <p>(2) 介護保険の新しい総合事業への移行について  ① 市は、4月からの新しい総合事業への移行をどのように行うか。その種類は  ② 通所型「緩和した基準A」を事業所が実施する上での課題は何か  ③ 現行サービスと「多様なサービス」への対象者の振り分けはどのように行うか  ④ 介護保険からの「卒業」と「地域デビュー」に対する市の考え方は</p> <p>2 平和祈念館の設置について  (1) 平成12年第2回定例会で、全会一致で、「平和記念館(仮称)の設置について」の請願が採択されているがその内容は  (2) (1)を踏まえて「資料収集委員会」が教育委員会のなかに設置されたが、収集された資料はどのようなものか、またそれはどこに保管されてきたか  (3) 昨年、時又のふれあいセンターの解体に伴い、飯田市公民館に移されて、「平和祈念館資料室」として保管、展示されているが、現状はどのようになっているか  (4) 請願の趣旨と現状を踏まえて、平和祈念館を市としてどのように考えるか</p>
15	木 下 容 子 ( 市 民 パ ワ ー )	<p>1 女性活躍推進の取り組みについて  (1) 女性活躍推進法が施行となるが、事業主としての飯田市役所における男女共同参画の状況は  ① 市職員の男女数・管理職における男女数・それぞれの比率は  ② 育児休業の男女別取得者数と比率は  ③ 配偶者の出産に伴う男性の休暇取得率は  ④ 介護休暇の男女別取得者数と比率は  ⑤ 昇任評価の男女別応募者数と比率は  (2) 地方公共団体としての市の行動計画策定の見通しは  (3) 市の政策・方針決定過程への女性の参画の状況は  (4) 市内の事業所における男女共同参画の状況は  (5) 女性の活躍推進がなかなか進まない原因をどうとらえ、どのように対応していくか</p> <p>2 第67回全国植樹祭について  (1) 第67回全国植樹祭が長野県で行われるが、市としてどのように関わるか  (2) 東野大獅子が出演すると聞くが、その支援とPRは</p>
16	村 松 ま り 子 ( 公 明 党 )	<p>1 安心して健やかに暮らせるまちづくりについて  (1) がん対策の充実について  ① がん検診受診率の推移と受診率向上の取り組みは  ② 中学生にヘリコバクター・ピロリ菌検査を導入してはどうか  ③ 受動喫煙防止対策への取り組みは  ④ がん患者の就労支援への取り組みは  ⑤ 学校におけるがん教育の取り組みは  (2) 平成28年4月1日に施行される「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)への市の取り組みについて  ① 法律制定の経緯は  ② 法律の目的は  ③ 対象となる障がいのある人とは  ④ 障がいを理由とした差別とは  ア 不当な差別的取扱いとは  イ 合理的配慮の不提供とは  ⑤ 「職員対応要領」の作成の考え方は</p>



No.	氏名	項目・要旨
	村松 まり子	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥ 「障害者差別解消支援地域協議会」の設置の考え方は</li> <li>(3) 信州パーキング・パーミット(障がい者等用駐車場利用証)制度について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 内容は</li> <li>② 市の対応は</li> </ul> </li> </ul>
17	後藤 莊一 (日本共産党)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの貧困対策について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 奨学金制度について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 長野県で給付型奨学金が新設されようとしていると聞くが、状況を承知しているか</li> <li>② 飯田市としても給付型奨学金を創設する考えは</li> <li>③ 県や、多くの団体で奨学金制度を設置しているが、飯田市出身者に上乗せ補助をする考えは</li> </ul> </li> <li>(2) 子どもの居場所づくりの促進について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 長野県でモデル事業として、一人親家庭の子どもへの学習支援や進路相談、食事の提供を行う「こども食堂」を飯田に設置する計画があると聞いているが、飯田市としてどう関わるか</li> <li>② 飯田市の子どもたちに知らせるよう学校等で、場所や内容など周知するべきだと考えるがどうか</li> <li>③ 「子育て世代包括支援センター」設置の考えは</li> </ul> </li> <li>(3) 学校給食費について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「域産域消」「食育」の推進の観点からも給食費補助を考えたかどうか</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2 公契約条例について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 公契約条例制定の検討がされていると聞いているが、状況は</li> <li>(2) 市の発注する事業に関わる労働者の賃金が確保されるよう、期限を定めて制定すべきと考えるがどうか</li> </ul> </li> </ul>
18	森本 政人 (市民パワー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 牧野市政について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 市長になったとき、この飯田市をどのようなまちにしたいと考えたか</li> <li>(2) 市長として掲げた政策のうちできたこととできなかったことは</li> <li>(3) 市政経営の基本方針について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 安心して健やかに暮せるまちづくりは</li> <li>② 自然・環境と調和した「低炭素社会・飯田」づくりは</li> </ul> </li> <li>(4) 市長が掲げる「円卓」「円座」とは</li> </ul> </li> <li>2 貸し切りバスについて <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 市における貸し切りバス利用の実態は <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教育現場では</li> <li>② 安全性は</li> </ul> </li> <li>(2) 公共交通の観点を含めバス業界の現場の声をどう受け止めているか <ul style="list-style-type: none"> <li>① 運転手不足は</li> <li>② 教育費用は</li> </ul> </li> <li>(3) 観光への影響は</li> </ul> </li> </ul>
19	新井 信一郎 (会派のぞみ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 牧野市長が描く「善い地域・飯田」に示す、安心安全に暮らすことができる地域実現に向けて、建設業の現状と今後の姿について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 安心安全に暮らすためには強固なインフラは欠かせないが、公共事業による整備状況は <ul style="list-style-type: none"> <li>① 過去3年の発注件数の推移は</li> <li>② 過去3年の発注金額の推移は</li> <li>③ 過去5年の建設業者数及び従事者の推移は</li> </ul> </li> <li>(2) 市は地震災害に対応できる現状であるか <ul style="list-style-type: none"> <li>① 上水道は</li> <li>② 下水道は</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	新 井 信 一 郎	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 電柱の地中化は</li> <li>④ 防火水槽等は</li> <li>⑤ ヘリポートの整備状況は</li> <li>(3) 総務省自治行政局長及び国土交通省土地・建築産業局長から通知された「公共工事の円滑な施工確保について」により、「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」に基づく対応を要請されているが、市の状況は <ul style="list-style-type: none"> <li>① 適正な価格による契約について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 経済情勢の変化を勘案し、最新の労務及び資材等の実勢価格の反映、実際の施工に要する通常妥当の経費について積算されているか</li> <li>イ 適正な積算に基づく設計書金額の一部を控除する、いわゆる「歩切り」は、市で横行していないか</li> <li>ウ ダンピング対策は</li> <li>エ 低入札価格調査の基準価格等の公表時期は</li> <li>オ スライド条項の設定・活用は</li> <li>カ 設計変更等の適切な実施は</li> </ul> </li> <li>② 技術者・技能者の効率的活用は</li> <li>③ 施工時期等の平準化は</li> <li>④ 入札契約手続の効率化は</li> <li>⑤ 地域の建設業者の受注機会の確保は</li> <li>⑥ 建設業者の資金調達円滑化のための取り組みは</li> <li>⑦ 就労環境の改善は</li> </ul> </li> <li>(4) 市は、消防団と地域の建設業者と共同で「地域防災力向上事業」などに取り組む考えは <ul style="list-style-type: none"> <li>① 市内にどれだけの建設機械があるか把握しているか</li> <li>② 有事の際、建設機械の貸し出しや、操縦技能を有する作業員を機動救助隊として位置づけて、連携した救助活動が行える仕組みづくりはできないか</li> <li>③ 即戦力となる重機等操縦者や建設機械を保有する企業が、入札時に加点される仕組みにできないか</li> <li>④ 20代・30代の青年層が魅力を感じられる建設業への支援策としても、消防団員の中で、希望者に対し建設機械の操縦免許等取得補助ができる仕組みにできないか</li> </ul> </li> </ul> <p>2 リニア新時代を迎えるにあたり、地方創生への取り組み現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「(独)産業技術総合研究所 生命工学領域(臨海副都心センター)」の地方移転について、現状は</li> </ul>

②第2回定例会一般質問通告表（一問一答方式）

平成28年6月1,3日

No.	氏名	項目・要旨
1	福 沢 清 (会派みらい)	<p>1 地震防災について</p> <p>(1) 熊本地震と同規模の地震発生に対する防災体制に関して</p> <p>① 南海トラフ地震が起きる確率と被害予想は</p> <p>② 地域の防災拠点の安全性は</p> <p>③ 生活保護世帯に対する支援物資・義援金の取り扱いは</p> <p>④ ボランティアと産業支援の関係は</p> <p>⑤ 飯田市の事業継続計画の策定は</p> <p>2 公契約条例について</p> <p>(1) 公契約条例とは</p> <p>(2) 公契約条例の必要性和飯田市の検討状況は</p> <p>(3) 公契約条例制定にむけて今後の見通しは</p>
2	原 和 世 (会派みらい)	<p>1 地震防災について</p> <p>(1) 熊本地震を教訓にした備え・減災・初期活動に関して</p> <p>① 備えについて</p> <p>ア 市長は熊本地震をどのように受けとめたか</p> <p>イ 地震防災に関し各部局は平時・有事における所管の役割を認識し点検確認しているか</p> <p>ウ 国が要請している仮設住宅用地の確保に関し現状は</p> <p>エ 日本赤十字の長野県内救援物資の備蓄を飯田市にも要請する考えは</p> <p>オ 避難所に於ける救護活動のための応急救護キット配備は</p> <p>カ 医師看護師の避難所支援の体制づくりは</p> <p>キ 災害時近所の大切さから組合未加入対策を進めることは</p> <p>ク 災害時の学校利用計画の策定は</p> <p>② 減災について</p> <p>ア 市民意識調査において災害に備えている調査では家具の転倒防止策と食料や飲料水の準備をしている割合が低かったが、どのように対策するか</p> <p>イ 民間と行政建築物の耐震化はどの程度進んでいるか、また熊本の惨状を受け耐震強度に関してどのように考えるか</p> <p>③ 初期活動について</p> <p>ア 自主防災会の人材として防災士の知見・指揮能力活用は</p> <p>イ 避難所の運営はどこが行うか、また地域と行政の役割はどのようになっているか</p> <p>ウ 有事における学校教員の役割は</p>
3	竹 村 圭 史 (会派のぞみ)	<p>1 音楽鑑賞教室について</p> <p>(1) 小中学校における文化・芸術に対する教育長の基本的な考えは</p> <p>(2) 本年度のオーケストラと友に音楽祭において、新企画として「小学生のための音楽ひろば」が開催されたが</p> <p>① 初めての企画に対する評価は</p> <p>② 音楽鑑賞教室の代替となり得ると考えるか</p> <p>(3) 音楽鑑賞教室の取り止めについて、小中学校における現場の声をどのように把握しているか</p> <p>(4) 小中学校(中学校区)独自で音楽鑑賞教室を実施する動きはあるか</p> <p>(5) 本物に触れる機会は平等であるべきと考えるが市長及び教育長の考えは</p>

	竹村圭史	(6) 飯田市が中心となり、南信州広域連合及び飯伊市町村教育委員会連絡協議会において音楽鑑賞教室の再開に向けた課題提起を行い、検討していく考えは
4	井坪隆 (会派みらい)	1 市長4期目への挑戦について (1) 市長としての3期12年をどのように総括するか (2) 4期目を目指す思いは何か 2 教育長の所信について (1) これまでの経験を、飯田市においてどのように生かそうと考えるか
5	木下徳康 (会派のぞみ)	1 市民への通知文書について (1) 「社会福祉医療費重複支給分返金」の通知について ① この通知は何のためのものか ア どのような時に出すものなのか イ 後期高齢者医療費のシステムはどうなっているか ウ 重複支給になるとはどういうことか エ 対象者はどのくらいいるか ② 市と県の行政間で解決できないか (2) 「市・県民税の課税地について」の照会通知に関して ① この通知はどのような時に出し、また何のためのものか ② 通知のあり方は適切か ア 必要性は イ わかりやすい内容となっているか 2 ふるさと納税について (1) 飯田市のふるさと納税について ① ふるさと納税の現状は ② 飯田市の市民税に与える影響は ③ 飯田市民が飯田市にふるさと納税できるか (2) 飯田市民が飯田市にふるさと納税、あるいは寄附により意思を示すシステムはできないか
6	小倉高広 (日本共産党)	1 地域福祉計画について (1) 地域福祉計画とはどのような計画か ① 「基本的な考え方」と「仕組みづくり」はどのようなものか ② なぜ「共助」なのか (2) 多様な主体のそれぞれの役割はどのようなものか ① 住民・まちづくり委員会、民生児童委員の役割はどのようなものか ② 行政の役割はどのようなものか (3) 地域福祉計画を行う上での課題をどのように考えるか ① 資格を持たない者が要支援者にかかわることには限界があると思うがどうか ② 20地区各々で「共助」の活動を行えば、地区ごとに格差が生じると思うがどうか ③ NPO法人をしっかりと支援することが必要だと思うがどうか (4) 公助を中心にして、共助、自助を組み込んだ仕組みにすべきだと思うがどうか 2 障害者差別解消法について (1) 障害者差別解消法はどのような法律か ① 法律は何を定めているか ② 法律は何を「差別」だとしているか ③ 法律に定められた「合理的配慮」とはどのようなものか (2) 市はこの法律によって何をしなければならないか

	小倉 高広	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 市における障がい者を理由とした不当な差別的取り扱いとはどのようなものか</li> <li>② 市が合理的配慮として行わなければならないことはどのようなことか</li> <li>(3) 市の取り組みはどのようになっているか <ul style="list-style-type: none"> <li>① 職員の対応要領の策定状況は。また、職員研修はどのように行うか</li> <li>② 施設、設備の改善等はどのように進めるか</li> <li>③ 市民への啓発はどのように進めるか</li> <li>④ 相談及び紛争の防止等のための体制の整備はどのように行うか</li> </ul> </li> <li>(4) 法律に基づく市の対応が障がい者の声を反映したものにすべきだと考えるがどうか <ul style="list-style-type: none"> <li>① 例えば横浜市の取り組み事例が参考にならないか</li> </ul> </li> </ul>
7	清水 可晴 (市民パワー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 次期市長選に挑戦する市長の政治姿勢について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 次期市長選に向けた決意は</li> <li>(2) 憲法論議と地方自治のあり方は <ul style="list-style-type: none"> <li>① 国会で交わされている論議をどう見ているか</li> <li>② 首長として、地方自治のあり方を含め、自民党の憲法改正草案をどうとらえているか</li> <li>③ 現憲法と自民党の憲法改正草案とを比較する中で、市長の基本的な憲法観は</li> </ul> </li> <li>(3) 第5次基本構想・基本計画の総括は <ul style="list-style-type: none"> <li>① 文化経済自立都市像で掲げた目標人口を下回った要因と人口減少抑制策はどうであったか</li> </ul> </li> <li>(4) 次期総合計画に取り組む姿勢は <ul style="list-style-type: none"> <li>① 時代認識は</li> <li>② 30年先を見通した次期総合計画を策定する中で大切にしたい視点は</li> <li>③ 次期総合計画で必要な施策と重点事業は何か</li> </ul> </li> <li>(5) 飯田市行財政改革の見直しと入札制度改革について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 定員適正化計画の見直しの考えは</li> <li>② 総合評価落札方式の見直しと公契約条例制定の見通しは</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
8	林 幸次 (公明党)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 飯田市立病院経営について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「新公立病院改革プラン」による市立病院改革について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 新改革プラン策定の前提となる、県の地域医療構想の策定状況は</li> <li>② 市立病院の役割の明確化はどうか</li> <li>③ 経営の効率化のために、経営指標に係る数値目標の設定をどう定めるか</li> </ul> </li> <li>(2) 医療事故調査制度について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 市立病院における院内調査体制はどうか</li> <li>② 院内調査は自主調査となることから、中立公平性・透明性・専門性が求められるが、その対応はどうか</li> <li>③ 院内調査の結果を報告する「医療事故調査支援センター」との連携及び支援センターの役割は何か</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2 食品ロス削減対策について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 市民への啓発活動や、家庭における食品在庫の適切な管理や食材の有効活用の取り組みを推進すべきでは</li> <li>(2) 学校・保育所などで、学校給食や食育・環境教育等を通して、食品ロス削減のための啓発を進めるべきでは</li> <li>(3) 飲食店等における「残さず食べる運動」などの展開など、市民・事業者が一体となった食品ロス削減に向けての取り組みが重要では</li> </ul> </li> </ul>

9	湊 猛	<p>1 南アルプス山岳高原観光の取り組みについて</p> <p>(1) 南アルプス・ジオパーク及びユネスコエコパークに登録後の利活用状況と今後の対応は</p> <p>(2) 南アルプス登山口にあたる市道南信濃142号線・路肩決壊の現状と今後の対応は</p> <p>(3) 便ヶ島森林公園及び聖光小屋の運営方針は</p> <p>(4) 遠山郷山岳遭難救助隊の活動の位置づけと支援状況は</p> <p>(5) 三遠南信自動車道・リニア中央新幹線の全線開通を見据えての南アルプス山岳高原観光に対する戦略は</p>
10	木下 容子 (市民パワー)	<p>1 飯田市の教育行政について</p> <p>(1) 教育委員会制度が改正されて1年を経たが、現在の状況は</p> <p>① 新教育委員会制度では、市長の権限と責任が増大したが、それに対する市長の思いは</p> <p>② 総合教育会議での方針決定は</p> <p>③ 飯田市では大綱を「飯田市教育振興基本計画」で代えてきたが、基本計画は28年度で終了する。その後の考えは</p> <p>(2) 就任に当たり教育長は、飯田市の教育を今後、どのように進めるか</p> <p>① 新教育委員会制度では、市長と同様に教育長も多大な権限と責任を持つことになったが、その心構えは</p> <p>② 飯田市の教育の現状と課題をどうとらえているか</p> <p>③ 全国学力・学習状況調査の学校別成績結果を公表する考えは</p> <p>④ ICT(情報通信技術)教育のメリット・デメリットをどう考えるか</p> <p>⑤ 図書館運営に関し、民間委託を安易に進めるべきではないと考えるかどうか</p> <p>2 熊本の震災から何を学ぶか</p> <p>(1) 災害を想定し、いわゆる「災害時業務継続計画」を作成する必要があると考えるかどうか</p> <p>(2) 過去の災害に学ぶ意味で、昭和36年の災害を教訓にする必要はないか</p> <p>(3) 地域の防災拠点となる自治振興センター・公民館の安全性はどうか</p> <p>(4) 中心市街地では、建物の倒壊により道路の機能が損なわれる恐れがあるがどのように対処するか</p>
11	村松 まり子 (公明党)	<p>1 これからの地方創生について</p> <p>(1) 4つの柱を基本として取り組まれている「飯田市版総合戦略」の取組状況は</p> <p>(2) 「改正地域再生法」に基づく「地方創生推進交付金」「企業版ふるさと納税」「生涯活躍のまち」制度はどのように取り組むか</p> <p>2 障がい者雇用促進について</p> <p>(1) 障がい者雇用について、飯田市及び市内事業者の雇用の現状は</p> <p>(2) 障がい者に対する就労支援策は</p> <p>(3) 障がい者雇用における関係機関の連携強化と支援体制は</p> <p>3 B型肝炎ワクチン定期接種化(28年10月)について</p> <p>(1) 定期接種制度の内容は</p> <p>(2) 定期接種化されたことについての、補正予算を含めての市の対応は</p> <p>(3) 定期接種の対象から漏れてしまう1歳児以上の乳幼児についても、無料で接種できるよう任意助成事業を実施できないか</p> <p>(4) 定期接種化されたことについての周知徹底は</p>
12	湯澤 啓次 (会派のぞみ)	<p>1 リニア関連事業に伴う住宅移転対策について</p> <p>(1) リニア関連事業現地事務所について</p> <p>① 開設に寄せる市長の思いは</p> <p>② 目的、業務内容、相談状況は</p> <p>③ 現地事務所をより機能させるための体制は</p> <p>(2) 住宅用地確保について</p>

	湯澤 啓次	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 現状認識、情報収集は</li> <li>② 住宅用地確保に対する市の考え、具体的対策は</li> <li>(3) 関連する条例、内規の検証について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 飯田市都市計画法施行条例等の検証は</li> <li>② 農振農用地除外に対する内規の検証は</li> </ul> </li> </ul>
13	熊谷 泰人 (会派のぞみ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 防災対策について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 中心市街地の巨大地震対策について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域の防災拠点施設や避難施設の耐震化状況は</li> <li>② 民間施設の耐震化状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 社屋や店舗の状況は</li> <li>イ 個人住宅の状況は</li> </ul> </li> <li>③ インフラ整備は</li> </ul> </li> <li>(2) 巨大地震ハザードマップの作成は</li> </ul> </li> <li>2 体育施設の使用状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 運動場及び体育館の年間使用料収入は</li> <li>(2) 年間の維持管理の状況と管理費用は</li> <li>(3) 飯田市体育施設条例の減免基準について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 飯田市が共催・後援する場合とは</li> <li>② その他教育委員会が特別な理由があると認める場合とは</li> </ul> </li> <li>(4) 使用者以外から金員を徴収することを目的として体育施設を使用する場合の使用料基準は</li> </ul> </li> </ul>
14	新井 信一郎 (会派のぞみ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 リニア新時代を迎えるにあたり、地方創生への取り組みを活かした伊那谷の連携について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 伊那谷自治体会議の動向は</li> <li>(2) その動向に対して市の対応は</li> <li>(3) 地域経済分析システム(いわゆるRESAS)から読み取れる、伊那市(上伊那)と飯田市(下伊那)の差異は</li> <li>(4) RESASが現すデータをどう活かすか</li> <li>(5) 飯田市を中心とした伊那谷の将来について、RESASを活用した、政策アイデアコンテストを市独自で開催しないか</li> </ul> </li> <li>2 お練りまつりから見えた、電線地中化推進への取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会インフラ優先により、電線が地上に多く配置される現状について <ul style="list-style-type: none"> <li>① お練りまつりの歴史的変遷への影響は</li> <li>② 今回のお練りまつりへの影響は</li> <li>③ 無電柱化を推進する市区町村長の会に加盟はしたか</li> <li>④ 今後の方針は</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>3 民間企業や法人等が集積してきた場合、周辺整備方針について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 介護施設、福祉施設などが集積してきた場合、周辺のインフラ整備はどうか <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域の実情をどうとらえているか</li> <li>② 今後の政策的展望は</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
15	森本 政人 (市民パワー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 産業づくりと雇用の確保について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 龍江地区工業用地の取り組みの現状は</li> <li>(2) 企業立地の引き合いの状況は</li> <li>(3) 建設関係と農業関係への就労誘引策は</li> </ul> </li> <li>2 廃棄物堆積問題について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 行政代執行に着手した違法堆積物問題は、もっと早く手が打てなかったか</li> <li>(2) 行政指導の経過と効力は</li> <li>(3) 生存権に抵触するとすれば、別の対応が考えられたのではないか</li> <li>(4) 行政代執行に要した経費を回収できなかった場合の責任の所在は</li> </ul> </li> </ul>

	森 本 政 人	<p>3 多様な主体による協働のまちづくりについて</p> <p>(1) 市の業務にとっての福祉NPO法人の位置づけは</p> <p>(2) NPO法人の運営は厳しく撤退する法人が相次いでいるが、運営の状況を把握しているか</p> <p>(3) まちづくり委員会において民生児童委員・赤十字奉仕団員の推薦に苦慮している実態があるが、市としてどのように考えているか</p> <p>(4) 民生児童委員・赤十字奉仕団員の制度について、抜本的な改革を試みないと事業の継続は難しいと思うが、処遇の改善を図るべきではないか</p>
16	後 藤 莊 一 (日本共産党)	<p>1 貧困対策について</p> <p>(1) 飯田市における住民の賃金、雇用形態等経済的な状況は他地域と比べどうか、またその要因分析は</p> <p>(2) 子どもの貧困対策について</p> <p>① 子どもの医療費窓口無料について</p> <p>ア 国県の動向は</p> <p>イ 飯田市で先行してはどうか</p> <p>ウ 低所得の世帯に対する福祉医療費の貸付制度をすべての子どもを対象にしてはどうか</p> <p>② 学習支援等について</p> <p>ア スクールソーシャルワーカーの活用等取り組み状況は</p> <p>イ 夏休み等長期休暇を活用した学習支援は</p> <p>(3) 市職員等の賃金の状況について</p> <p>① 一般職、技術職の人数等状況は</p> <p>② 職種ごとの平均賃金と正規及び臨時・非常勤職員の差は</p> <p>③ 委託業務従事者の賃金等は</p> <p>ア 状況を把握しているか</p> <p>イ 最低賃金制度等の遵守の指導は</p> <p>ウ 官製ワーキングプアをなくすためにも公契約条例が必要ではないか</p> <p>④ 民間企業の正社員化や賃金引上げの取組を、市として支援できないか</p>
17	永 井 一 英 (公明党)	<p>1 環境政策について</p> <p>(1) 社会の低炭素化の推進について</p> <p>① 飯田市全体が排出する温室効果ガスの排出量の推移はどうか</p> <p>② 国連気候変動枠組条約第21回締約国会議において「パリ協定」が採択された。日本政府もこれを受けて国内の法的手続きに移るとともに、地球温暖化対策計画の策定や法改正に取り組んでいると聞く。市の受け止めは。また、今後、市民生活や市の環境政策にどのような影響を与えるか</p> <p>(2) 飯田市環境基本計画について</p> <p>① 飯田市環境基本計画第3次改訂版の対象期間が、平成29年3月までとなっている。各指標とその取り組みについて特筆すべき成果は</p> <p>② 第4次改訂に向けての準備は。また、第2次飯田市環境モデル都市行動計画との整合性は</p> <p>③ 次期総合計画「いいだ未来デザイン2028」における飯田市環境基本計画の位置付けは。また、環境政策の位置付けは</p> <p>(3) 事業者による太陽光発電施設の設置をめぐる、全国的に問題が発生している。飯田市環境基本条例では、自然と人の共生の確保を施策の基本方針の一つに掲げるとともに、第4条第1項第2号において事業者が開発事業と環境への配慮、環境の保全を義務付けている。市は、条例の趣旨を側面から担保する政策を打ち出してはどうか</p> <p>2 平成28年熊本地震の教訓を生かすには</p>



	永井 一 英	<p>(1) 平成28年熊本地震は、今までの大地震に比べて何が特徴的だったか</p> <p>(2) 支援隊・先遣隊として派遣された市の職員が現地へ行って活動する中で、飯田市の防災・減災対策に欠けている、遅れていると感じたことは何か</p>
18	清水 勇 (会派のぞみ)	<p>1 新教育長の教育方針と今後の活動について</p> <p>(1) これまでの経験を踏まえての見解は</p> <p>① 杉並区和田中学校校長に就任した目的と在職中の実践活動で良かったこと、また反省点は</p> <p>② 校長在職中に学んだことは何か</p> <p>③ 武雄市の教育監として就任していたがどのような取り組みをしてきたか</p> <p>④ 教育監として武雄市の教育環境をどう思ったか、また教育行政をどう捉えていたか</p> <p>(2) 飯田市の教育長に就任したが飯田市の教育環境をどう捉えているか</p> <p>① 小学校・中学校の校長をし、生徒の成長過程の学習・指導を体験したようだが、地域環境の差の大きな当市でどのような活動を考えていくか</p> <p>② 地育力と地域文化学習、伝統行事などの教育をどのように考えているか</p> <p>③ 地域の現状を捉え今後の教育方針、取り組みをどう考えているか</p> <p>(3) 新教育委員会制度の中に教育長へのチェック機能強化とあるが具体的な内容は</p> <p>2 自転車のまちづくりの取り組みについて</p> <p>(1) TOJも今年で11回を迎えるが今までの取り組みの成果はどうか</p> <p>① 今後の取り組みをどのように考えているか</p> <p>② 他地域の開催内容を視察、研修し今後の運営や地域にメリットがあるように活かしたらどうか</p> <p>(2) 自転車のまちづくりに取り組んでいるが現在の状況についてはどうか</p> <p>① 今後の取り組みをどう考えているか</p> <p>② 東京オリンピックの開催もあるが、自転車選手などの強化施設の検討はどうか</p>
19	古川 仁 (日本共産党)	<p>1 飯田市の教育について</p> <p>(1) 小学校等で行われている読み聞かせボランティアについて</p> <p>① 目的と経過は</p> <p>② 現状はどうなっているか</p> <p>③ 子供たちの反応は。また、効果をどうとらえているか</p> <p>④ 今後、読み聞かせボランティアに期待することは</p> <p>(2) 飯田市の平和教育について</p> <p>① 市は平和教育をどの様に考えているか</p> <p>② 満蒙開拓平和記念館や飯田市平和祈念館資料室の活用を考えているか</p>
20	山崎 昌伸 (会派のぞみ)	<p>1 リニア未来都市ブランディング事業について</p> <p>(1) 「リニア未来都市ブランディング事業」の進捗状況は</p> <p>① これまでの取組状況と成果は</p> <p>② 「飯田のへえー図鑑」はどのようにいかしているか</p> <p>③ 「焼き肉のまち飯田」のブランド化をどう考えるか</p> <p>④ 今後どのように取り組む考えか</p> <p>2 行政評価のあり方について</p> <p>(1) これまでの行政評価における問題点は何か</p> <p>(2) 第5次基本構想基本計画推進委員会からの提言をどう捉えているか</p>
21	吉川 秋利 (会派のぞみ)	<p>1 飯田市と飯田市土地開発公社との関わりについて</p> <p>(1) 飯田市と飯田市土地開発公社との関係は</p>

吉川 秋利	<ul style="list-style-type: none"> <li>(2) 土地開発公社へ業務委託する場合の基準は</li> <li>(3) リニア関係の代替地などの業務が、拡大すると思われるが、トラブルが発生した場合の、飯田市の責任は</li> <li>(4) 土地交渉などの経過は情報開示されるか</li> <li>2 「知の拠点」構想の進捗状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 信大南信州キャンパス構想について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 改修工事の入札・着工の予定は</li> <li>② 学生の募集など、信州大学との調整状況はどのようになっているか</li> </ul> </li> <li>(2) 航空機システム実証試験機能の整備など県施策の方向性は</li> </ul> </li> </ul>
-------	---

③第3回定例会一般質問通告表（一問一答方式）

平成28年9月7,8日

No.	氏名	項目・要旨
1	新井 信一郎 (会派のぞみ)	<p>1 無人航空機(ドローン等)の現状について</p> <p>(1) 無人航空機(ドローン等)の市の利用状況は</p> <p>(2) 無人航空機(ドローン等)の飛行禁止空域はあるか</p> <p>(3) 無人航空機(ドローン等)によるトラブルを把握しているか</p> <p>(4) 各種イベント等多く人が密集する場合や、特に空中を利用する催し(花火大会や凧揚げ等)には規制が必要ではないか</p> <p>2 18歳選挙権引き下げ後執行された選挙の投票結果について</p> <p>(1) 18歳選挙権引き下げ後執行された選挙の新有権者(18～19歳)の投票結果はどうであったか</p> <p>(2) 事前の予想(有権者になるという自覚の啓発方法)と投票結果から得たものは</p> <p>3 地方創生の一環でもある「地方創生☆政策アイデアコンテスト2016」等へのアプローチは</p> <p>(1) 「地方創生☆政策アイデアコンテスト2016」へ市民参加により、国と直結したまちづくりを実現させられないか</p> <p>(2) 市独自で仮称「18歳枠」として政策提言やその結果を成し遂げるための政策枠確保は考えられないか</p> <p>4 リニア新時代に向けた牧野市政の対外(外交)姿勢について</p> <p>(1) 今後の取り組み姿勢は</p> <p>① 伊那谷に対して</p> <p>② 長野県に対して</p> <p>③ 日本政府に対して</p> <p>④ 諸外国に対して</p>
2	竹村 圭史 (会派のぞみ)	<p>1 よりよい地域防災体制の整備について</p> <p>(1) 有事の際に市民が安心・安全に行動できるように更に進めていく必要があると思われる対策を市長はどのように考えるか</p> <p>(2) 指定避難所等へ誘導するために電柱へ案内看板を掲出することは有効な方法であると考えがどうか</p> <p>(3) 屋外広告物条例等において、屋外広告物の禁止又は許可地域があるということであるが、</p> <p>① 屋外広告物の禁止又は許可地域を定める目的及び範囲は</p> <p>② 指定避難所等が屋外広告物の禁止又は許可地域に該当する箇所はどこか</p> <p>③ 指定避難所等へ誘導する案内看板を禁止又は許可地域で掲出できない理由は何か</p> <p>(4) 屋外広告物の禁止又は許可地域であっても、市民の安心・安全という観点から指定避難所等へ誘導するための電柱看板を設置できるようにすべきではないかと思うが市長の考えは</p>
3	木下 徳康 (会派のぞみ)	<p>1 福祉医療費重複支給分返金について</p> <p>(1) 重複支給分返金に関する事務を改善することはできないか</p> <p>① 返金事務の改善について研究を行っているか</p> <p>② 今後の見通しはどうか</p> <p>2 飯田下伊那診療情報システム(ism-Link)について</p> <p>(1) 進捗状況、現状はどうか</p> <p>① 運営体制はどうか</p> <p>② 開示・閲覧の医療機関数、システム参加者数はどうか</p> <p>③ 医療や介護現場での活用状況はどうか</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	木 下 徳 康	<p>(2) 今後の課題は</p> <p>3 多文化共生社会について</p> <p>(1) 多文化共生社会推進計画の実施最終年度となる本年度の現状はどうか</p> <p>① この計画策定の背景と内容は</p> <p>② 成果をどのように捉えているか</p> <p>③ 外国籍の市民数の推移は</p> <p>(2) 次期多文化共生社会推進計画の見通しは</p> <p>① 外国籍市民の受入れをどう考えるのか</p> <p>② 産業の担い手としての期待はあるか</p>
4	湯 澤 啓 次 (会派のぞみ)	<p>1 生物多様性保全を重視する環境都市政策について</p> <p>(1) 生物多様性保全は「環境文化都市」飯田市の環境政策の中でどう展開されているか</p> <p>① 地勢的に飯田市は全国的に極めて稀な生物多様性に富んだ地域であり、その特性を生かすことが地域戦略的にも教育的にも重要との認識は</p> <p>② 次期21'いいだ環境プランの中での展開は</p> <p>③ 環境学習の体系化及び展開は</p> <p>④ 県の飯田都市計画の方針「都市化の進展等に伴って生物の多様性の減少が危惧されているなか、生物多様性の保全を図る」はどう生かされているか</p> <p>(2) 国が推進する生物多様性地域戦略について</p> <p>① 「生物多様性ながの県戦略」の政策反映は</p> <p>② 生物多様性自治体ネットワークで主導的に活動する考えは</p> <p>③ 飯田市版生物多様性地域戦略を策定する考えは</p> <p>(3) 有効な手段と成りえるビオトープについて</p> <p>① ビオトープネットワーク構築の考えは</p> <p>② 市民カエル調査、市民トンボ調査等の実施は</p> <p>③ LED防犯灯へのセード(かさ)取り付けは</p> <p>2 次世代に繋げる森林政策について</p> <p>(1) 飯田市の森林の重要度、将来性、今後の政策について市長の考えは</p> <p>(2) 林業の抱える諸課題への市の取り組みについて</p> <p>① 森林認証の取り組みの現状、認証の活用は</p> <p>② 作業路など路網整備の方針、現状、マッピング等今後の取り組みは</p> <p>③ 森林の団地化をどう進めていくか</p> <p>④ 地域産材の利用について</p> <p>ア 住宅産業へ普及させる取り組みは</p> <p>イ 今後予定されている飯田荘や、JR飯田線乗換新駅、リニア駅舎への地域産材のシンボリック活用は</p> <p>ウ 暮らしの中での活用例として地域産材による表札普及の考えは</p> <p>(3) 新たな森林政策への取り組みについて</p> <p>① 全国の先進事例から学ぶことはないか</p> <p>ア 市民参加による森林づくりへの新たな取り組みや、グリーンツーリズムの経験を生かした体験ツアーやサービス、魅力あるHP制作、情報発信などへの取り組みは</p> <p>② 南信州全体で取り組む森づくり市民条例策定の考えは</p> <p>③ 女性目線や若者の発想、専門職を置いた「森づくり課」への考えは</p>
5	吉 川 秋 利 (会派のぞみ)	<p>1 シティプロモーションについて</p> <p>(1) 市としてどのように認識しているか</p> <p>(2) 15年後の飯田市の未来像をどのように描いているか</p> <p>(3) どのように進めていくか</p>

No.	氏名	項目・要旨
	吉川秋利	<p>2 シビックプライドについて</p> <p>(1) どのような位置づけとして考えているか</p> <p>(2) 必要性についてはどのように認識しているか</p> <p>(3) どのように進め、定着を図るか</p> <p>3 ブランディングについて</p> <p>(1) どのように捉えているか</p> <p>(2) ブランド化を進めるについて、どのように考えているか</p>
6	福沢清 (会派みらい)	<p>1 飯田市で働く人たちの労働環境について</p> <p>(1) 働く人たちの実態をどのように把握しているか</p> <p>(2) 「飯田市働く人白書」の作成はどうか</p> <p>(3) 市職員の仕事と生活の調和(ワークライフバランス)は</p> <p>2 第二期飯田市中心市街地活性化基本計画について</p> <p>(1) 進捗状況は</p> <p>(2) 目標測定地以外の活性化をどう判断するか</p>
7	熊谷泰人 (会派のぞみ)	<p>1 空家等対策計画について</p> <p>(1) 空き家の活用・流通の促進について</p> <p>① 空き家バンクの登録状況は</p> <p>② 空き家バンクで提供する情報の内容は</p> <p>③ 定住促進策として移住体験宿泊(トライアルステイ)事業はどうか</p> <p>(2) 管理不全対策について</p> <p>① 特定空き家、準特定空き家の状況は</p> <p>② 補助制度について</p> <p>ア 解体への補助はできないか</p> <p>イ 空き家の管理費用補助はできないか</p> <p>2 スポーツ合宿の取組について</p> <p>(1) 長野県スポーツコミッションに市はどのように関わっていくか</p> <p>(2) 市のスポーツ合宿の取組状況は</p> <p>(3) 交流人口拡大に向けスポーツ合宿を事業化し取り組むべきと考えるがどうか</p> <p>(4) 市長のスポーツ振興に対する考えは</p>
8	清水可晴 (市民パワー)	<p>1 奨学金制度について</p> <p>(1) 奨学金制度の現状と見直しは</p> <p>① 給付型奨学金制度創設を計画している国・県の動向と当市の奨学金制度の現状は</p> <p>② 奨学金制度を充実し、見直す考えは</p> <p>ア 若者の地元定着効果をより高める奨学金制度の拡充が必要ではないか</p> <p>イ 医療・介護人材育成(看護師、介護士、薬剤師、歯科衛生士)に、奨学金制度を充実する必要があると思うがどうか</p> <p>ウ 入学一時金も奨学金の対象にできないか</p> <p>エ 子どもの貧困問題に着目した奨学金制度のあり方を検討する必要があると思うがどうか</p> <p>(2) 奨学金の財源確保を寄附やふるさと納税の活用を求める考えは</p>
9	古川仁 (日本共産党)	<p>1 飯田市の子育て支援について</p> <p>(1) 飯田市の子どもの貧困の実態について</p> <p>① 実態を把握しているか</p> <p>② 小中学校の給食費の滞納状況は、また、その傾向はどうか</p> <p>③ 県のモデル事業「子どもの居場所づくりモデル事業」を市内で実施しているようだが、市の関わりはどうか</p>

No.	氏名	項目・要旨
	古川 仁	<p>④ 例えば「信州子ども食堂in飯田」の取り組みが始まっているが、子どもの貧困対策として、市は積極的に取り組む考えはあるか</p> <p>2 飯田市の病児・病後児保育について</p> <p>(1) 利用時間の延長を考えてはどうか</p>
10	木下 容子 (市民パワー)	<p>1 教育行政について</p> <p>(1) 国で検討されている学習指導要領改訂についてどうとらえているか</p> <p>① 内容・スケジュール・大学入試制度についてどうとらえているか</p> <p>(2) ICT教育の導入について</p> <p>① ICT教育について、文科省の方針をどのようにとらえているか</p> <p>② 飯田市におけるICT教育導入の目的・目標は何か</p> <p>③ 飯田市での今後の導入計画・ビジョンはどうか</p> <p>④ 導入に関して、学校現場の環境整備の方針はどうか</p> <p>⑤ 「ICT教育基本計画」を策定する考えは</p> <p>⑥ 導入に関してメリット、デメリットの把握とデメリット解消のための方策は</p> <p>(3) 教員を取り巻く現状について</p> <p>① 全国的に教師の多忙化が問題視されているが、飯田市での実態を把握しているか</p> <p>② ICT教育の導入が教員の労働過重につながるのか</p> <p>2 2年後に迫ったAVIAMA(人形劇の友・友好都市国際協会)総会について</p> <p>(1) AVIAMA総会開催について</p> <p>① AVIAMA総会開催に合わせて、シャルルヴィル・メジュール市との友好都市提携30周年記念事業は計画できないか</p> <p>② 来飯する各都市代表者に飯田の何を伝えるか</p> <p>③ シャルルヴィル・メジュール市の「飯田通り」への答礼の計画は</p> <p>④ 長野オリンピックで実施された「1校1国運動」は考えられないか</p> <p>⑤ まちなかへの多言語案内表示の必要性はどうか</p>
11	湊 猛 (会派のぞみ)	<p>1 いいだ未来デザイン2028(次期総合計画)について</p> <p>(1) 目指すまちの姿は</p> <p>① 飯田のまちづくりの姿勢は</p> <p>② 8つの「暮らしの姿」「まちの姿」は</p> <p>(2) 地区別懇談会での意見をどう捉えるか</p> <p>① 人口変動による影響は</p> <p>② 地区未来ビジョン、地区による人口展望は</p> <p>③ 地区未来ビジョンを実現するための市の考えは</p> <p>④ 若い世代の意見の反映は</p> <p>(3) いいだ未来デザイン2028策定後の進行管理をどのような考えで行うか</p> <p>2 飯田市版総合戦略で掲げた4つの柱への取り組みは</p> <p>(1) 若者が帰ってこられる産業づくりの展開は</p> <p>(2) 飯田市への新しい人の流れをつくるには</p> <p>(3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる取り組みは</p> <p>(4) 環境と経済が好循環する低炭素なまちをつくるには</p>
12	原 和世 (会派みらい)	<p>1 飯田市歴史研究所のあり方について</p> <p>(1) 飯田市歴史研究所のあるべき姿とは</p> <p>① その活動は飯田市民の歴史研究所となっているか</p> <p>② その活動は飯田市の人材育成になっているか</p> <p>③ その研究の地域性はどうか</p> <p>④ その研究には飯田市の意思が反映されているか</p> <p>⑤ 研究費は妥当か</p> <p>⑥ 飯田市美術博物館との関係は</p>

No.	氏名	項目・要旨
	原 和 世	<p>⑦ 現施設からの移転に係る考え方は</p> <p>2 障がい者を支える飯田市の取り組みに関して</p> <p>(1) 信州パーキング・パーミット制度の普及は</p> <p>(2) 飯田市身体障がい者福祉協会の活性化のための支援は</p> <p>(3) 飯田市身体障がい者福祉協会賛助会員の状況に関する市の考えは</p>
13	村 松 まり子 (公明党)	<p>1 児童福祉法の改正について</p> <p>(1) 児童福祉法の改正とその対応は</p> <p>(2) 被虐待児童の自立支援の取組みは</p> <p>(3) 里親制度の現状と課題は</p> <p>2 高齢者の自動車運転事故対策と交通政策について</p> <p>(1) 高齢者の交通事故の現状は</p> <p>(2) 運転免許証の自主返納と支援策は</p> <p>(3) 地域公共交通の現状と課題は</p> <p>3 イベント情報発信による市民交流の推進について</p> <p>(1) イベント情報の提供はどのように発信しているか</p> <p>(2) 市公式ウェブサイトに掲載するイベント情報の選定基準は</p> <p>(3) イベント発信のプラットフォーム構築の考えは</p>
14	小 倉 高 広 (日本共産党)	<p>1 国民健康保険税の差押えについて</p> <p>(1) 国保税の差押えに対する市の考え方はどうか</p> <p>① 飯田市の差押え率(差押え件数/滞納世帯数)が、全国及び県下の市町村と比較して異常に高いのはなぜか</p> <p>② 市はどのような場合に差押えを行うか。目的とその基準はどうか</p> <p>(2) 国保税の滞納者には「生活困窮者」が多いと思うがどうか</p> <p>① 国保税を滞納し給与の振込口座を全額差押えられた事例を聞いているが、市としてはどう考えるか</p> <p>(3) 差押えのルールは法律(国税徴収法、国税徴収法基本通達、地方税法、その他)でどのように決められているか</p> <p>① 差押えの法的根拠は何か</p> <p>② 差押え禁止財産にはどのようなものがあるか</p> <p>ア 国税徴収法75条～78条の規定はどのようなものか</p> <p>(4) 預金口座に「差押え禁止債権」が振り込まれた場合の差押えを市はどのように考えているか</p> <p>① 預金口座に振り込まれたものはすべて「金融資産」と見なすか</p> <p>② 「鳥取県児童手当差押え事件判決」をどのように受け止めているか</p> <p>(5) 市は「滞納処分の停止」をどのような場合に行うか</p> <p>(6) 国保税の減免制度は拡充できないか</p> <p>2 学童保育について</p> <p>(1) 学童保育(児童クラブ、児童館など)の現状はどうなっているか</p> <p>① 学童保育の数、定員、実利用人数、指導員の数はどうか</p> <p>② 学童保育の待機者は何人いるか</p> <p>(2) 学童保育に対する需要が増加していることに市はどのように応えるか</p> <p>① 「学年があがると通所できない」という実態は本当か</p> <p>② 定員を増やすとすれば、スペース、指導員の数など改善するつもりはあるか</p> <p>(3) 保護者の要望に市はどのように応えるか</p> <p>① 「保育時間を延長して欲しい」との声があるが、どうか</p> <p>② 「上の子が高学年で下の子が学童保育に通っている場合、上の子も一緒に入れて欲しい」との声があるが、どうか</p> <p>③ 「夏休みに母子世帯の場合、通勤の関係で午前8時30分前に開所して欲しい」との声があるが、どうか</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
15	永 井 一 英 ( 公 明 党 )	<p>1 若者定住を促進するためには</p> <p>(1) 若者を惹きつけるまちとは</p> <p>① 市長は、若者を惹きつけるまちとはどのようなまちだと考えるか</p> <p>② 小田切徳美明治大学農学部教授は、「過疎化が進む中、地域の課題に向き合い、住民が主体となって地域磨きを進めている地域にこそ若者たちの田園回帰の傾向が現れる」と言われているが、市長はどう考えるか</p> <p>ア 飯田市におけるまちづくりは各地域の特徴を尊重して進められてきたが、人口減少、高齢化の進展などにより元気な地域と活力が失われつつある地域と状況にバラつきが出始めている。また、個々人の当事者意識、主体的参画という点も課題となっている。行政はどのように現状を認識し、どのように対応し乗り越えようと考えているか</p> <p>③ かつて人形劇フェスタに参加した長野県外の学生が、取り組みに魅せられて長野県内の小・中学校の教員を目指し、現在市内の小学校に赴任している実例がある。例えば、学輪IIDAに参加している学生にとってはどうか。また、学輪IIDAが地域振興に寄与するという視点での取り組みはどうか</p> <p>(2) 子育てしやすいまちとは</p> <p>① 市民意識調査からすると飯田市が子育てしやすい環境のまちだと思う市民の割合は6割を超えている。どのような点が市民から評価されていると考えるか</p> <p>② 市長は、就任当初から子育て支援に力を入れてきたがその思いはどのようなようであったか</p> <p>③ 若者定住を促進するためには、子育てしやすいまちという視点も重要と考える。市長はどう考えるか。また、子育てしやすいまちとはどのようなまちだと考えるか</p> <p>④ 今までも子育てを応援する制度の充実を訴えてきたが、新年度に向けてどのように考えているか</p>
16	森 本 政 人 ( 市 民 パ ワ ー )	<p>1 リニア駅周辺整備基本計画について</p> <p>(1) リニア駅周辺整備検討会議の進捗状況は</p> <p>① 部会構成と役割は</p> <p>(2) 伊那谷自治体会議と検討会議との連携をどのように図るか</p> <p>(3) 駅舎整備計画の現状は</p> <p>① 駅舎の整備と利用について、市はどのように考えているか</p> <p>② 検討会議で募集したアイデアのうち駅舎に関してどのようなものがあり、今後どのように生かすか</p> <p>③ 市は駅舎に必要な機能をどのように考えているか</p> <p>④ バリアフリー・ユニバーサルデザインについて、どう考えているか</p> <p>(4) 駐車場設置に関する考え方は</p> <p>(5) リニア駅へのアクセスについて</p> <p>① リニア駅へのアクセス道路計画は</p> <p>(6) リニア開通が予定より遅れた場合の駅周辺整備の対応は</p> <p>2 乗換新駅の設置について</p> <p>(1) JR東海との協議の状況はどうか</p> <p>(2) リニア駅と乗換新駅の移動手段をどう考えているか</p> <p>3 リニア駅を生かした中心市街地活性化について</p> <p>(1) リニア駅から中心市街地への誘客戦略の検討状況は</p> <p>4 環境負荷低減への取り組みは</p> <p>(1) 長い工事期間における市民生活を守る姿勢は</p> <p>① 水がれ対策は</p> <p>② 工事車両への対策は</p>



No.	氏名	項目・要旨
	森本政人	③「社会環境影響評価」の実施は (2) 残土受け入れ候補地の選定状況は
17	後藤 莊一 (日本共産党)	1 農業振興策について (1) 新しい農業委員会制度について ① 農業委員会法改正の目的は何か ② 飯田市農業委員会の役割や定数はどうか ア 公選制から市長の任命制になるが、任命の基準に対する考えは イ 青年・女性委員、学識経験委員など選出するか ウ 認定農業者の割合は ③ 「農地利用最適化推進委員」の設置は ア 選任方法、定数は イ 役割は ④ 農業委員会の役割はどう変わるか ⑤ 飯田市農業委員会事務局の機能はどうなるか ⑥ 「農業委員会ネットワーク機構」はどのような役割をはたすか ⑦ 新しい農業委員会制度に対する市長の考えは (2) 「市田柿の生産振興を目的に行う事業」について ① 「特認生産者」に有利な内容になっているが、全ての生産者にも同様な補助ができる制度にならないか ② 農業政策全般に関し、認定農業者など大規模農家への優遇を改め、高齢者など小規模農家も支援できる振興策を進めたらどうか
18	山崎 昌伸 (会派のぞみ)	1 「円卓の地域主義」について (1) 出版に至るまでの経緯はどのようなものか (2) 読者からの感想、意見、批評をどのように受けとめるか (3) 「善い地域」とは何か (4) この本は飯田市、飯田市民に何をもたらすのか
19	清水 勇 (会派のぞみ)	1 天龍峡再生事業と集客の取り組みについて (1) 名勝天龍峡整備計画の現状はどうか (2) 今後の整備について (3) 天龍峡再生事業について ① 遊歩道整備による人の流れと集客をどのように考えているか ② 舟下りやラフティング利用者への取り組みはどうか ③ 両舟下り会社への対応について市はどのように係わるか ④ 観光面だけでなく他の施設整備による集客はどのように考えているか 2 農振農用地の除外について (1) 農振除外の基本的な考え方は (2) 平成28年6月1日に農地転用許可の権限が移譲されたが、その内容と市の対応はどうか (3) リニア関連の農振除外の申し出に対する取り組みについてどう考えるか (4) 現状で申し出から除外済み通知まで1年程かかっているが、短くならないか

④第4回定例会代表質問通告表

平成28年12月7,8日

No.	氏名	項目・要旨
1	吉川秋利 (会派のぞみ)	<p>1 牧野市長の4期目について</p> <p>(1) 未来像について</p> <p>① 立候補を表明し、4期目に向け市民と接した時に一番必要と感じたことは何か</p> <p>② 継続して取り組み、成果を上げなくてはならないものは何か</p> <p>③ 第5次基本構想・基本計画の成果をどのように考えるか</p> <p>④ 経済自立度はどのように向上させるか</p> <p>⑤ リニア中央新幹線開通後の未来像をどのように描いているか</p> <p>(2) 29年度予算について</p> <p>① 基本的な考え方と予算編成の方針は</p> <p>② 重点と考えている事業と予算規模は</p> <p>③ 主要4基金と市債についての見通しは</p> <p>2 教育について</p> <p>(1) 教育委員会の機能についてどのように捉えるか</p> <p>(2) ICT教育に何を期待するか</p> <p>(3) 小中連携・一貫教育との整合性はどのように考えるか</p> <p>(4) 情操教育(読書)はどのように活用されるか</p> <p>(5) 地育力(公民館活動)を利用したコミュニティスクールについてはどのように考えるか</p> <p>(6) 文化の拠点についてはどのように考えるか</p> <p>(7) スポーツ振興についてはどのように考えるか</p> <p>3 若者が定着する飯田市について</p> <p>(1) シビックプライドについてはどのように考えるか</p> <p>(2) 産業について</p> <p>① 知の拠点構想についてはどのように考えるか</p> <p>ア 信州大学航空機システム共同研究講座については</p> <p>イ 南信州・飯田産業センターの移転等今後の方向性については</p> <p>ウ 飯田デザインバレー構想については</p> <p>② 航空宇宙産業についての展望は</p> <p>③ メディカルバイオについては進捗状況は</p> <p>④ 起業支援についてはどのように考えるか</p> <p>(3) 生活環境について</p> <p>① 若者のコミュニティの機会づくりについてはどのように考えるか</p> <p>② 人口減少への対応についてはどのように考えるか</p> <p>4 リニア中央新幹線について</p> <p>(1) リニア未来都市について</p> <p>① リニア駅周辺整備についてどのように進めるか</p> <p>② JR飯田線乗換新駅についてはどのように進めるか</p> <p>③ 移転を余儀なくされる市民・団体への対応は</p> <p>(2) ブランディングについてはどのように進めるか</p> <p>(3) シティプロモーションについてはどのように進めるか</p> <p>(4) 小さな世界都市についてはどのように考えているか</p> <p>5 危機管理について</p> <p>(1) 執行体制についてはどのように考えているか</p> <p>(2) 災害に強いまちづくりとは</p> <p>6 医療体制について</p> <p>(1) 中核病院としての役割と責任についてはどのように考えているか</p>

No.	氏名	項目・要旨
	吉川秋利	<p>(2) 医師の確保と医療サービスについてはどのように捉えているか</p> <p>7 空き家対策について</p> <p>(1) 職員体制についてはどのように考えるか</p> <p>(2) 今後の対応についてはどのように考えるか</p>
2	原和世 (会派みらい)	<p>1 市長の市政運営に関して</p> <p>(1) 4期目の決意と、3期12年の総括について</p> <p>① 無投票再選を受けて、市民の信任と期待に対しどのような決意を持って臨むか</p> <p>② 未達である経済自立度70%をどのように総括するか</p> <p>③ 人材サイクルに関して目指す所と現状の総括は</p> <p>④ 事業構想大学院大学との連携事業の総括は</p> <p>⑤ 年頭所感で述べているキーワード(多機能高付加価値都市圏・デザイン思考的アプローチ・事業構想・円卓・善い地域)などの新機軸に対する、市民及び庁内における共有は</p> <p>2 4期目における市長の公約について、目標とその実現に向けた取り組みに関して</p> <p>(1) 目標である「善い地域・飯田」の実現ための6つの基本方針の中に、「若い人が帰って来られる産業づくり」、「地育力により若い人が帰って来たいと考える人づくり」を掲げているが、その実現に向けた課題と解決のために必要なことについてどのように考えるか</p> <p>3 行政運営に関して</p> <p>(1) 行政・財政改革の推進について</p> <p>① 市の重要な政策決定の際の会議録とその情報公開は「行政の見える化」の観点において必要だと考えるが、その取り組みの現状は</p> <p>② 「公共施設等総合管理計画」は縮小していく社会におけるインフラ整備計画として重要だが、その進め方は対象となる全施設の現状を先ず示し、一定の管理基準、全リストを示した上で市民との協議をすべきかと思うがどうか</p> <p>4 リニア新幹線整備事業に関して</p> <p>(1) リニアを見据えた土地利用の方針について</p> <p>① リニア駅周辺における、都市的土地利用と農地利用の相互の環境をいかに適切に確保するかについての都市計画をどのように考えるか</p> <p>(2) JR東海との「協定」について</p> <p>① JR東海は、環境影響評価書と同じ内容で協定を結ぶことは考えないと姿勢だが、飯田市の環境基本条例、環境保全条例などを根拠に、事業主体であるJR東海との間で、協議を行う場を設置することと、工事中を含め将来にわたる「協定書」(文書)を交わす考えは</p> <p>(3) リニア駅とのアクセスについて</p> <p>① まちづくりの観点から、中心拠点とリニア駅とのアクセスの具体的な計画を示す考えは</p> <p>5 産業政策に関して</p> <p>(1) 産業振興について</p> <p>① 知の拠点の来年度講座開講に向けた準備状況は</p> <p>② 知の拠点整備に関し、多様な地域産業との関連が見えてこないが今後どのように位置づけるか</p> <p>③ 知の拠点の整備効果を上げるためには、運営主体を明確にし、事業目的及びその責任と権限を明確にした体制整備を図るべきと考えるがどうか</p> <p>④ 技能労働者に関して市民生活とバランスの良い産業構造を考えた時、就業実態を把握し地域社会に与える影響などについて市独自の調査をすることは</p>

No.	氏名	項目・要旨
	原 和 世	<p>6 医療・福祉政策に関して</p> <p>(1) 医療・福祉政策の課題について</p> <p>① 長野県地域医療構想策定委員会で検討中の「地域医療構想」に対する市の捉え方は</p> <p>② 今後進行する高齢化社会に対応する在宅医療介護のための看護職の確保に奨学金制度を設けることになるが、このことも含め確保対策の見通しは</p> <p>③ 来年度スタートする地域福祉計画に現行の「住民支え合いマップ」を活用することになるが、個人情報保護について、地域の判断に委ねるのではなく市が対処法について示すべきかと思うがどうか</p> <p>④ 地域福祉計画を推進するために市は、まちづくり委員会・民生児童委員協議会・社会福祉協議会と協働で行う必要があると考えるが、横断的な協議の場とリーダーシップの必要性をどのように考えるか</p> <p>7 住民自治に関して</p> <p>(1) 地域自治組織のあり方について</p> <p>① 地域自治組織に移行し10年を経てきたが、縮小社会の中で自治会費・役員の担い手・住民自治など今日的な課題が見えてきている。持続可能な地域づくりのために再度原点に立って自治組織の見直しをすべきだが、その活動支援も含め今後どう考えるか</p> <p>8 教育政策に関して</p> <p>(1) 人材育成についての取り組みについて</p> <p>① 子どもたちに関わるスポーツ指導者の育成について「社会体育活動における青少年スポーツ指導の指針」を策定したが、その実現のための指導者育成の取り組みは</p> <p>② 今後、更には中・高校生の地域社会参画を進めるべきだと考えるが、教育委員会としての方向性と、例えば飯田OIDE長姫高校とのパートナーシップ協定をモデルに拡大する考えは</p>
3	林 幸 次 ( 公 明 党 )	<p>1 市長4期目の政治姿勢と予算編成方針について</p> <p>(1) 2期連続無投票当選となった選挙結果をどう受け止めるか</p> <p>(2) 3期12年間の牧野市政をどう振り返り4期目の市政運営に臨むか</p> <p>(3) 地域自治組織が導入されて10年経過するが、地域自治・住民自治における成果と課題の分析は</p> <p>(4) 予算編成方針について</p> <p>① 次期総合計画前期4年間の初年度となる平成29年度予算編成への基本的方針は</p> <p>② 予算編成過程の公開をすすめ透明化を図る方針が必要では</p> <p>2 リニア中央新幹線開業に向けた対応について</p> <p>(1) 工事期間中と開業後の飯田市の経済波及効果の見込みは</p> <p>(2) 開業による効果をより活かすための、広域連携の在り方・働き掛けをどう進めるか</p> <p>3 産業振興の知の拠点構想について</p> <p>(1) 航空宇宙産業を確かな成長産業にするために、市の果たす役割は</p> <p>(2) 信州大学航空機システム共同研究講座の成果をあげて、5年後に南信州キャンパスとするためにどう取り組むか</p> <p>4 安全・安心を目指したまちづくりについて</p> <p>(1) 防災対策の強化について</p> <p>① 熊本地震の教訓から市のとるべき対策は</p> <p>② 国土強靱化地域計画策定に向けた取り組みは</p> <p>(2) 国民健康保険の広域化について</p> <p>① 2018年度からの国保の広域化に向けて、県との協議・手続き状況は</p> <p>② 広域化によって国保財政の安定化は図られる見通しか</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	林 幸 次	<p>(3) 地域包括ケアシステム構築への取組み状況は</p> <p>(4) 生活困窮者自立支援制度に基づく「自立相談支援事業」の、相談状況と成果は</p> <p>(5) 安心して暮らせる交通弱者対策について</p> <p>① 交通弱者に関する認識及び実態把握は</p> <p>② 今後の交通弱者対策に向けた基本的な考え方は</p> <p>5 市立病院経営について</p> <p>(1) 2016診療報酬改定について</p> <p>① 今回の診療報酬改定が、患者及び市立病院経営に与える影響は</p> <p>② 地域包括ケアシステム構築に向けての、市立病院の役割りと責任は</p> <p>(2) かかりつけ医・かかりつけ薬局の推進についての取組みは</p> <p>6 未来の人財を育む教育行政について</p> <p>(1) 教育長の所信について</p> <p>① 民間企業から教育界に転身したその動機と意図は</p> <p>② 郷里に戻って教育長として教育行政を担おうとした背景(想い)は</p> <p>(2) 飯田市の教育方針について</p> <p>① 「小中連携・一貫教育」の検証・成果は</p> <p>② ゼロ歳から15歳までの子どもを一体的に育てる「幼保小中連携一貫教育」の考えは</p> <p>③ 他市区の学校教育に携わってきた教育長として、市内小中学校のいじめ・不登校の状況をどう思うか</p>
4	森 本 政 人 ( 市 民 パ ワ ー )	<p>1 4期目市長の政治姿勢と市政経営について</p> <p>(1) 市長が4期目就任に際し掲げた公約に込めた決意は</p> <p>(2) 若者地元定着を促進する定住人口増加策は</p> <p>(3) 行財政改革と人事政策について</p> <p>① 飯田市公共施設マネジメントはどの程度進捗しているか</p> <p>② 公契約条例についての今後の展開は</p> <p>③ 新年度職員採用計画と職種ごとの採用計画は</p> <p>(4) リニア関連整備事業と三遠南信自動車道を見据えたまちづくりは</p> <p>① リニア本體工事の推進にあたり、目の前の解決すべき課題は</p> <p>② 発生残土の活用と運搬、最終処分地の決定の課題をどう考えるか</p> <p>③ リニア関連工事労働者による流入人口の増加をどう活かすか</p> <p>④ (仮称)天龍峡大橋開通と天龍峡温泉交流館竣工を見据えた天龍峡の長期展望に立った活性化事業は</p> <p>⑤ 小さな世界都市にふさわしい、国際会議やスポーツ大会が開催できるインフラ整備は</p> <p>2 活力ある産業振興と地域の活性化について</p> <p>(1) 地域雇用の拡大のために、既存産業の支援策と飯田の技術力を活かした新産業分野への進出の働き掛けは</p> <p>(2) 子育てや介護により離職した方、高齢者等を対象とし、過去の経験や知識・技能等を活かした雇用あっせんができるような制度は</p> <p>(3) 就農人口を増やす施策は</p> <p>① 認定農業者が増加しない原因と制度の課題は</p> <p>② 一方の担い手である兼業農家の実態把握と農地保全の対策は</p> <p>3 弱い人のための福祉の充実について</p> <p>(1) 自立と尊厳を支える地域包括ケアシステムの現状は</p> <p>① 重要な担い手として位置付けられている福祉NPO法人への支援策は</p> <p>② 地域自治組織と福祉NPO法人とが連携した支え合いの仕組みは</p> <p>(2) 生活困窮者自立支援の実態は</p>

No.	氏名	項目・要旨
	森本政人	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「自立と尊厳の確保」「個別支援を通じた地域づくり」を掲げる生活困窮者自立支援の課題は</li> <li>② フードバンク事業の実態と今後の展開は</li> <li>(3) 外出困難者などの生活弱者への支援は <ul style="list-style-type: none"> <li>① 運転免許証を返納した高齢者への外出支援は</li> <li>② 在宅高齢者や障がい者と暮らす介護家庭の交流事業は</li> </ul> </li> <li>4 人づくりの教育を充実し、平和で明るい社会づくりについて <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 給付型奨学金による教育費支援は</li> <li>(2) ICT教育におけるメディアリテラシー(情報を評価・識別する能力)は</li> <li>(3) 文部科学省の「不登校児童生徒への支援のあり方」の指導方針により当市の不登校児童生徒への対応は</li> <li>(4) 不登校児童生徒への支援の一環として「フリースクール」を活用する考えは</li> <li>(5) 飯田市の平和教育への取り組みは</li> </ul> </li> <li>5 環境に配慮した安全・安心の持続可能なまちづくりについて <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 脱原発・持続可能なエネルギー都市づくりへの本気度を問う <ul style="list-style-type: none"> <li>① 多様な再生可能エネルギー源開発のためのプロジェクト立ち上げは</li> </ul> </li> <li>(2) 南海トラフ地震を想定した「飯田市地域防災計画」は <ul style="list-style-type: none"> <li>① 浜岡原発事故や深層崩壊を想定したものになっているか</li> </ul> </li> <li>(3) 女性に特化した防災と避難所開設・運営計画は <ul style="list-style-type: none"> <li>① 男性には気が付きにくい、きめ細かな防災と避難所計画は</li> </ul> </li> <li>(4) 防災の見地から、一級河川の管理について国・県に働きかける考えはないか</li> <li>(5) 高齢者の交通事故多発を鑑みたとき、公共交通を活用した移動手段が必要と思うが、市の考えは</li> </ul> </li> </ul>
5	後藤 莊一 (日本共産党)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 市長の政治姿勢と新年度予算編成について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 市長の4期目の公約と今定例会での市長挨拶などから見る政治姿勢について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 公約の中で、低所得世帯(就学援助家庭)の学校給食費は全額補助とするとしているが、いつから取り組むか</li> <li>② 長時間保育や未満児保育の未実施地区については地域の力や民間活力の導入(社会福祉法人等)により対応していくとあるが、どういうことか</li> <li>③ 学童保育の定員拡大と閉所時間の延長はいつから取り組むか</li> <li>④ 市長挨拶の中で、「自立心の欠如」を「三重苦」の一つとして、「行政サービスの受け身の社会」を指摘しているが、「貧困」に陥っても行政を頼らない現状があるがどう思うか</li> <li>⑤ 市政運営全般を日本国憲法に基づいたものにすべきと思うがどうか</li> </ul> </li> <li>(2) 平成29年度の予算編成について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 暮らして良かったと実感できる福祉・医療行政について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 低所得者への日常生活支援策として「灯油代」の助成をしたらどうか</li> <li>イ 「介護予防・日常生活支援総合事業」が始まったが、今後「現行相当サービス」を中心のサービスとし、「基準緩和型サービス」はプラスアルファの事業とすべきと思うがどうか</li> <li>ウ 「地域包括ケアシステム」の構築にあたり、在宅医療で重要な役割を担う「訪問看護ステーション」は特に中山間地域に必要と思うが、市の考えは <ul style="list-style-type: none"> <li>i 閉鎖する「訪問看護ステーション」があると聞いているが、現状と対策は</li> <li>ii 飯田市立病院が取り組む考えはあるか</li> </ul> </li> <li>エ 「長野県地域医療構想(案)」を飯田市としてどう捉えているか</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	後 藤 荘 一	<p>オ 子育て支援のため、第3子目以降の保育料を無料にすべきと思うがどうか</p> <p>カ 現在、市民団体などで「こども食堂」の取り組みがされているが、行政として支援策の考えは</p> <p style="padding-left: 20px;">i 水道光熱費等の運営費や食材費購入等の補助を考えたかどうか</p> <p>キ 子どもと障がい者の医療費は、飯田市でも窓口で無料にすべきだと思うがどうか</p> <p style="padding-left: 20px;">i 「福祉医療費貸付制度」の活用と周知の状況は</p> <p>② 子どもたちの健全な発達のための学校教育について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 「ICT」活用は子どもの成長にどう影響するか</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 「全国学力テスト」の全校参加は学校間の競争につながると思うがどうか</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ 中学生の自衛隊への職場体験は、自衛隊任務の変化から子どもの生命を守る観点で、中止すべきと思うがどうか</p> <p>③ 地域内で循環する経済の構築について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 「中小企業振興基本条例(仮称)」を制定し、域内に多数を占める中小零細企業の振興策を図ったらどうか</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 公契約条例の成案が緊急の課題と捉えているが、状況は</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ 地域農業の現状とこれからの見通しはどうか</p> <p style="padding-left: 40px;">i 中小農家や兼業農家への支援策をどう考えているか</p> <p>④ 環境について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 「再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例」の活用状況は</p> <p style="padding-left: 40px;">i 上村小沢川小水力発電事業の取り組み状況は</p> <p>⑤ 地域自治組織について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 自治組織をさらに発展させるため、また役員の活動をしやすくするため、まちづくり専任の職員を自治振興センターに配置したらどうか</p> <p>⑥ リニア中央新幹線計画について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 駅周辺整備にあたって整備面積を決定する要因の乗降客数の想定を再度調査する考えはないか</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 市内のトンネル工事において発生した土砂の置き場は決定したか、また、周辺や下流域への説明は</p> <p style="padding-left: 40px;">i JR東海からの公表や説明時期など問題と思われるが、市としてはどう思うか</p>

⑤第4回定例会一般質問通告表（一問一答方式）

平成28年12月8,9日

No.	氏名	項目・要旨
1	清水可晴 (市民パワー)	1 中心市街地の活性化について (1) 第2期飯田市中心市街地活性化基本計画の着実な事業推進は ① 第2期飯田市中心市街地活性化基本計画に基づく並木通りの整備と賑わい創出の事業効果は ② リニア時代に向けた中心市街地の更なる磨きへの方策は (2) リニア駅から中心拠点へのアクセスと道路整備は (3) 飯田駅周辺の賑わい創出は ① 飯田駅周辺の商業施設の現状と飯田駅前の総合スーパーの動向 ② 飯田駅周辺の防犯対策は (4) 第3期飯田市中心市街地活性化計画の策定作業は
2	福沢清 (会派みらい)	1 空き家対策について (1) 危険な空き家の現状とその除却に有効な施策は (2) 空き家バンクの現状と課題は (3) 飯田市の空き家対策をさらに充実させていくためにどのようなことが必要か
3	木下徳康 (会派のぞみ)	1 市長が描く善い地域・飯田について (1) 若者の就職、飯田で働くことについて ① 若者の地元への就職の現状はどうか ② リニア中央新幹線による名古屋、東京への通学の可能性は ③ 地育力で「帰って来たいと考える人」を育むには ④ 「帰って来たいと考える人」が、飯田に帰る人になるか (2) 飯田の対外的なアピールについて ① 「飯田ブランドの確立」の目的は ② 現在のアピール方法について独自性はあるか
4	古川仁 (日本共産党)	1 飯田市の就学援助について (1) 就学援助の現状と課題は ① 対象者は ② 援助の内容は ③ 支給時期はいつか ④ 支給時期の検討をしてはどうか
5	山崎昌伸 (会派のぞみ)	1 市民意識調査のあり方について (1) 現状における問題点は何か (2) 次期総合計画の策定に合わせて見直す考えは (3) 意識調査と実態調査の違いは 2 「リニア・三遠南信自動車道」の時代に向けて、この地域をどのように発信する (1) これまでの取組状況は (2) 今後どのように取り組む考えか (3) リニア中央新幹線の「(仮称)長野県駅」の正式名称は、いつどのようにして決められるか
6	小倉高広 (日本共産党)	1 飯田市公共施設マネジメント基本方針について (1) 飯田文化会館、飯田市鼎文化センター、飯田市公民館の統廃合の検討は ① 3施設の利用状況及び財政的見通しは ② 住民の文化活動の拠点としての機能及び利便性は検討しているか



	小 倉 高 広	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 「飯田市行財政改革推進委員会」の意見にある「リニアを見据え」とは、具体的にどのようなことか</li> <li>④ 「目的別検討会議」に市民公募委員を入れるべきだと思うがどうか</li> </ul> <p>(2) 市長は4期目の公約にコンベンション機能を付加した建物の検討を掲げているが、その考えはどのようなものか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① コンベンション機能を付加した建物とはどのようなものか</li> <li>② なぜ、必要だと考えるか</li> <li>③ どこに建設するつもりか</li> <li>④ 飯田市公共施設マネジメント基本方針の基本的考え方との整合性は</li> </ul>
7	永 井 一 英 ( 公 明 党 )	<p>1 事業者による太陽光発電設備の設置と生活環境等への影響について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 事業者が上飯田地籍に太陽光発電設備を設置しようと手続きを進めていると聞く。対応状況は</li> <li>(2) 上記事例において太陽光発電設備を設置・運用しようとする場合に、どのような法令の規制を受けることになるか</li> <li>(3) 事業者が計画どおり上飯田地籍に太陽光発電設備を設置した場合、生活環境等に与える影響について市はどう考えるか</li> <li>(4) 太陽光発電設備の急増に伴い、生活環境や景観への悪影響を巡って住民と発電業者がトラブルになる例が増えていることを受け、県は「太陽光発電を適正に推進するための市町村対応マニュアル」を策定、公表した。市の対応は</li> </ul>
8	村 松 まり子 ( 公 明 党 )	<p>1 改正自殺対策基本法施行に伴う自殺対策の更なる推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成28年4月1日施行の改正自殺対策基本法について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 主な改正点は</li> <li>② 地方自治体の役割はどのように変わったか</li> </ul> </li> <li>(2) 自殺対策について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 自殺の現状は</li> <li>② 自殺対策の取り組み状況は</li> </ul> </li> <li>(3) 自殺対策計画の策定について <ul style="list-style-type: none"> <li>① いつまでにどのような方法で計画を策定していくか</li> <li>② 計画策定後の市民への情報提供は</li> </ul> </li> </ul> <p>2 子どもの医療費の窓口無料化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 国の動きに鑑み、子ども医療費窓口無料化の開始に向けての準備を始めてはどうか</li> </ul>
9	井 坪 隆 ( 会 派 み ら い )	<p>1 市長の地域経営について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 企業における、リニア開通前後の影響に対する現在の期待と懸念に対して、どう応えていくか</li> </ul>

(6) 本会議等傍聴状況 (H28)

会 期	年 月 日	傍 聴 人 数
第 1 回定例会	平成28年 2 月23日	2
	平成28年 3 月 2 日	26
	平成28年 3 月 3 日	20
	平成28年 3 月18日	2
第 2 回定例会	平成28年 5 月24日	1
	平成28年 6 月 1 日	8
	平成28年 6 月 3 日	39
	平成28年 6 月15日	3
第 3 回定例会	平成28年 8 月30日	0
	平成28年 9 月 7 日	19
	平成28年 9 月 8 日	23
	平成28年 9 月26日	15
第 4 回定例会	平成28年11月29日	0
	平成28年12月 7 日	2
	平成28年12月 8 日	21
	平成28年12月 9 日	32
計		213

#### 4 市議会のあゆみ（昭和46年から）

年	議会の動き
昭和46年 (1971年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯田の常備消防を廃止し、飯田市・鼎町・上郷町消防組合へ全面移管するための規約改正を可決</li> <li>・議長 近松宗一、副議長 今村輝男を選出</li> <li>・昭和45年から始まったコメの減反政策について多くの質問があった</li> <li>・鼎、上郷との合併を積極的にすすめるよう質問があった</li> <li>・中央自動車道の早期着工と四車線化を求める意見書を可決</li> <li>・中央道遺跡発掘に伴う埋蔵文化財を収蔵・展示する資料館の建設を求める質問があった</li> <li>・日中国交回復を求める決議がされた</li> <li>・アメリカのドル防衛措置に対して、地元産業の育成策をただす質問があった</li> <li>・県下に先がけて「モーテル建築の規制に関する条例」を可決</li> </ul>
昭和47年 (1972年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民憲章の制定について質問があった</li> <li>・市立病院運営審査特別委員会が市立病院の総合病院化を目指す必要性を検討</li> <li>・PCBなど公害の検査機能の充実を求める質問があった</li> <li>・国民体育大会のラグビー等の競技を飯田において開催できるよう県に対して陳情を行った</li> <li>・飯田市公民館の全面改築を求める陳情を採択</li> <li>・乱開発による環境破壊を防止して郷土の自然を守るため、「自然環境保全条例」を可決</li> <li>・中津川線の見通しと中央新幹線構想についての質問があった</li> <li>・市議会議員補欠選挙</li> <li>・松澤市政の誕生に伴い、その政治姿勢について、活発な質問がなされた</li> <li>・中央自動車道関連の道路整備などを要望する質問があった</li> <li>・福祉や教育施策充実を要望する質問があった</li> </ul>
昭和48年 (1973年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人医療費を無料化する対象年齢を69歳に引き下げる条例を制定</li> <li>・飯田に大学を設立すべきとする質問があった</li> <li>・市議会議員一般選挙 議長 伊原悦雄、副議長 新井安男を選出</li> <li>・中央道開通後予想される騒音、排気ガス、電波障害等の公害対策について質問があった</li> <li>・老朽化がすすむ小中学校の早期改築を求める質問があった</li> <li>・オイルショック、物価高、モノ不足に対する対策を求める質問が集中</li> <li>・鼎、上郷との合併の推進を求める質問が集中</li> <li>・石油危機打開を求める意見書を可決</li> <li>・中央新幹線の早期建設と飯田への駅設置を求める意見書を可決</li> </ul>

年	議会の動き
昭和49年 (1974年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般会計予算に関して予算審査特別委員会で賛否の結論が出ず、「六月段階で措置されるよう市長に要望する」という議長斡旋で収拾され、可決</li> <li>・廃棄物の処理及び清掃に関する条例案に関して、し尿の収集料金の改定について意見が分かれ、最終日を迎えても結論が出ないため、議会の会期を延長して審査を行い、委員会修正案を可決</li> <li>・国保税率の決定にあたって、特別委員会の意見を踏まえ、市長が税率を下方修正する原案の訂正を行って可決</li> <li>・中央道開通を間近に控え、地場産業振興や観光振興策、あるいは公害対策を求める質問があった</li> <li>・教育文化センター（新飯田市公民館）の建設構想について質問があった</li> <li>・西部統合中学の計画について、地元対策をたただす質問があった</li> <li>・東中学校の火災で緊急に議会全員協議会が開かれた</li> <li>・飯田市民の消費生活を守る条例を可決</li> </ul>
昭和50年 (1975年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央道の恵那山第二トンネルの早期着工を求める意見書を可決</li> <li>・中津川線の建設見通しをたただす質問があった</li> <li>・議長 伊原悦雄、副議長 林 昌平を選出</li> <li>・中央道開通に伴う飯田 I C 周辺の道路整備、公害対策、観光開発、産業振興策について多くの質問がされた</li> <li>・窮迫した地方財政のもとでの市行政について集中論議が行われた</li> <li>・開通した中央道の恵那山、網掛トンネル前後の40キロ規制の緩和を求める意見書を可決</li> <li>・風越高校の跡地利用について質問があった</li> <li>・中央道の騒音公害対策や天竜峡付近の交通渋滞の解決を求める質問があった</li> </ul>
昭和51年 (1976年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深夜から未明に及ぶ議会において、市議会議員の定数をそれまでの36名から30名に減少する条例が可決された。一口に「暁の本会議」と言われている</li> <li>・市長が提案した国保税率の引上げ率が下方修正して可決</li> <li>・付加価値税新設に反対する意見書を可決</li> <li>・工場再配置補助金問題調査特別委員会と駅前観光案内所問題調査特別委員会を設置</li> <li>・市議会議員補欠選挙</li> <li>・ニホンカモシカの食害対策を求める意見書を可決</li> <li>・風越高校跡地利用に関して、警察署の建設と、東中学校の建設を求める陳情が出され、その対応で慎重な審査がされた</li> <li>・メッキ工場の建設を求める質問があった</li> </ul>

年	議会の動き
昭和52年 (1977年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人医療費特別給付金の一部改正条例を修正可決</li> <li>・市議会議員一般選挙 議長 林 昌平、副議長 松江良夫を選出</li> <li>・広域水道の統合について質問があった</li> <li>・飯田駅前再開発を求める質問があった</li> <li>・円高不況対策について質問があった</li> </ul>
昭和53年 (1978年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長姫高校の移転を想定した跡地利用について質問があった</li> <li>・水道事業の統合が特別議決をもって可決</li> <li>・中央新幹線・中津川線建設促進特別委員会を設置</li> <li>・市立図書館の改築について質問があった</li> <li>・合併促進特別委員会が設置された</li> <li>・国道153号線バイパスの建設促進を求める意見書を可決</li> <li>・中学生が教師を殴打した事件について質問が集中</li> </ul>
昭和54年 (1979年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人医療費の無料化を65歳までとする条例を可決</li> <li>・国際児童年に対する取組について質問があった</li> <li>・議長 林 昌平、副議長 片桐 勲を選出</li> <li>・地震防災対策強化地域の指定に関して質問があった</li> <li>・駅前、知久町、銀座、本町など旧市街地の再開発について質問があった</li> <li>・果樹共済制度の改善に関する意見書を可決</li> <li>・モデル定住圏の指定に関して質問があった</li> <li>・県営野球場の誘致と総合運動公園の整備について質問があった</li> <li>・一般消費税創設反対に関する意見書を可決</li> <li>・市立病院の総合病院化について質問があった</li> </ul>
昭和55年 (1980年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国鉄経営再建促進特別措置法案の見直しを求める意見書を可決</li> <li>・中津川線を断念し、中央新幹線建設促進に乗換えたかどうかとする質問があった</li> <li>・土地買収に関する土地開発公社の不手際等について調査特別委員会を設置</li> <li>・大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国の自主的平和統一に関する意見書を可決</li> <li>・カモシカの食害防止策についての意見書を可決し</li> <li>・西部統合中学の改築計画の進捗状況について質問があった</li> <li>・土地開発公社をめぐる不祥事について質問が集中</li> <li>・アメリカシロヒトリの防除対策について質問があった</li> <li>・B型肝炎への対策について質問があった</li> <li>・市議会議員補欠選挙</li> </ul>

年	議会の動き
昭和55年 (1980年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北方領土の返還促進などを求める意見書を可決</li> <li>・川路、龍江の天竜川流域の災害危険区域条例撤廃に関して質問があった</li> </ul>
昭和56年 (1981年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産業振興センターの建設について質問があった</li> <li>・市議会議員一般選挙 議長 林 昌平、副議長 松江良夫を選出</li> <li>・国際障害者年に際しての取組について質問があった</li> <li>・中央新幹線、飯田線の強化、中津川線問題を審議する鉄道問題特別委員会を設置</li> <li>・婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条例の早期批准を求める意見書を可決</li> <li>・国鉄飯田線の合理化計画撤回等に関する意見書を可決</li> <li>・若者が定着できるよう企業誘致条例の復活を求める質問があった</li> <li>・地元との調整が長引く西部統合一中問題について、多くの質問があった</li> </ul>
昭和57年 (1982年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時議会において、伊賀良と山本の両中学校を統合し、昭和60年に新たに西部中学校として発足することが可決</li> <li>・長姫高校跡地のあり方について質問があった</li> <li>・統合中学の進捗状況について多くの質問があった</li> <li>・A議員の問責決議案が可決</li> <li>・市民の直接請求による西部統合一中学校を廃止する条例案を否決</li> <li>・飯田市・鼎町合併協議会の設置を可決</li> <li>・飯田線の分割・民営化反対に関する意見書を可決</li> </ul>
昭和58年 (1983年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立病院の経営改善と改築について審査するため、病院問題特別委員会を設置</li> <li>・飯田市農協、中央農協の合併の推進について質問があった</li> <li>・議長 松嶋健次、副議長 平沢與一を選出</li> <li>・農畜産物輸入自由化、枠拡大阻止に関する意見書を可決</li> <li>・大中型店の出店の動きと丘の上商店街の活性化について質問があった</li> <li>・美術博物館の構想について質問があった</li> <li>・コンピューター導入に伴うプライバシー保護の問題、あるいは情報公開制度について質問があった</li> <li>・西部統合一中学校の名称を「旭ヶ丘中学校」とする条例改正案を可決</li> <li>・10万都市実現のため、鼎、上郷との同時合併を求める質問があった</li> <li>・9月28日の10号台風による災害復旧を検討するため、緊急に臨時議会が開かれ10号台風災害対策特別委員会と、天竜水系治水災害対策特別委員会を設置</li> </ul>

年	議会の動き
昭和58年 (1983年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・40人学級早期実現に関する意見書を可決した</li> <li>・松くい虫対策について質問があった</li> <li>・川路、龍江、竜丘の災害危険区域に関する今後の対応について質問があった</li> </ul>
昭和59年 (1984年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三遠南信自動車道の実現の可能性について質問があった</li> <li>・非核平和都市宣言を可決</li> <li>・人種差別撤廃条約の早期批准に関する意見書を可決</li> <li>・天竜川治水対策と天竜峡の景観保全について質問があった</li> <li>・鼎町との合併に関する議案審議のため臨時議会が開かれ、12月1日の合併を全会一致で議決</li> <li>・市職員に60歳の定年制を導入する条例を可決</li> <li>・国鉄の分割民営化反対に関する意見書を可決</li> <li>・市議会議員の定数を31名に減少する条例を可決</li> <li>・新しい街づくりの中での鼎地区の位置付けについて質問があった</li> <li>・天竜川の恒久的な治水対策を求める意見があった</li> <li>・テクノハイランド構想について質問があった</li> </ul>
昭和60年 (1985年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スパイクタイヤの粉じん公害について質問があった</li> <li>・上郷町との早期合併を求める質問があった</li> <li>・市議会議員一般選挙 議長 松嶋健次、副議長 平沢與一を選出</li> <li>・指紋押捺問題に関連して、外国人登録法の改正に関する意見書を可決</li> <li>・ゴミ焼却場移転問題について質問があった</li> <li>・国鉄飯田線の分割民営化の動きに関して質問があった</li> <li>・若者の定住対策と企業の育成策について質問があった</li> <li>・路線バスの廃止問題が質問された</li> <li>・鼎との合併一年後の評価について質問があった</li> <li>・学校の「いじめ」問題について質問があった</li> <li>・世界人形劇フェスティバル開催(1988年)に名乗りを上げることの質問があった</li> <li>・婦人の地位向上のための施策について質問があった</li> <li>・高齢化が一層すすむ中で、在宅福祉について質問があった</li> </ul>
昭和61年 (1986年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上郷町との合併に向けた取組について質問があった</li> <li>・コンピューター専門学校の建設費について質問があった</li> <li>・市立病院の赤字と院長人事問題で特別委員会を設置</li> <li>・院長解任に伴う市立病院の正常化について質問があった</li> <li>・大型間接税の導入は慎重に対処すべきという旨の意見書を可決</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
昭和61年 (1986年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国引き揚げ孤児の定住援護策について質問があった</li> <li>・ 美術博物館の性格と財源について質問があった</li> <li>・ 公文書の公開条例と、個人情報の保護条例を可決</li> <li>・ 暴力団追放都市宣言を可決</li> <li>・ 飯田工業高校の移転に伴う跡地利用について質問があった</li> </ul>
昭和62年 (1987年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 売上げ税導入に反対する意見書を可決</li> <li>・ 美術博物館建設特別委員会を設置</li> <li>・ 中央新幹線、三遠南信自動車道の建設促進について質問があった</li> <li>・ エイズ対策について質問があった</li> <li>・ 議長 平沢與一、副議長 細田直彦を選出</li> <li>・ 屋外広告物に係る環境美化等に関する条例を可決</li> <li>・ 老人福祉の中間施設の計画について質問があった</li> <li>・ 市政50周年記念事業として、中学生による子ども議会が開かれた</li> <li>・ 市立病院の移転決定と、地元対策について質問があった</li> <li>・ 世界人形劇フェスティバルの準備状況と、シャルルヴィル・メジエール市との姉妹都市締結について質問がされた</li> <li>・ 中央新幹線の飯田経由と駅舎設置に関する決議を行った</li> <li>・ 東中学校の教師死亡に関して質問があった</li> <li>・ 人形劇場の入札が保留になったことについて質問があった</li> </ul>
昭和63年 (1988年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フランスのシャルルヴィル・メジエール市と国際友好都市の締結をすることを可決</li> <li>・ 美術博物館の職員体制や、運営について多くの質問があった</li> <li>・ 三遠南信自動車道の竜東地域にインターチェンジを求める質問があった</li> <li>・ 新しい市立病院の整備方針（マスタープラン）を了承</li> <li>・ 上郷町との合併協議30項目を了承</li> <li>・ 天竜川治水対策、四者協議の結論を了承</li> <li>・ ギフチョウの保護対策について質問があった</li> <li>・ 市議会議員補欠選挙 副議長 関島一郎を選出</li> <li>・ コメの市場開放阻止に関する意見書を可決</li> <li>・ 保育園の空き室を託老所にする質問があった</li> </ul>
平成元年 (1989年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消費税導入に関して賛成、反対の論議が集中</li> <li>・ リニア新幹線が停まるまちづくりについて質問があった</li> <li>・ 市議会議員一般選挙 議長 塩澤 昭、副議長 竹村仁實を選出</li> <li>・ 土曜閉庁関連条例を可決</li> <li>・ 新市立病院建設の基本計画を了承</li> </ul>



年	議会の動き
平成元年 (1989年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有線放送局の不祥事に関して質問が集中</li> <li>・長野の冬季五輪招致への考え方について質問があった</li> <li>・学校教育における日の丸掲揚と君が代斉唱についての考え方について質問があった</li> <li>・天竜川治水対策の基本計画を了承</li> <li>・有線放送を廃止し、オフトーク通信システムを導入することを了承</li> <li>・土地利用計画の策定の必要性について質問があった</li> </ul>
平成2年 (1990年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税導入を想定した新年度予算に関して賛否両論の議論が展開された</li> <li>・有線放送局不正経理事件について質問が多くされた</li> <li>・中国からの帰国者のために日本語学級を開設するよう質問があった</li> <li>・県議会議員の飯田市区定数1名増を求める意見書を可決した</li> <li>・飯田駅貨物用地跡地利用に関して質問があった</li> <li>・天竜峡温泉の交通渋滞の解消、下水道の整備等について質問があった</li> <li>・松尾地区の内水排除について質問があった</li> <li>・登校拒否児童への適切な指導を求める質問があった</li> </ul>
平成3年 (1991年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議長 竹村仁實、副議長 松江良夫を選出</li> <li>・竜東地区の開発計画について質問があった</li> <li>・農村集落の活性化を図る地域マネジメント事業について質問があった</li> <li>・議長 實原 裕、副議長 内山照美を選出</li> <li>・松くい虫の被害が広がる深刻な事態に対して質問があった</li> <li>・土地利用政策審議会の設置を求める質問があった</li> <li>・りんご並木の整備構想について質問があった</li> <li>・MRSA感染対策について質問があった</li> <li>・看護婦養成のための高等看護学校の誘致を求める質問があった</li> <li>・上郷町との合併時期について市長の政治決断を求める質問があった</li> <li>・平和予算の創設を求める質問があった</li> <li>・信州いいだ農協発足に伴い、行政と農協が一体となった農業振興を求める質問があった</li> <li>・飯田駅貨物用地跡地取得の経過について質問があった</li> </ul>
平成4年 (1992年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学誘致についての質問があった</li> <li>・拠点都市地域の指定を目指すことについて質問があった</li> <li>・学校5日制の受け皿について質問があった</li> <li>・オフトークでの議会本会議中継はじまる</li> <li>・若者定着と工業振興について質問があった</li> </ul>

年	議会の動き
平成4年 (1992年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別委員会にて大詰めの合併協議が行われた</li> <li>・自然環境の保全と環境に優しい社会の実現を期して、「環境宣言」が決議された</li> <li>・市役所の完全週休2日制の導入について質問があった</li> <li>・エイズに対する予防啓発について質問があった</li> <li>・市議会議員補欠選挙</li> <li>・上郷町と平成5年7月1日に合併することを議決した</li> <li>・拠点都市指定に向けての取組状況について質問があった</li> <li>・中学生の問題行動に対する指導について質問があった</li> </ul>
平成5年 (1993年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガットにおけるコメの例外なき関税化の導入を拒否し、基礎的食料の国内自給堅持を求める意見書を可決</li> <li>・地域医療に果たす新市立病院の役割について質問があった</li> <li>・中心市街地のドーナツ化現象への対策について質問があった</li> <li>・市議会議員一般選挙 議長 今村八束、副議長 澤柳辨治郎を選出</li> <li>・上郷との合併関連議案68件を可決</li> <li>・コメの市場開放阻止等を求める意見書を可決</li> <li>・拠点都市の計画策定に関して、高速交通網の整備等について質問があった</li> <li>・上郷合併に伴う議員の増員選挙が行われ、5名が市議会議員に仲間入りした</li> <li>・シャルルヴィル・メジエール市のロジェマス市長が市議会を表敬訪問された</li> <li>・地方拠点都市地域整備促進特別委員会を設置</li> <li>・みどりの基金創設について質問があった</li> <li>・県営サッカー場の誘致について質問があった</li> <li>・不況下での産業振興策について質問があった</li> <li>・天竜川流域にカヌー競技施設の建設を求める意見書を可決</li> <li>・地方分権の実現を求める意見書を可決</li> <li>・コメの市場開放を阻止し、抜本的農業施策実現を求める意見書を可決</li> </ul>
平成6年 (1994年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯伊広域行政組合設立に伴う関連議案を可決</li> <li>・4年制大学の誘致について質問があった</li> <li>・市町村の共同出資のバス運行について質問があった</li> <li>・環境、文化、情報化、公共施設の4つのテーマで政策調査研究部会が発足</li> <li>・三遠南信地域に首都機能の移転を目指せという質問があった</li> <li>・サッカーくじ法案化について質問があった</li> <li>・農業集落排水事業実施区域の拡大を求める質問があった</li> <li>・不況下において女性の雇用を守ることを求める質問があった</li> <li>・12年ぶりの水道料金値上げを、建設委員会が3日間にわたる審査のうえ賛成多数で可決した。</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
平成 6 年 (1994年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北信越市議会議長会産業・経済対策特別委員会が天竜峡で開催</li> <li>・議会だより100号記念号発行</li> <li>・今村八束議長が友好都市シャルルヴィル・メジエール市（フランス）を訪問</li> <li>・市民の生活環境の確保と市土の均衡ある発展を図るための国土利用計画（飯田市計画）を可決</li> <li>・水道料金を12年ぶりに改定。平均アップ率18・7%を三日間の審議の末に可決</li> <li>・上郷町との合併により、新たな議員定数を調査研究する「議員定数問題調査特別委員会」を設置</li> </ul>
平成 7 年 (1995年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回臨時会において、今村八束議長・松島年一副議長を選出</li> <li>・「中国の核実験に抗議し、フランスの核実験再開中止を求める決議」を可決し両大使館に意見書を送付</li> <li>・飯田市における政治倫理の確立のため「市長の資産等の公開に関する条例」を可決。これにより市長は資産等の報告書の作成が義務付けられ、閲覧請求が可能になった</li> <li>・上郷町編入合併に伴い5人増の36人となっていた議員数を定数31人にすることを議決</li> </ul>
平成 8 年 (1996年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全議員による「基本構想審査特別委員会」を設置、第四次基本構想・基本計画「環境文化都市を目指して」を可決</li> <li>・第2回定例会において「第四次基本構想に基づく組織機構改革案」を否決。この採決をめぐり最大会派の明政会が分裂し過半数を割ることとなった。この議案は第3回定例会で一部修正のうえ再提案され起立採決の結果賛成多数で可決</li> <li>・飯田市はあらゆる人権侵害の根絶を誓うため、「人権尊重都市宣言」を可決</li> <li>・「病原性大腸菌O157による食中毒対策に関する意見書」を国関係機関に提出</li> <li>・市議会議員補欠選挙で1人選出</li> </ul>
平成 9 年 (1997年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市議会改選（投票率81・9%、上郷町と合併後初、特例による議員数36人から議員定数31人に）</li> <li>・第1回臨時会において、小林利一議長・片桐司郎副議長を選出</li> <li>・市立病院と高松病院の機能、役割分担を検討するために「病院問題特別委員会」を設置</li> <li>・風越山麓に計画された送電線建設に対して景観、電磁波、産業振興、飯田市の環境条例などの観点から第2回、第3回定例会において計6件の請願・陳情があり審査・市政に関する独自の調査をし、政策提言をする「政策調査研究部会」（農業振興・交通施策・観光施策の3部会）がスタート</li> </ul>

年	議会の動き
平成10年 (1998年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議員定数削減に続く財政改革で、「議員の各種審議会報酬を辞退すること」を全会一致で可決。長野県下初であり、全国的にも先駆的な取り組み</li> <li>・「インド並びにパキスタンの地下核実験に対する抗議の決議」を可決</li> <li>・第3回定例会において、人形劇カーニバルのあり方について活発な議論を展開</li> <li>・「大型店の元旦営業自粛に関する決議」を可決し、市内大型店に申し入れ</li> </ul>
平成11年 (1999年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成9年にスタートした「政策調査研究部会」が2か年の研究を報告</li> <li>・第1回臨時会において、小林利一議長・中田佳甫副議長を選出</li> <li>・ごみ処理手数料として30円から60円を負担する、「ごみ処理費用有料化」を可決</li> <li>・「公共下水道受益者負担金改定」を可決（面積1㎡当たり現行390円から520円に段階的な引上げ）</li> <li>・「中心市街地総合再生特別委員会」及び「介護保険特別委員会」を設置</li> </ul>
平成12年 (2000年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「政策調査研究部会」（地方分権・ISO・工業振興3部会）が平成12年度1か年の研究を報告</li> <li>・介護保険制度の施行に伴い関連する12件の条例を可決</li> <li>・国民健康保険税事業から介護保険への移行に伴う、「国保税の引き下げ」を可決</li> <li>・公共下水道（平均9.8%）及び農業集落排水施設（7.2%）の「使用料引き上げの改定」を可決</li> <li>・市議会議員補欠選挙で1人選出</li> </ul>
平成13年 (2001年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市議会改選（投票率75.3%、議員数31人の内女性議員6人が誕生）</li> <li>・第1回臨時会において、西尾喜好議長・牧内信臣副議長を選出</li> <li>・飯田市地域交流センター設置条例（本町一丁目に建設中の「トップヒルズ本町」に「りんご庁舎」を設置、及びその管理について定めるもの）を可決</li> <li>・水道料金（上水道平均4.0%・簡易水道平均2.7%）の「引き上げの改定」を可決</li> <li>・アメリカでのテロの犠牲者に対し黙祷し、「同時多発テロを強く糾弾する決議」を採択</li> </ul>
平成14年 (2002年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政機関の保有する情報の公開に関する法律が施行されたのに伴い「飯田市情報公開条例」を可決</li> <li>・暴走運転をなくし平穏な地域社会を実現するための「飯田市暴走行為を根絶する条例」を可決</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
平成14年 (2002年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「飯田市議会の議員の報酬等に関する条例」の一部を改正する条例を可決 (議員の月額報酬3%の引き下げ)</li> <li>・「飯田市議会あり方研究会」を発足</li> <li>・「飯田市差別の撤廃と人権の尊重に関する条例」を可決</li> <li>・菱田春草筆「菊慈童」及び「牧童」を取得することを承認(取得金額3億5千万円)</li> </ul>
平成15年 (2003年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「飯田市福祉医療費給付金条例」を可決(全県統一の自動給付方式を導入)</li> <li>・第1回臨時会において、議長に岩崎和男氏・副議長に渡淳氏を選出</li> <li>・「合併特別委員会」「土地利用特別委員会」「議員定数特別委員会」を設置</li> <li>・「住基ネット関連2議案」を可決(住基カードを希望者に、1枚500円で交付するための条例改正)</li> <li>・「歴史研究所条例案」を可決(市民の教育及び文化の向上発展などに寄与するための研究所を設置)</li> <li>・「ごみ処理手数料の改定案」を可決(環境保全対策により経費増のため、半分を利用者が負担)</li> </ul>
平成16年 (2004年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市議会議員定数を4人減の27人」にすることを可決</li> <li>・「わがまちの“憲法”を考える市民会議」を5月に設置</li> <li>・「飯田市都市計画条例」の一部を改正する条例を可決</li> <li>・「わがまちの“憲法”を考える市民会議」が11月8日、岩崎和男議長に中間報告を提出</li> <li>・「合併関連2議案」を可決(飯田市・上村・南信濃村合併協議会の設置について)</li> <li>・市議会議員補欠選挙で2人選出</li> </ul>
平成17年 (2005年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「上村、南信濃村との合併関連6議案」を可決</li> <li>・市議会改選(投票率72.3%、議員数27人)</li> <li>・第1回臨時会において、議長に熊谷富夫氏・副議長に林幸次氏を選出</li> <li>・「自治基本条例」「土地利用計画」の特別委員会を設置</li> <li>・「高等学校改革プランの検討に関する意見書」を県に提出(高等学校数の削減を行わないよう求める意見書)</li> <li>・「個人情報保護条例」を可決</li> <li>・一般質問において一問一答方式を試験導入(一括質問一括答弁方式から、一問一答方式に変更)</li> <li>・上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙(定数2、投票率82%、特例により議員定数27人から29人に)</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
平成17年 (2005年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議会本会議の映像生中継をスタート</li> <li>・ 「男女共同参画推進条例」を可決</li> </ul>
平成18年 (2006年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「国民保護法関連2条例」を可決（武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律に関連する条例）</li> <li>・ 飯田市における土地利用の基本的な指針を策定「国土利用計画」（第2次飯田市計画）を可決</li> <li>・ 第5次基本構想・基本計画の策定にあたり「基本構想基本計画検討委員会」を設置</li> <li>・ 市民・議会・行政の連携により研究を進めてきた「飯田市自治基本条例」を第3回定例会で議員提出議案として全会一致で議決</li> <li>・ 飯田市の各地区に平成19年度から設置される地域自治区について、「飯田市地域自治区の設置等に関する条例案、飯田市公民館条例の一部を改正する条例」を可決</li> </ul>
平成19年 (2007年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温泉宿舎天竜峡を飯田市が購入することを承認</li> <li>・ 「飯田市土地利用基本条例」を可決</li> <li>・ 「環境文化都市宣言」を可決</li> <li>・ 第1回臨時会において、上澤義一議長・矢澤芳文副議長を選出</li> <li>・ 議員定数の削減に向けて「議員定数特別委員会」を設置し定数を23人に決定</li> <li>・ 「第2回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞（飯田市自治基本条例の制定までの取組みが評価される）</li> </ul>
平成20年 (2008年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「飯田市後期高齢者医療制度に関連した条例」を可決（75歳以上の高齢者に新たな負担となるため議論が集中）</li> <li>・ 「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を小学6年生まで引上げ）</li> <li>・ 「飯田市議会の議員の定数を定める条例」を可決（平成21年4月の選挙から定数23人に決定）</li> <li>・ 議会議案検討委員会に置いて、ポイ捨ての規制に関する条例制定の必要性を調査</li> <li>・ 決算認定に結びつける議会の行政評価がスタート（行政評価の手法を用い決算を認定）</li> <li>・ 「庁舎検討委員会」が発足（3回の委員会を経て市側の新庁舎建設の基本的な方針案を了承）</li> <li>・ 市内20地区で初の議会活動報告会を開催（市政懇談会終了後30分間）</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
平成21年 (2009年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「副市長の定数を1から2に改める条例」を可決</li> <li>・ 「土地利用計画特別委員会」を廃止</li> <li>・ 市議会改選（投票率64・3%、上村・南信濃村との合併特例による議員数27人から議員定数23人に）</li> <li>・ 第2回臨時会において初の立候補制による正副議長選挙を実施。中島武津雄議長・清水可晴副議長を選出</li> <li>・ 「リニア中央新幹線の早期実現及び飯田駅設置実現に関する決議」を賛成多数で可決</li> <li>・ 市内を6ブロックに分け2回目の議会報告会を開催（市民487名が参加）</li> </ul>
平成22年 (2010年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本庁舎の建替整備に向け調査研究を行うため「庁舎特別委員会」を設置</li> <li>・ 「飯田市リニア中央新幹線飯田駅整備推進基金条例」を可決（リニア中央新幹線の実現に向けた取り組みを強化）</li> <li>・ 年度内にルート決定が見込まれる中、調査研究を深めていくため「リニア推進対策特別委員会」を設置</li> <li>・ 「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を中学3年生まで引上げ）</li> <li>・ 第3回議会報告会を開催（市民469人が参加）</li> <li>・ 「飯田市地域自治区の設置等に関する条例の一部改正条例」を可決（上村及び南信濃地区を地域自治区に移行）</li> </ul>
平成23年 (2011年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回定例会において東日本大震災支援のための22年度補正予算を可決</li> <li>・ 第2回臨時会において、上澤義一議長・村松まり子副議長を選出</li> <li>・ 東日本大震災支援のための23年度補正予算を可決</li> <li>・ 「飯田市国民健康保険条例の一部改正条例」を可決 （2年連続平均7%の増額）</li> <li>・ 損害賠償に係る議会未提出案件（110件）について議会を軽視するものとして市側に改善申し入れ</li> <li>・ 「第5次基本構想基本計画後期計画」を可決（人口目標10万2千人に）</li> <li>・ 第4回議会報告会を開催（市民444人が参加）</li> </ul>
平成24年 (2012年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「議会改革・運営ビジョン」を策定し新たな議会改革の取り組みとして常設の機関「議会改革推進会議」を設置</li> <li>・ 議会改革の一環として、初の「議長記者会見」を開催、委員会の自由傍聴の実現、本会議のインターネットによる映像配信を開始</li> <li>・ 新庁舎実施設計を了承</li> </ul>

年	議 会 の 動 き
平成24年 (2012年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第7回マニフェスト大賞最優秀成果賞」を受賞（行政評価や議会報告会の実践などが評価される）</li> <li>・第5回議会報告会を開催（市民461人が参加）</li> </ul>
平成25年 (2013年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市議会改選（投票率58・3%議員数23人）</li> <li>・第1回臨時会において、林幸次議長・木下克志副議長を選出</li> <li>・常任委員会を3委員会とし、議員の複数所属をやめ単独所属とする</li> <li>・より開かれた議会運営のため「広報広聴委員会」を設置</li> <li>・委員会審議において初の「議員間自由討議」を実施</li> <li>・初の政策討論会を開催（不法投棄対策について市長に提言）</li> <li>・「ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例」を可決</li> <li>・「特定秘密保護法案に対する慎重な審議を求める意見書」を国関係機関に提出</li> <li>・議会の行政評価で「天竜峡温泉交流館管理事業」について、廃止を含め指定管理委託など検討を行うよう提言</li> <li>・第6回議会報告会を開催（市民510人が参加）</li> </ul>
平成26年 (2014年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会の行政評価において「農業課合同事務所事業」の廃止、「農作物被害対策事業」「リニア推進事業」「小中連携・一貫教育推進事業」の拡大などを提言</li> <li>・天竜峡温泉交流館の指定管理者管理委託を承認</li> <li>・「手話言語法（仮称）等の早期制定を求める意見書」を国及び県の関係機関に提出</li> <li>・第7回議会報告会を開催（市民543人が参加）</li> <li>・第4回定例会終了後、議場の新庁舎移転に伴う「旧議場のお別れ会」を開催</li> </ul>
平成27年 (2015年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初の議会出前講座を広報広聴委員会が実施（松尾小学校）</li> <li>・県下初の対面式新議場で第1回定例会を開催</li> <li>・社会文教委員会が介護保険条例の一部改正に関して自由討議を実施。議案可決後に委員提案の附帯決議を可決。</li> <li>・第2回定例会から淡路結びの水引を議場に設置</li> <li>・第1回臨時会において、木下克志議長・木下容子副議長を選出</li> <li>・「長期欠席議員の議員報酬の特例に関する条例」を議決</li> <li>・「平和安全法制の慎重かつ適正な運用を求める意見書」を国及び関係機関に提出</li> <li>・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（支給対象を満15歳から満18歳に引上げ）</li> <li>・木下克志議長が友好都市シャルルヴィル・メジエール市（フランス）を訪問</li> </ul>



年	議 会 の 動 き
平成27年 (2015年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第8回議会報告会を開催（市民498人が参加）</li> <li>・ 新教育委員会制度で初の教育長に代田昭久氏を任命することに同意</li> </ul>
平成28年 (2016年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「飯田市議会パネル取扱要綱」、「飯田市議会災害対応指針」を制定</li> <li>・ 基本構想基本計画特別委員会を設置し、次期総合計画「いいだ未来デザイン2028」を審査</li> <li>・ 天龍峡温泉交流館建設に関し、産業建設委員会で自由討議実施後、附帯決議をつけて可決、本会議での委員長報告に対する討論を経て予算案を可決</li> <li>・ 地元産材のPRを目的に飯田市産ヒノキと遠山杉のネームプレートを作成し、全議員が着用を開始</li> <li>・ 議会だより200号記念号を発行</li> <li>・ 7月から9月にかけて議会による行政評価を実施（42施策、19事務事業）</li> <li>・ インターネットで委員会の映像配信を開始（12月12日 総務委員会から）</li> <li>・ 第9回議会報告会を開催（9月～10月、6会場で市民554人が参加）</li> <li>・ 議会議案検討委員会を設置し、議員提出による「飯田産の地酒及び果実飲料で乾杯する条例」を議決</li> <li>・ 議会出前講座を松尾小学校で実施（2回目：2月、3回目：11月）</li> <li>・ 社会文教委員会が「地域ケアシステムの構築」に関する調査研究を行い、議会全体の政策討論会を経て、議会から市長へ政策提言</li> </ul>

## VI 参考資料

### 1 都市宣言

#### ① 安全都市宣言

わが国における産業経済の成長と生活文化の向上は、近年著しいものがあり、わが飯田市も近代的生産都市として発展の一翼をにない、市勢も各方面にわたり伸展しつつある。反面、産業災害、交通事故、火災などの各種災害が多発し、日常生活をおびやかされていることは、憂慮にたえないところである。

もとより、災害を防止するための措置は、それぞれの分野において積極的に実施されているが、われわれはさらに進んで市民の生命尊重と、産業文化伸展の理念のもとに、各種の災害をより効果的に防止するため、飯田市各階層を一丸とする市民運動を強力に推進し市民の安全意識の高揚をはかることこそ緊要であると確信する。

われわれは、この際「国民安全の日」制定の意義に沿い、本市における産業・労働・交通・消防・教育・文化・婦人団体など各界の連携をはかり、市民生活のあらゆる面において安全を確保し、明るく住みよい都市建設を目指して、ここに飯田市を「安全都市」とすることを宣言する。

昭和36年6月26日

飯 田 市 議 会

#### ② 明るい選挙都市宣言

民主政治の健全を期するためには、明るい選挙が行わなければならない。即ち、民主政治の基盤は選挙にある。

本市は、さきに公明選挙都市宣言をなし、これが運動を推進し、その実績をあげつつあるとはいえ、なお、遺憾な点なしとはいえない。

よって市民の代表である、本市議会はここに決意を新たにするとともに、市民の希望と熱意を結集し、これが現実を期するため、飯田市を「明るい選挙都市」とすることを宣言する。

昭和40年6月29日

昭和61年6月25日（一部変更）

飯 田 市 議 会

### ③ 青色申告都市宣言

本市は自主申告納税の理想郷を実現するため、また市民が青色申告の本質を再認識して国民の基本的義務である納税についての思いを新たにし、かつ、その納税意欲の向上をはかって、社会経済の発展に貢献するとともに、市民相互の繁栄と幸福を築くため、ここに飯田市を「青色申告都市」とすることを宣言する。

昭和52年9月21日

飯 田 市 議 会

### ④ 電波障害防止都市宣言

今日の情報化社会において、テレビ・ラジオは市民生活にとって不可欠のものとなっている。

しかるに、都市の近代化による高層建築物の増加、電気設備などの高度化は電波障害を誘発する要因となっている。

当市議会は、かつて昭和41年9月、他の市町村に先駆けて「電波無雑音都市宣言」を議決し、多大の成果を得て今日にいたっている。

今後、都市の近代化がさらに進む中で発生を免れない電波障害を一掃し、市民の快適な生活環境を築くため、その宣言の精神を一層敷延化して、ここに本市を電波障害防止都市とすることを宣言する。

昭和54年12月21日

飯 田 市 議 会

### ⑤ シートベルトヘルメット着用都市宣言

飯田市における交通事故は激増の一途をたどり、悲惨な事故のために多くの市民がその犠牲となっており、昭和56年度における人口1万人当りの事故率は55.3人で、県下17市中第1位という極めて憂慮される事態を迎え、事故絶滅は現下の緊急課題である。

交通事故の実態を見ると、シートベルト並びにヘルメットの着用は被害の防止、軽減を図る上で大きな効果が認められているが、その着用率は未だ十分といえない状況である。交通量の増加に伴い、ますます交通事故の危険が迫る現状にかんがみ、運転者のなお一層の交通安全意識を高めるため、ここに「シートベルト並びにヘルメットの着用」を宣言する。

昭和57年12月21日

飯 田 市 議 会

## ⑥ 非核平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願望である。

しかるに、米・ソ超核大国による核軍拡競争は拡大均衡をめざすという口実でますます激化し、世界の平和と安全に重大な脅威と危機をもたらしている。

わが国は、世界唯一の核被爆国としてこの地球上に広島、長崎の惨禍を再びくりかえしてはならないと訴えるものである。

飯田市は、平和憲法の本質にのっとり、「非核三原則」を将来ともに尊重し、あらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶を全世界に強く訴え、核兵器の全面撤廃と軍縮を推進し、もって世界の恒久平和達成をめざすものである。

ここに、飯田市を「非核平和都市」とすることを宣言する。

昭和59年6月28日

飯 田 市 議 会

## ⑦ 振替納税推進都市宣言

期限内完納の思想の高揚をはかるため、市民が振替納税の本質を理解して国民の基本的義務である納税意識が向上し、社会経済の発展と市民相互の繁栄に貢献することを願い、ここに飯田市を「振替納税推進都市」とすることを宣言する。

昭和60年6月29日

飯 田 市 議 会

## ⑧ 暴力団追放都市宣言

飯田市は、美しい自然と長い歴史と伝統文化にまつまれた人情豊かなまちとして、平和で明るく住みよいまちづくりに積極的に取り組んでいるところである。

しかしながら、暴力団による不法行為は増加の一途を辿り、暴力団同志によるけん銃発砲事件も発生し、善良な市民生活が脅かされるなど、美しい郷土のイメージが損なわれことは、まことに遺憾であり、強い憤りを感じるものである。

善良な市民の平穏な日常生活と安全を守る立場から全市民の総意を結集し、暴力を是認しない地域づくりにつとめ、すべての暴力の根絶を図らなければならない。

よって、本市議会は、犯罪のない平和な住みよい郷土の建設をめざし、暴力行為を壊滅し、すべての暴力団を追放するため、ここに飯田市を「暴力団追放都市」とすることを宣言する。

昭和61年12月22日

飯 田 市 議 会

## ⑨ 人権尊重都市宣言

私たちは、だれもが人間らしく幸福に生きる権利を有し、だれからも尊重され、親しまれ、愛されながら豊かに暮らすことを求めています。そして、美しい自然と同様に、だれ隔てなく接する思いやりのある美しい心を持つ市民が明るく生活するまちちを目指して努力しています。

しかし、大変残念なことに、現実には偏見による差別など様々な人権侵害が存在しています。このことは、早急に解決しなければならない重要な課題です。

よって、私たちは基本的人権を正しく理解し、尊重し、人権擁護の良き実践者となるとともに、善意を広め、互いに励まし合い、手を取り合ってあらゆる人権侵害を根絶することを誓うため、ここに飯田市を「人権尊重都市」とすることを宣言します。

平成8年6月24日

飯 田 市 議 会

## ⑩ 環境文化都市宣言

私たち飯田市民は、地球環境問題が人類共通の課題であることに着目し、人と自然のかかわりを見つめ直して、日々の生活から産業活動まですべての営みが自然と調和するまちづくりに、先駆的に取り組んできました。

自然環境や生活環境などを取り巻く状況が厳しさの度を増している今日、「持続可能性」と「循環」を基本にして自分たちのライフスタイルから社会の有り様に至るまでをあらためて見直し、「環境に配慮」する日常の活動を「環境を優先」する段階へと発展させながら、新たな価値観や文化の創造へと高めていく必要があります。

私たちは、かけがえのない地球にある生態系の中で自然と共生する地球市民の一員としての原点に立ち返り、先人から受け継いだ美しい自然環境と多様で豊かな文化を活かしながら、市民、事業者、行政など多様な主体の積極的な参加と行動とによって人も自然も輝く個性ある飯田市を築くことを誓い、ここに「環境文化都市」を宣言します。

平成19年3月23日

飯 田 市 議 会

## 2 市政提携に関する覚書

長野県飯田市（以下「甲」という）と岡山県津山市（以下「乙」という）は、市政執行の面において相互に啓発し、いっそう市政の伸展と住民福祉の向上を期するため、緊密に提携することを協定し、当面、この目的達成のため、次の事項を実行することを確認する。

### 記

- 1 この目的達成のため、甲、乙において作成したあらゆる行政事務資料で、相手方の参考になると考えられるものは、相互に送付するものとする。この場合は窓口は、総務課 扱いとする。
- 2 甲、乙は、必要に応じて協議の上、相互に研修のため職員を派遣することができる。この派遣職員の滞在に要する経費は、それぞれ派遣する側の負担とする。ただし、執務に要する事務的経費は、委託を受けた側が負担する。
- 3 この協定書以外の特別な事項で必要があると認めるときは、その都度双方協議のうえ、決定する。

以上この協定を証するため、覚書2通を作成し、甲・乙各1通を保有する。

昭和44年3月25日

甲	飯田市長	清水重美
乙	津山市長	生末敏夫

## 3 友好都市締結

### 盟 約 書

日本国長野県飯田市とフランス共和国アルデンヌ県シャルルヴィル・メジエール市は、共に古きよき伝統を有し、人形劇芸術において重要な役割を果たしつつある。

両市の市民と市民が構成するさまざまな組織間の相互理解と友情を深めることにより、日本国とフランス共和国の親善を促進し、世界の平和に貢献することを希求し、ここに両市が友好都市として提携することを盟約する。

昭和63年8月5日

日本国 長野県  
飯田市  
市長 松澤 太郎

フランス共和国アルデンヌ県  
シャルルヴィル・メジエール市  
市長 ロジェ・マス

#### 4 飯田市の主要年表

年 月	事 項
昭和12. 4	飯田・上飯田町合併 飯田市誕生 人口31,289人
5	第1回市議会議員選挙
6	飯田市初議会で、市長に野原文四郎氏を推挙
14. 11	市瀬泰一氏第2代目市長に就任
17. 5	市議選翼賛選挙で無投票当選
18. 8	伊那電鉄など飯田線となる
19. 12	県立飯田保健所開所
21. 4	戦後初の衆議院選挙 飯田市の人口33,772人
7	飯田駅前大火
22. 4	公選による知事、市長選。高田茂氏当選 第4代目市長に
4	飯田市大火 市街地の3分の2を焼失
23. 3	飯田市消防本部、消防署発足
26. 12	飯田市立病院開院
28. 11	りんご並木の植付始まる
29. 4	飯田長姫高校全国高校野球選抜大会で優勝
10	飯田市公民館、復興記念館開館
30. 4	市長選に松井卓治氏当選、第5代目市長に就任
31. 9	飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村、下久堅村が合併、新飯田市発足
31. 10	合併初の市議会 飯田市公民館で開催、議員数145名 合併後の市長選 松井卓治氏無投票当選
32. 4	松井市長、鼎町と上郷村へ合併を申入れる
34. 7	飯田市下水処理場供用開始。県下初、全国で6番目
35. 7	飯田市民プール完成
36. 3	川路村を合併
6	梅雨前線豪雨伊那谷を襲う 死者11人 行方不明5人
37. 10	建設大臣伊那谷の災害地を視察
11	飯田市役所新庁舎落成
38. 10	低開発地域工業開発地区に指定される
12	りんご並木後援会発足
39. 3	龍江村、千代村、上久堅村を合併
40. 7	市立病院新館落成
9	組合立、飯田衛生センター落成
12	老人ホーム川路寮開設
41. 1	市議会、地財法準用を議決
10	中央自動車道杭打式（今宮球場附近）

年 月	事 項
昭和42. 5	飯田勤労者福祉センター開館
9	飯田市議会 財政再建のため議員報酬5割削減可決
11	りんご並木15周年記念式典を行う
11	市制施行30周年記念式典を行う
43. 4	飯田市・鼎町・上郷村消防組合発足
5	りんご並木、NHK総合テレビで放映される
8	飯田市・鼎町・上郷村下水道組合発足
10	市長選に清水重美氏当選 第6代目市長に
44. 3	岡山県津山市と市制業務提携
8	36年災害復旧状況視察のため皇太子御夫妻来飯
11	飯伊地域広域市町村圏協議会発足
45. 2	飯田市・鼎町・上郷村上下水道組合発足
11	大平部落解散式
11	飯田卸売団地開設
46. 3	飯田市・鼎町・上郷町消防組合本部開設
6	名誉市民日夏耿之介氏死去 行年81才
6	市議会、生活改善推進を議決
8	りんご並木の碑除幕式
47. 4	飯田文化会館竣工
10	市長選に松澤太郎氏当選 第7代目市長に
49. 3	飯田市農業協同組合発足
5	松川ダム完成、妙琴浄水場通水式
50. 1	飯田中央農業協同組合発足
6	飯伊特別養護老人ホーム「飯田荘」完成
8	中央自動車道西の宮線開通（中津川一駒ヶ根間）
51. 2	鼎町・上郷町へ合併の申し入れをする
3	市議会議員定数を30人に削減
10	松尾終末処理場供用開始
11	飯田市公民館竣工
52. 5	飯田市総合運動場、勤労者体育センター完成
6	市民憲章制定
53. 10	第33回国民体育大会「やまびこ国体」開催（ラグビー会場）
12	飯田市基本構想、基本計画策定
54. 7	飯伊モデル定住圏地域の指定を受ける
8	人形劇カーニバル始まる
12	飯田市墓地霊園、桐林に完成



年 月	事 項
昭和55. 3	市営弓道場移転完成
4	橋北コミュニティ防災センター完成
56. 4	飯田地区広域消防組合発足（松川町・喬木村・大鹿村・豊丘村・高森町・清内路村・阿智村が加入）
9	鼎町早期に合併したいとの回答
57. 3	飯田市武道館完成
7	上郷町に再度合併の要請
8	飯田まつりに新曲「りんごん」を踊る
11	中央自動車道西宮線全線開通
12	飯田市・鼎町両議会合併協議会設置を可決
58. 1	第1回飯田市・鼎町合併協議会開かれる
3	飯田市保健センター完成
9	台風10号大きな被害を受ける
59. 2	座光寺小学校完成
3	橋南にコミュニティ防災センター完成 龍江公民館、支所完成
8	飯田市と鼎町との合併調印式
12	鼎町を合併
60. 3	天竜川治水基本協定の調印
4	旭ヶ丘中学校の開校
4	鼎町と合併後初の市議選
5	「三遠南信道路」3県レベル同盟会の設立
10	「美術博物館」基本構想委員会発足
61. 3	座光寺公民館・支所完成
8	人形劇アジア会議開催
10	飯田消防署新庁舎完成
12	北方地区土地区画整理事業着工
62. 1	飯田市立病院新副院長人事発令
2	飯田工業技術センター完成
3	イタチガ沢埋立地完成 丸山地区土地区画整理事業着工
4	飯田コンピュータ専門学校開校
8	飯田市子ども議会開催
10	市制施行50周年記念式典
11	りんご並木ヘニュートンのりんごの木、国道153号線バイパスへりんご植付
12	飯田市基本構想、基本計画策定

年 月	事 項
昭和63.	3 市道知久町中村線・国道153号線バイパス第1工区竣工
	6 飯田市・上郷町両議会合併協議会設置可決
	7 第1回飯田市・上郷町合併協議会開かれる 人形とけい塔ハミングパル並木通りに設置
	8 シャルルビル・メジュール市と友好都市提携 飯田人形劇場開館 世界人形劇フェスティバル開催
	10 飯田市美術博物館10月1日落成式 市長選に田中秀典氏当選 第8代目市長に
平成元.	3 飯田衛生施設組合 桐林クリーンセンター完成 飯田運動公園県営飯田野球場完成
	6 桐林運動広場完成
	8 アフィニスセミナー開催 山梨リニア実験線、建設正式決定 三遠南信自動車道、程野・飯田東IC間のルート公表
1.	9 伊那谷高速交通フェア開催 第2. 4土曜日の閉庁実施
	10 飯田市美術博物館開館
	11 飯田市立病院、総合病院となる
	12 飯田勤労者総合福祉センター完成
2.	3 松尾公民館・支所完成
	4 名勝天竜峡温泉利用開始
	8 新病院本体建設着工
	11 新し尿処理場着工
	12 県議定数（飯田地区）2人から3人に
3.	1 市営駐車場30分無料化
	2 テレトピアモデル都市に指定
	3 千代診療所完成
	7 飯田市斎苑完成、動物炉が新設される
	9 今田人形座が仏国で開催の人形劇世界フェスに出演
	10 飯田工業高校跡地一帯が建設省「平成記念子供のもり公園」に指定される
	12 飯田農協と飯田中央農協が合併「信州いいだ農協」が誕生
4.	2 天竜川治水対策事業起工式が行われる
	3 飯田市で初の「かなえデイサービスセンター」完成 国道153号線バイパス第2工区と飯田下山線開通 飯田運動公園弓道場竣工

年 月	事 項
平成4. 3	飯田市有線放送局閉局
4	オフトーク通信事業開始 かなえデイサービスセンター開所 飯田ふれあい農園開園
6	オフトーク通信による議会本会議生中継開始 緑ヶ丘中学校プール完成
7	新し尿処理場「飯田竜水園」運転開始 伊賀良「育良町」誕生
9	新市立病院竣工式
10	国道153号線バイパス新市立病院まで開通 新市立病院開院（外来診療開始）
12	飯田市・上郷町合併調印式 飯伊地域が地方拠点都市第一次指定される
5. 1	地方拠点都市整備計画策定室設置
2	丸山羽場第2地区区画整理事業起工式
3	男女共同参画型社会をめざして「信州飯田女性プラン」（女性行動計画） まとまる 上久堅福祉企業センター竣工
4	市役所の業務が毎週土曜日閉庁となる
6	飯田駅前にアイパーク竣工
7	上郷町を合併し、人口が106千人となる
8	人形劇カーニバル15周年を迎える アフィニスセミナー5周年を迎える
10	飯田のシンボル「りんご並木」が40周年を迎える 浜松市のフルーツパークに飯田のりんごの苗木が植樹される また両市の美術館で所蔵品の交換展を開催 特別養護老人ホーム第二飯田荘が開所
12	飯伊地方拠点都市地域基本計画が知事承認を受ける
6. 2	三遠南信地域の振興を考える「三遠南信サミット」が浜松で開かれる 天竜川治水対策事業、龍江側で盛土工事本格着工
3	三遠南信自動車道「矢筈トンネル」供用開始 山本公民館、支所竣工
4	今田人形の館竣工 飯伊広域行政組合発足
6	オフトーク通信事業の放送業務を民間委託 ゆとり宣言都市指定モニュメント「ゆとり創造の樹」完成

年 月	事 項
平成6. 9	飯田市議長が友好都市フランスのシャルルビル・メジエール市を訪問
10	飯田市議会だより100号記念発行 飯田市総合運動場全面改修工事竣工
12	国土利用計画（飯田市計画）策定議決
7. 2	中心市街地から「西友」撤退 阪神大震災被災地へ支援 飯田市下水道整備計画策定
4	北部・竜東デイサービスセンター開所 天竜峡活性化センター「あざれあ」開館
7	飯田運動公園プール「アクアパーク I I D A」竣工 飯田市立病院に併設の伝染病棟隔離病舎（飯伊広域行政組合）供用開始
8	戦後50年平和祈念事業を開催（8～11月）
10	「三遠南信サミット&シンポジウム i n 飯田」開催 第41回風越登山マラソン開催（7年ぶりに復活）
12	飯田市議会12月定例会で条例定数は現行31人で議決 飯田農業振興地域整備計画を変更、都市計画の用途地域も変更
8. 2	天竜川治水対策事業、川路、竜丘側築堤工事起工式 市民構成劇「かざこし姫となかまたち」上演
3	市議会本会議で「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」否決
4	飯田市農政プラン策定 第4次基本構想・基本計画「環境文化都市をめざして」策定 飯田市工業振興マスタープラン策定 飯田やまびこマーチ10周年
5	矢高共同調理場竣工
6	人権尊重都市宣言 「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」可決
7	市役所組織機構改革が実施される（7月1日より）
12	さんとびあ飯田竣工 信州飯田ふるさと大使館開館 21' いいだ環境プラン策定
9. 2	ハートヒル川路竣工
4	市制施行60周年
5	市議会改選
5	市誌編さん委員会誕生
7	太陽光発電に無利子融資

年 月	事 項
平成9. 7	エコタウン地域に指定される
8	全国夏期巡回ラジオ体操会
10	世界地方都市十字路会議
12	J Aみなみ信州発足
平成10. 2	市民バス運行開始
2	長野オリンピック冬季競技大会開催
3	長野パラリンピック冬季競技大会開催、飯田市より2人参加
3	議員の各種審議会報酬辞退を全会一致で可決
4	天竜川治水対策・龍江側工事完成
6	飯田市役所ISO14001を取得する方針決定
	第1回飯田市藤本四八写真文化賞 (芳賀日出男さん、宮島功さん、南島孝さん受賞)
8	第20回人形劇カーニバル (20回を記念して世界人形劇フェステバル開催)
	第10回アフィニス夏の音楽祭ロストロ・ポーヰチ氏を迎え開催
平成11. 3	市議会「政策調査研究部会」報告(農業振興・交通施策・観光施策3部会の平成9年・10年度の2カ年の研究報告)
	病院問題特別委員会審査終了
	飯田工業技術研修施設・EMCセンターオープン
	りんご並木リニューアル
4	南信州広域連合発足
7	よこね田んぼ「日本の棚田100選」に選ばれる
12	ごみ処理費用負担制度開始
平成12. 1	I S O 14001認証取得
3	市議会「政策調査研究部会」報告(地方分権・I S O・工業振興3部会の平成12年度の1カ年の研究報告)
4	介護保険制度がスタート
7	丸山羽場地区区画整理事業第1地区完成
10	三遠南信パテントメッセ・EMCシンポジウムと工業技術交流相次ぐ
平成13. 1	観測開始以来の大雪に見舞われ市民生活に大きな影響が出る
3	政務調査費の交付に関する条例の制定
4	市議会改選
7	橋南第1地区再開発ビル「トップヒルズ本町」完成
8	地域交流センター「りんご庁舎」オープン
10	いいだFM開局
11	りんご並木「かおり風景100選」に選ばれる

年 月	事 項
平成14. 4	平成記念かざこし子どもの森公園開園
9	天竜川治水対策事業完成
10	菱田春草作「菊慈童」を購入
平成15. 1	ISO14001自己適合宣言
3	市議会「在り方研究会」「合併問題調査研究会」報告(半年間の研究報告) 「環境首都コンテスト」人口規模別第1位、総合第4位
5	南信州グリーンツーリズム特区取得
8	飯田市・喬木村・上村・南信濃村の4市村、任意合併協議会設立
10	りんご並木50周年記念事業
12	飯田市歴史研究所オープン
平成16. 1	橋南第2地区市街地再開発ビル着工
2	第1回ほんもの体験フォーラムin南信州の開催
3	オーライ!ニッポン大賞グランプリ内閣総理大臣賞受賞
3	飯田お練りまつり盛大に開催
5	「わがまちの“憲法”を考える市民会議」の発足
5	第12回環境自治体会議「いいだ会議」開催
6	自治体環境グランプリ環境大臣賞受賞
7	市立病院が地域医療支援病院として県から承認を受ける
10	飯田市長選で、牧野光朗新市長誕生
平成17. 4	地域経済活性化プログラム2005を策定、農業課と農業委員会の事務所移転
6	国際自転車レース「第9回ツアー・オブ・ジャパン南信州ステージ」を開催
7	高校統廃合問題に関連し、鼎公民館で「高校改革シンポジウム」を開催
10	上村及び南信濃村と合併
10	日独地域国際化サミットを飯田市で開催
平成18. 4	飯田やまびこマーチ20回記念大会 結いターンキャリアデザイン室を設置
6	一般廃棄物最終処分場(千代地区)の建設工事開始
9	飯田市自治基本条例の制定
10	橋南第二地区市街地再開発ビル トップヒルズ第二オープン
平成19. 3	第5次基本構想基本計画と環境文化都市宣言を可決 川本喜八郎人形美術館オープン 市制70周年記念式典を開催
4	飯田市自治基本条例、地域自治区、第5次基本構想基本計画、総合的土地利用計 画、行財政改革大綱など地域の自立に向けた新しい枠組みスタート 全国さくらシンポジウムin飯田開催
11	南信濃地域交流センター完成

年 月	事 項
平成19. 11	市議会が、「第2回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞 飯田市自治基本条例の制定の取り組みが評価される
平成20. 4	三遠南信自動車道飯橋道路1工区(飯田山本IC～天竜峡IC)が供用開始
6	天龍峡再生元年として天龍峡百年再生館オープン
7	市政懇談会に合わせて、初の議会活動報告会を市内20地区で開催
8	北京オリンピックに、飯田市出身初の選手として矢澤一輝選手がカヌースラローム競技に出場 人形劇のまち30年を記念して「世界人形劇フェスティバル・いいだ人形劇フェスタ2008」を開催 アフィニス夏の音楽祭が20回をもって終了
9	市議会による行政評価が初めて行われ「施策及び事務事業に対する提言書」を市長に提出
10	飯田市・南信州広域連合・みなみ信州農協が共同で運営するマーケティングショップ「南信州ファームプロダクツマーケット」を名古屋市内にオープン、地元旬の農産物の販売や地域への産地ツアーを企画
11	市内を6ブロックに分け、2回目の議会報告会を開催、市民487名が参加
平成21. 1	飯田市が内閣府から環境モデル都市に選定
3	グリーンバレー千代(最終処分場)竣工
4	市内の商工会議所、商工会が統合され新しい飯田商工会議所が誕生
5	オーケストラと友に音楽祭開催
7	飯田下伊那市町村による定住自立圏形成協定書の合同調印式
8	市企画部内に「リニア推進対策室」が設置される
10	飯田北部地区の農免道路が開通(上郷丹保地区～高森町下市田地区) 低炭素社会実現に向け「レンタサイクル事業」開始
11	新型インフルエンザが流行
平成22. 2	メガソーラーいいだ太陽光発電所 飯田市と中部電力(株)で共同建設することについて協定を締結
3	飯田お練りまつり 約32万人 42団体が参加
4	リニア中央新幹線推進本部設置(市役所内)
5	介護保健施設ゆうゆう 竣工
6	日本の環境首都コンテスト2009(第9回)で飯田市が総合2位(昨年3位)
7	集中豪雨による土砂災害(南信濃で昭和58年に次ぐ観測史上2番目となる223mmの降水量 土砂崩れや建物の全壊、床下浸水などの被害)
9	天龍峡盆踊りが25年ぶりに復活
10	定住自立圏全国市長村長サミット2010in南信州が開催
平成23. 1	メガソーラーいいだ太陽光発電所 運用開始

年 月	事 項
平成23. 1	飯田大学連携会議「学輪IIDA」の設立
3	東日本大震災発生。避難者の受け入れ
3	飯田市美術博物館デジタルプラネタリウムを導入
5	国土交通大臣が全国新幹線鉄道整備法に基づき、 リニア中央新幹線の整備計画を決定
平成23. 6	三六災害から50年。三六災害50年シンポジウム開催
	日本の環境首都コンテストで「明日の環境首都賞」を受賞
9	フランス シャルルヴィル・メジエール市に「飯田通り」誕生
9	菱田春草没後百年 飯田市美術博物館で「没後百年記念特別展」開催
12	第5次飯田市基本構想後期基本計画策定
平成24. 4	飯田市立動物園リニューアルオープン（ちびっこランド） 8月にはペンギン舎、10月にはコンドル舎がリニューアル
5	エコハウスがJIA環境建築賞住宅部門で優秀賞を受賞
7	第10回スローライフまちづくり全国都市会議（スローライフサミット）開催
8	ロンドンオリンピックに、飯田市出身の矢澤一輝選手がカヌースラローム 男子カヤックシングルで、北京大会に続き出場
11	市議会が、第7回マニフェスト大賞地方議会部門最優秀成果賞受賞 議会による行政評価及び議会報告会の実施が評価される
平成25. 3	東和町交差点を周辺の改良工事にあわせ、全国で初めて信号機付交差点か らラウンドアバウト方式に変更して整備
4	「地域環境権」をうたう飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能 な地域づくりに関する条例が施行
4	市役所新庁舎建設工事着工
8	人形劇フェスタ15周年を記念しアジア人形劇フェスティバルを開催
9	リニア中央新幹線のルート及び飯田市内への駅設置の決定が発表される
平成26. 2	観測史上最多の積雪深81cmを記録 中央自動車道の通行止め、農業生産 施設の被害等市民生活に多大な影響を及ぼす
3	恒川官衙遺跡（座光寺地区）が、国史跡に指定される 飯田市立病院周産期センター、がん診療・緩和ケアセンター竣工
6	南アルプス（飯田市では上村、南信濃地区）がユネスコエコパークに登録さ れる
10	航空宇宙産業クラスター拠点工場完成 リニア中央新幹線（品川・名古屋間）の工事実施計画が認可される
12	市役所新庁舎完成
平成27. 1	市役所新庁舎開庁し業務を開始
2	長野県内初の左右対面式議席の新たな議場で初めての市議会定例会を開催



- |       |    |   |
|-------|----|---|
|       | 3  | 菱田春草生誕140周年記念事業が行われる、菱田春草生誕地公園が仲ノ町に完成、美術博物館では菱田春草の特別展、ワークショップ、シンポジウム等を開催                    |
|       | 4  | パスポート窓口を市役所庁舎内に開設   |
|       | 4  | リニア中央新幹線中心線測量開始   |
|       | 7  | こども家庭応援センター「ゆいきっず」が開所   |
|       | 9  | 飯田市長、市議会議長が友好都市フランスのシャルルビル・メジエール市を訪問し、A V I A M A（人形劇の友・友好都市国際協会）総会を招致、平成30年に飯田市で開催されることが決定 |
|       | 10 | マイナンバー制度が始まる  |
|       | 10 | 国道152号小道木バイパスが開通  |
| 平成28. | 3  | 数えて7年に1度の飯田お練りまつりが開催され、35万の人出で賑わう   |
|       | 4  | 教育長に代田昭久教育長が就任  |
|       | 4  | 高校生世代までの医療費が無料に（年度末年齢18歳以下の子ども）   |
|       | 5  | 飯田市リニア関連事業現地事務所（相談窓口）を上郷飯沼に設置   |
|       | 6  | 農地転用許可が市に権限移譲（6月1日付で指定市町村に指定）   |
|       | 7  | 「市田柿」が地理的表示（GI）保護制度に県内で初めて登録される   |
|       | 9  | 飯田産の地酒および果実飲料で乾杯する条例を市議会が提案し制定  |
|       | 10 | 飯田古墳群が国史跡指定、恒川官衙遺跡が追加指定   |
|       | 10 | 52年ぶり2期連続無投票で牧野光朗市長が当選。4期目の市政をスタート  |
|       | 11 | 市役所庁舎整備事業が全て完了（平成25年4月着工）   |
|       | 11 | 天皇皇后両陛下が私的御旅行のため飯田下伊那地域をご訪問（天龍峡、りんご並木、阿智村 満蒙開拓平和記念館）  |
|       | 12 | 「地域ぐるみ環境ISO研究会」設立20周年記念   |



# 飯田市市歌

堀内 敬三 作曲  
宮脇 至 作詞  
西條 八十 補

一、山はアルプス赤石の

峰にかがやくしらゆきを

高き心のすがたとあおぎ

かける理想よ我らが飯田

二、谷は伊那谷天竜の

あぐるしぶきにたつ虹を

清き命の泉となして

希望もえたつ我らが飯田

三、南信濃に伝統の

文化花咲くうままし町

協あわす力に**いぶき**も新た

のびよ久遠くおんに我らが飯田

# 飯田市歌

犬塚 利国 作詞  
飯田 景広 編曲

一、山紫やまむらさきに 水明らかに

生業なりわい栄え 人皆和して

希望の光 遍あまねく充てり

げに飯田市の 輝く天地

二、南信濃の 陽は照り映はえて

四季行楽に 名を負うところ

観光都市の 誉れも添ひて

げに飯田市の 輝く前途

三、落葉に残す 千古の偉業

烈婦れつぷ偲たいしぶ 不断の煙り

大儒の松風 今なお高し

げに飯田市の 輝く誇り

四、ああ天恵てんけいに 幸負う我等

協同進取の 旗なびかせて

目指すは彼方 久遠くおんの理想

げに飯田市の 輝く使命

## 飯田市議会要覧 平成29年度版

発行日 平成29年6月発行

編集・発行 飯田市議会事務局  
〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534番地

TEL 0265-22-4523 (直通)  
0265-22-4511 (代表： 内線 5611)

FAX 0265-53-8821

E-mail [igikai@city.iida.nagano.jp](mailto:igikai@city.iida.nagano.jp)

URL <http://www.city.iida.lg.jp/>